

アジアの福祉

担当教員 高嶺 豊

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アジア地域は今経済的に驚異的な成長を続けているが、しかし、まだその多くは、開発途上の国である。これらの国々の社会福祉及び社会開発の取組を理解することにより、日本にいる我々がどのようにその国々に係わっていかかを学ぶ。さらに、アジア諸国との関係がさらに重要性を増す中、これらの国々の社会福祉の状況を知り、その発展に協力することは、日本の将来にとって、必要不可欠であることを理解する。

【授業の展開計画】

社会福祉と社会開発の定義、タイの社会福祉、地域開発とマイクロファイナンス（クレジット）、バングラデッシュと社会起業、社会起業とは、インドの社会福祉、貧困者をターゲットにしたビジネス、南インドの障害者自助団体の構築、国際金融機関と開発問題、環境問題と開発等。

講義（視聴覚教材）、グループワーク、グループディスカッション等により授業を進める。

週	授 業 の 内 容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席、グループディスカッションへの参加、レポート

【テキスト】

適宜ハンドアウトを配布する。

【参考文献】

適宜ハンドアウトを配布する。

医療福祉論 I

担当教員 樋口 美智子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・医療保険制度の概要、保健医療サービスの概要について理解する。
 - ・保健医療分野におけるソーシャルワーカーの機能と役割を理解し、基本的な知識・技術を獲得する。
- ・保健医療サービスにおける多職種協働について理解する。

【授業の展開計画】

- 1 医療福祉の概念、医療における尊厳と権利
- 2 医療ソーシャルワークの歴史と動向
- 3 医療政策の動向、国民の健康と疾病、医療保険制度・診療報酬制度の概要
- 4 保健医療サービスの概要、医療施設の機能
- 5 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際
- 6 医療ソーシャルワーカーの業務と役割
- 7 医療ソーシャルワーカーの業務指針
- 8 医療ソーシャルワーク業務の実際、援助過程、コミュニケーション、記録
- 9 保健医療サービス関係者との連携と実際
- 10 チーム医療における医療ソーシャルワーカーの役割
- 11 緩和ケアチームにおける医療ソーシャルワーカーの役割
- 12 救急医療における医療ソーシャルワーカーの役割
- 13 小児医療における医療ソーシャルワーカーの役割
- 14 地域医療における連携、多職種と協働する地域活動
- 15 これからの保健・医療・福祉サービスの動向
- 16 (補講・試験・追試験)

【履修上の注意事項】

医療ソーシャルワーカー志望者は履修が望ましい。
医療保険制度、介護保険制度の復習をしておくこと。

【評価方法】

出席日数、授業への参加姿勢、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

「MINERVA社会福祉士養成テキストブックー第15巻保健医療サービス」 / 「改訂保健医療ソーシャルワーク実践全3巻」 / 「保健医療の専門ソーシャルワーク業務指針の基本的解説」 / 「日本の医療ソーシャルワーク史」

医療福祉論Ⅱ

担当教員 樋口 美智子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・医療保険制度の概要、保健医療サービスの概要について理解する。
- ・保健医療分野におけるソーシャルワーカーの機能と役割を理解し、基本的な知識・技術を獲得する。
- ・保健医療サービスにおける多職種協働について理解する。

【授業の展開計画】

- 1 障害の概念、生活障害とソーシャルワーク、家族の理解
- 2 危機状況に陥りやすい背景をもつ人々への援助
- 3 周産期における課題と援助
- 4 新生児期・乳幼児期・学童期における課題と援助
- 5 思春期・青年期における課題と援助
- 6 壮年期・老年期における課題と援助
- 7 ソーシャルワーク記録とは何か
- 8 ソーシャルワーク実践のための面接技法
- 9 ケース スタディ①（ロールプレイ）
- 10 信頼関係を結ぶ面接技術①②
- 11 ケース スタディ②（ロールプレイ）
- 12 核心をはずさない相談援助面接の技法①
- 13 核心をはずさない相談援助面接の技法②
- 14 ケース スタディ③（ロールプレイ）
- 15 ターミナルケアにおける面接
- 16 （補講・試験・追試験）

【履修上の注意事項】

医療ソーシャルワーカー志望者は履修が望ましい。
医療福祉論Ⅰを履修済であることが望ましい。

【評価方法】

出席日数、授業への参加姿勢、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

大本和子・田中千枝子・大谷昭・笹岡真弓著、『医療ソーシャルワーク実践50例－典型的実践事例によるわかり易い医療福祉－』/川村隆彦著、『支援者が成長するための50の原則－あなたの心と力を築く物語－』

介護概論

担当教員 長嶺 利子

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

少子・高齢社会の進展に伴い介護問題は、社会福祉事業の重要な課題とされる。そのことから、社会福祉構造の変遷と介護の推移、介護問題（フォーマル・インフォーマル）や介護の専門性・理論性・原理性と要介護者の理解、生活（QOL、自立）支援並びに関係職種・関係機関とのチームワーク・ネットワークの関わりや地域福祉との今後の課題等々を理解し、人間福祉に関する専門知識、援助態度を養う。

【授業の展開計画】

テキストによる講義主体とする。テキストにない事業内容については、プリント資料をもって行う。介護の基本・地域保健・福祉の理解を深めるため、課題提出とグループワークやミニテストを行う。

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション・学生理解（アンケート）
2	介護の働き 介護の定義・介護の歴史・介護の機能
3	介護職の倫理 介護の原則
4	介護と社会福祉、家政、看護・医療との関係
5	介護関係維持のための技法 健康や生活の観察（観察の基本、具体的な観察の内容）
6	コミュニケーションの基本と対象者の状況に合ったコミュニケーション技法
7	記録と情報の共有化の技法 記録の目的、留意点、種類、情報の共有化
8	ケアマネジメントと介護活動、システム導入の背景、プロセス、方法、活動の意義や機能
9	ケアプラン（介護サービス計画）と介護過程、問題解決手法の利点や留意点、構成要素
10	社会生活を維持する技法、健康な生活習慣づくりへの援助
11	療養時の対応、緊急事故時の対応
12	介護家族への援助、福祉用具の活用、終末期の援助
13	障害形態に応じた介護技法、視覚・聴覚・精神障害者・認知症（痴呆）高齢者への介護
14	在宅・施設介護の実際（サービスの意義と基本理念、展開過程と留意点、事例）
15	学期末試験（筆記）
16	試験の解答 まとめ

【履修上の注意事項】

テキスト持参、予習・復習、提出物、目的意識を持って参加する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、筆記試験の得点、課題及びレポートを総合して評価する。

【テキスト】

【参考文献】

新版・社会福祉学習双書《第13巻》「介護概論」 全国社会福祉協議会 中央福祉学院 2002年
 社会福祉選書12「介護概論」 健帛社 平成16年、新介護福祉士養成講座15「資料編」中央法規2009年
 介護福祉士初任者のための実践ガイドブック 日本介護福祉士会初任者研修テキスト 中央法規2007年

介護技術 I

担当教員 一城間 雅己

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義は、介護技術の実技を含めた演習方式の授業により、介護・支援場面を実践的に考学しながら、自立のための支援とはどういうことなのかについて理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	支援の場面と実践
2	職業倫理と専門性
3	実技：柔軟体操をまなぶ
4	実技：イスからの立ち上がり（初歩的な介護技術）
5	実技：イスからの移乗
6	実技：特殊寝台を使用した介護技術
7	グループワーク
8	講義・実技：在宅介護・支援の現状
9	講義・実技：福祉用具の理解と活用
10	グループワーク
11	実技：歩行介護技術
12	実技：車いすの介護技術
13	講義・実技：生活行為と自立支援
14	グループワーク
15	まとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

今年度前期開講の「介護概論」がこの講義の履修条件になります。

講義中の服装は、動きやすい服装（上着はTシャツ・ポロシャツ、ズボン：ジャージ・トレパン）

【評価方法】

出席、課題、講義中の参加態度、最後の試験（実技試験含む）によって評価する

【テキスト】

【参考文献】

授業の中で紹介する。

家族社会学 I

担当教員 具志堅 邦子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「家族」を社会的に分析する力をつける。近代家族の構造を考察し、アディクションの生成過程から家族とコミュニティの再構築までを考える。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス
2. 家族研究の展開
3. 多様な家族のカタチ
4. 〈子供〉の誕生
5. 婚姻・性・家族
6. 近代的ジェンダーの完成
7. ロマンティック・ラヴ・イデオロギー
8. つくられた母性愛
9. 近代家族における〈子ども〉
10. 近代家族における〈古い〉
11. アディクションと家族 ①
12. アディクションと家族 ②
13. コミュニティと家族 ①
14. コミュニティと家族 ②
15. これからの家族
16. テスト

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが重要です。なお講義時に配布する資料は次回に持ち越して配布しません。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

家族社会学Ⅱ

担当教員 具志堅 邦子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「家族」を社会的に分析する力をつける。特に「日本」の家族と「沖縄」の家族に焦点を当てる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	家族研究の展開
3	通い婚
4	家意識の象徴
5	守姉という存在
6	贈与交換と家族
7	家族言説を問う ①
8	家族言説を問う ②
9	永続する家意識
10	経営主体としての家意識
11	新中間層の家族の誕生
12	高度経済成長期の家族
13	現代の家族の課題
14	析る対象の変換と家族
15	これからの沖縄の家族
16	テスト

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが重要です。なお講義時に配布する資料は次回に持ち越して配布しません。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

外国語演習 I

担当教員 大兼 千津子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学生らが英語で書かれた心理学の文献を読みこなすことができることがこの講義のねらいである。簡単な心理学用語を学びながら講読していき、原書でしか読み取れないニュアンスを学びながら心理学を学んでいく。英語で書かれた心理学の文献を読むことによって、原書を読む楽しさを学び、理解を深める。

【授業の展開計画】

- 1 週目 登録・オリエンテーション
- 2 週目 精神保健
- 3 週目 精神保健
- 4 週目 精神保健
- 5 週目 心理アセスメント
- 6 週目 心理アセスメント
- 7 週目 カウンセリング
- 8 週目 カウンセリング
- 9 週目 カウンセリング
- 10 週目 集団心理療法
- 11 週目 集団心理療法
- 12 週目 集団心理療法
- 13 週目 虐待、ドメスティックバイオレンス、神話
- 14 週目 虐待、ドメスティックバイオレンス、神話
- 15 週目 全体のまとめ

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。英語辞書を持参すること。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題及び小テストを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。

【参考文献】

参考文献は講義の中で紹介する。

外国語演習 I

担当教員 柳田 正豪

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

欧米からきた心理学は英語で触れることによってその専門用語・理論の由来・歴史などを理解することができる。また将来的に英語の文献を読む際に、この授業で学んだ心理学英語が役立てればと思う。前半はいくつかの分野を英語で勉強し、後半は実際に文献を読んでみる。

【授業の展開計画】

- 1 週目 登録・オリエンテーション
- 2 週目 Counseling
- 3 週目 Counseling
- 4 週目 Assessment
- 5 週目 Assessment
- 6 週目 Abnormal Psychology
- 7 週目 Abnormal Psychology
- 8 週目 Drug
- 9 週目 Drug
- 10 週目 Article 1
- 11 週目 Article 1
- 12 週目 Article 2
- 13 週目 Article 2
- 14 週目 復習
- 15 週目 期末テスト

【履修上の注意事項】

遅刻をしない。

【評価方法】

出席状況
レポート/期末テスト

【テキスト】

資料はその都度、配布予定

【参考文献】

外国語演習Ⅱ

担当教員 大兼 千津子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

外国語演習Ⅰで学んだものを元に、心理学関連の時事英語や研究論文を読みこなすことがこの授業のねらいである。最新の心理学情報や研究論文を原書で読みこなすことは、実践現場で働きながら大いに役立つことがある。

【授業の展開計画】

1週目	登録・オリエンテーション		
2週目	心理学関連	時事英語	原書講読 ①
3週目	心理学関連	時事英語	原書講読 ②
4週目	心理学関連	時事英語	原書講読 ③
5週目	心理学関連	時事英語	原書講読 ④
6週目	DSM	原書講読	①
7週目	DSM	原書講読	②
8週目	DSM	原書講読	③
9週目	DSM	原書講読	④
10週目	研究論文	原書講読	①
11週目	研究論文	原書講読	②
12週目	研究論文	原書講読	③
13週目	研究論文	原書講読	④
14週目	研究論文	原書講読	⑤
15週目	全体のまとめ		

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。英語辞書を持参すること。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題及び小テストを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。

【参考文献】

American Psychiatric Association. (1994). Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders: Fourth Edition. その他、参考文献は講義の中で適宜紹介する。

外国語演習Ⅱ

担当教員 柳田 正豪

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

後期は米国の中・高等学校で実際に行われているLifeSkills Program（薬物予防教育プログラム）を体験してもらう。どのようにしてこの心理教育プログラムが作られ、どのように心理学がこの薬物予防教育プログラムに生かされているかを学ぶ。後半はLifeSkills Programに関する文献を読む。

【授業の展開計画】

- 1 週目 登録・オリエンテーション
- 2 週目 LifeSkills Programについて
- 3 週目 Making Decision
- 4 週目 Coping with Anxiety
- 5 週目 Coping with Anger
- 6 週目 Communication Skills
- 7 週目 Social Skills
- 8 週目 Assertiveness
- 9 週目 Resisting Peer Pressure
- 10 週目 Article 1
- 11 週目 Article 1
- 12 週目 Article 2
- 13 週目 Article 2
- 14 週目 まとめ
- 15 週目 期末テスト

【履修上の注意事項】

遅刻をしない。

【評価方法】

出席状況
レポート/期末テスト

【テキスト】

資料はその都度、配布予定

【参考文献】

学習心理学 I

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学習とは、経験によって生ずる比較的永続的な行動の基礎過程の変化である。本講義では、学習心理学の歴史や現状について概説した上で、基本的な学習形態の1つである古典的条件づけを中心に、基本原理や関連する基本的概念及び最近の理論的問題について概説する。また、臨床への応用や日常生活との関連性についても理解を深めることを目標とする。また、学習心理学と関連の深い記憶研究についても概説する。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション/学習心理学とは
- 2 学習心理学の歴史と心理学の中での位置づけ
- 3 //
- 4 記憶の情報処理モデル（感覚記憶・短期記憶・長期記憶）
- 5 //
- 6 記憶の定着（リハーサルと符号化）
- 7 記憶の忘却
- 8 生得的行動パターン
- 9 馴化の基本原理
- 10 古典的条件づけの基本原理
- 11 //
- 12 CS-USの随伴性及び高次条件づけ
- 13 古典的条件づけの臨床への応用
- 14 //
- 15 古典的条件づけにおける生物学的制約 16回目にテストを行う

【履修上の注意事項】

学習心理学 I、II を続けて履修することが望ましい。

【評価方法】

期末テストの結果により評価する。テストは持ち込み不可。なお、出席日数が 2 / 3 に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

「メイザーの学習と行動」ジェームズ・E・メイザー著 磯博行/坂上貴之/川合伸幸訳 二瓶社
「コンパクト新心理学ライブラリ 2 学習の心理」 実森正子/中島定彦 著 サイエンス社

学習心理学Ⅱ

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、基本的な学習形態の1つであるオペラント条件づけに関して概説する。また、より洗練された学習形態である観察学習についても概説する。それぞれにおいて基本原理や基本概念、臨床への応用や、我々の日常生活との関連性についても理解を深めることを目標とする。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 オペラント条件づけの基本原理
- 3 "
- 4 オペラント条件づけの生物学的制約
- 5 "
- 6 強化スケジュール
- 7 "
- 8 回避と罰
- 9 "
- 10 オペラント条件づけの理論と研究
- 11 "
- 12 模倣理論
- 13 パーソナリティ形成と観察学習
- 14 恐怖症や認知的発達と観察学習
- 15 観察学習の臨床への応用 16回目にテストを行う

【履修上の注意事項】

学習心理学Ⅰを先に履修することが望ましい。

【評価方法】

期末テストの結果により評価する。テストは持ち込み不可。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

「メイザーの学習と行動」 ジェームズ・E・メイザー著 磯 博行/坂上貴之/川合伸幸 訳 二瓶社
「コンパクト新心理学ライブラリ2 学習の心理」 実森正子/中島定彦 著 サイエンス社

学校臨床心理学

担当教員 牛田 洋一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、学校における児童・生徒の成長・発達への臨床心理学的援助や学校コミュニティへの援助を進めるための基礎的知識を習得することを目的としている。また、スクールカウンセラーとしての視点から援助を進める上で、学校組織とどのように協調していくかについても検討していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 学校臨床心理学とは
2	沖縄県における小中学校の不登校、いじめなどの態様（1）
3	沖縄県における小中学校の不登校、いじめなどの態様（2）
4	学校臨床心理学の先進国：アメリカにおける学校心理学（1）
5	学校臨床心理学の先進国：アメリカにおける学校心理学（2）
6	学校コミュニティにおける緊急支援（1）
7	学校コミュニティにおける緊急支援（2）
8	学校臨床最前線から（1）いじめ
9	学校臨床最前線から（2）スクールカウンセラーと学校現場
10	学校臨床最前線から（1）不登校
11	学校臨床最前線から（1）思春期の自傷行為
12	学校での今日の問題（1）キレル子ども
13	学校での今日の問題（2）発達障害
14	スクールカウンセラーの事例検討
15	まとめ：学校臨床心理学とは
16	試験

【履修上の注意事項】

臨床心理学Ⅰ・Ⅱを受講していることが望ましい。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特にテキストは使用しない。講義の単元ごとに資料を配付する予定である。

【参考文献】

講義時に適宜紹介していく。

基礎演習

担当教員 前堂 志乃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、大学生活への適応支援と大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とします。前・後期を通じて大学で学ぶための基礎力を身につけるためのゼミ活動が主になります。学びの基本的なスキルとは、必要な情報を探し、収集する力、文献を読む力、文章を書く力、自分の考えを発表する力、討論する力（相手の意見を良く聞き、自分の意見をきちんと述べる）、などがあげられます。ゼミの参加者全員で、色々なテーマについて、読み、書き、考え、発表し、話し合い、主体的に取り組みながら、学びの力を身につけましょう。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストはとくに指定しない

【参考文献】

参考図書は講義時に、適宜紹介する。

基礎演習

担当教員 井村 弘子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この演習では、大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、聞いたことや調べたことを文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、相手の意見を聞き討論する力などである。ゼミ生全員で1つのテーマについて語り合ったり、個別テーマを設定してレポートを書き、発表したりする機会を通して学ぶことの面白さを発見しながら、心理カウンセリング専攻学生としての基本的・総合的な学びの力を修得していきたい。

【授業の展開計画】

演習の展開計画については、初回時に提示・説明する。
心理カウンセリング専攻全体での合同ゼミを4～5回含む。

【履修上の注意事項】

毎回出席が原則である。積極的に演習に参加する態度・姿勢が大切である。

【評価方法】

出席状況、演習への参加態度、課題発表の仕方、レポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

基礎演習

担当教員 平山 篤史

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とします。
大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。テーマに対する自分自身の問題意識や疑問をもち、それを明らかにするために必要な情報を集め、自分で考え、検討し、それをまとめ上げ、発表することも含めたものをさします。
基礎演習では、「学ぶ」ための基本的スキルを習得し、「学ぶ」ことの面白さを体験することを目指します。

【授業の展開計画】

講義計画については、初回の講義のときに説明する。
以下のプログラムを企画している。

- 1、コミュニケーションスキルを身につけるためのワーク
 - 2、情報収集・まとめる力・発表する力を身につけるためのワーク
 - 3、レポートの書き方についてのワーク
 - 4、大学で「学ぶ」とは
- 他のゼミとの合同ゼミも企画している。

【履修上の注意事項】

基本的に毎回出席することを原則とする。受身的ではなく、積極的に演習に参加する態度を求める。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

基礎演習

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、大学生活への適応支援と大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とします。前・後期を通じて大学で学ぶための基礎力を身につけるためのゼミ活動が主になります。学びの基本的なスキルとは、必要な情報を探し、収集する力、文献を読む力、文章を書く力、自分の考えを発表する力、討論する力（相手の意見を良く聞き、自分の意見をきちんと述べる）、などがあげられます。ゼミの参加者全員で、色々なテーマについて、読み、書き、考え、発表し、話し合い、主体的に取り組みながら、学びの力を身につけましょう。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストはとくに指定しない

【参考文献】

参考図書は講義時に、適宜紹介する。

基礎演習

担当教員 保良 昌徳

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

クラスでは、主にグループでの活動を通して、大学の学究活動に必要な検索力、資料収集能力、資料の分析や資料のまとめ方、さらにレポートや論文に関する理解や作成の方法、論理的な発表能力などを養うことを目的とする。

後半は、分析的な視点や資料に基づく立論、他人の意見の傾聴、批判的考察や討論する力を育てるために、グループ対抗の福祉をテーマとした「ディベート」を行う。

【授業の展開計画】

1. 後期の講義の持ち方の確認、夏期休暇中の課題の取り組みの報告
2. 新聞切り抜きを通してとらえられた自分の課題を報告
3. 上記の報告の完了
4. 自分の課題に関係する第一次資料について考え、調査計画を立てる
5. 図書館で自分が求める資料の検索し実物に触れ入手を試みる
6. 県庁・議会資料室を訪問、関連する公的資料の入手を試みる
7. 資料の確認とまとめ作業とレポートの書き方等を、実物を通して理解する
8. 分析（自分の資料から読み取れること）とまとめ作業、レポート作成
9. レポートの提出。レポートと論文の違い等について理解する
10. ディベートの意義と方法について理解・テーマの提示
11. ディベートに関わるグループ作業
12. ディベートに関わるグループ作業
13. ディベート① 総括
14. ディベート② 総括
15. 学んだことのふり返り・再確認
16. 資料の整理・報告書の作成

【履修上の注意事項】

1. 夏期休暇中は、フレッシュマンセミナーで確認した資料の収集（新聞切り抜き）を行い、学期はじめのクラスに持参すること。
2. グループ活動が中心になるので、互いに協力しチームワークを保つこと。

【評価方法】

1. 出席や遅刻、レポートの提出状況に対しては厳しく対応する。
2. グループ活動に支障をきたさないように注意すること。

【テキスト】

- *必要に応じて配布する。
- *レポートや論文の書き方に関する本に目を通すこと。

【参考文献】

- *レポートの書き方、論文の書き方に関する文献（自主的に目を通す）
- *ディベートの意義・すすめ方に関する文献（自主的に目を通す）

基礎演習

担当教員 岩田 直子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学の講義・演習で求められるレポート作成やゼミ発表等々の方法を学ぶと共に、大学の勉強の特徴について理解する。

ゼミメンバーどおしが高めあい、互いに成長しあえる環境の中で、視野を広げる場になることを期待する。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

本科目は、大学の講義で求められる基礎的な方法を共に学ぶ場です。ひとりひとりが積極的にゼミ活動に参加することが求められます。

【評価方法】

出席、ゼミ活動への参加度、レポートなどの提出状況、

【テキスト】

随時、資料を配付する予定

【参考文献】

基礎演習

担当教員 トナルト クレグ ウィルコックス

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習の目的は各自の大学生活へのスムーズな適応や、有意義な大学生活が送れるよう、基礎的能力を養うこととする。

【授業の展開計画】

演習計画については、初回の演習時に説明を行う。

1. オリエンテーション
2. 文献を使いこなす・文献の探し方
3. 研究論文の読み方
4. レポートを書く技術 1
5. レポートを書く技術 2
6. 専門演習について 1
7. 専門演習について 2
8. 口頭発表の仕方
9. グループ発表 1
10. グループ発表 2
11. グループ発表 3
12. グループ発表 4
13. まとめ

計画として合同ゼミもある。
個別ゼミは上記の計画とする。

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしない。

【評価方法】

出席状況、演習中の議論、発表の内容など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

よくわかる学びの技法第2版（ミネルヴァ書房）田中共子編

【参考文献】

よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明・高橋一郎著
演習に応じて適宜紹介する

基礎演習

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

高校までの勉強は、既存の知識を「学」ぶことに重点がおかれてきたが、大学では将来に向けての専門知識を学習するだけでなく、その知識が正しく理解できたかどうかを問う、確認する能力やあらたに問題を発見し、その解決方法を見いだす能力を身につけていくことが求められる。本講義では「学」ぶ、そして「問」う能力の基本となる、読む、書く、話す、聞くことを中心にゼミを展開する。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	ゼミメンバー紹介・仲良くなるろう
3	グループエンカウンター1 自己覚知
4	グループエンカウンター2 リチュアルエクササイズ
5	グループエンカウンター3 他者紹介
6	グループエンカウンター4 将来願望
7	他ゼミとの合同ゼミ
8	グループワーク 1
9	グループワーク 2
10	グループワーク 3
11	グループワーク 4
12	学外講師招聘
13	グループワークまとめ 1
14	グループワークまとめ 2
15	グループワーク報告会
16	振り返り

【履修上の注意事項】

読む、書くことによって自分の意見をまとめ、発表によって話す態度を、他の発表を聞くことによって傾聴の態度が身につくことを念頭にゼミ活動には積極的に参加してほしい。

【評価方法】

出席回数を客観的評価指数とし、その他に意見発表、傾聴姿勢、レポート提出などを含めて総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。資料は随時配布する。

【参考文献】

演習時間に随時紹介する。

基礎演習

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

キャリア・カウンセリング

担当教員 大兼 千津子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、キャリア・カウンセリングを学ぶのに不可欠な心理学的な視点を理解し、心理学の基礎知識を持つことを目的とします。講義の中では、キャリア・カウンセリングの土台となるキャリアに関する心理学の理論やアプローチを学びます。キャリア教育や産業カウンセリングを学ぶことにより、キャリア・カウンセリングの実践・応用について理解を深めます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション
2	キャリア発達の各アプローチ
3	ドナルド・スーパー 「ライフ・スパン／ライフ・スペース理論的アプローチ」
4	ジョン・ホーランド 「6角形モデル」
5	ジョン・クルンボルツ 「学習理論」「社会的学習理論」
6	ハリィ・ジェラット 「意思決定アプローチ」
7	エドガー・シャイン 「組織心理学」「キャリア・アンカー」
8	ナンシー・シュロスバーグ 「トランジッション」
9	ダグラス・ホール 「関係性アプローチ」
10	サニィ・ハンセン 「統合的生涯設計」
11	マーク・ザビカス 「キャリア構築理論」
12	キャリア教育
13	キャリア教育
14	産業カウンセリング
15	産業カウンセリング
16	

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。授業中の携帯使用不可。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題及びテストを総合的に評価する。

【テキスト】

渡辺 三枝子 (2009) 「新版 キャリアの心理学—キャリア支援への発達のアプローチ」
ナカニシヤ出版

【参考文献】

Duane Brown (2011) 「Career Information, Career Counseling, and Career Development / Edition 10」, Allyn and Bacon

教育心理学 I

担当教員 渡嘉敷 あゆみ

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「教育心理学」とは、学び手が自分の能力を最大限にまで伸ばし成長・発達するための援助方法について研究する心理学の領域である。本講義では、その知見提供と教育行為実践力の養成を行いたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション:教育心理学とは
2	発達① 発達段階、定型発達の様相
3	発達② 発達要因(遺伝・環境)の諸理論(1)
4	発達③ 発達要因(遺伝・環境)の諸理論(2)
5	発達④ 知能の構造・規定因、知能検査
6	学習① 条件づけ
7	学習② 試行錯誤学習、洞察学習
8	動機づけ、達成動機、原因帰属
9	学習③ 記憶のメカニズム
10	教育評価:教育評価の目的・種類
11	グループワーク① 事例を通して教育心理学の視点を学ぶ
12	グループワーク② 事例を通して教育心理学の視点を学ぶ
13	グループワーク③ 事例を通して教育心理学の視点を学ぶ
14	グループワーク④ 事例を通して教育心理学の視点を学ぶ
15	グループワーク⑤ 事例を通して教育心理学の視点を学ぶ
16	テスト

【履修上の注意事項】

- ・この講義は教職科目ではありませんので、注意してください。
- ・グループワークがありますので、受講にあたっては積極的な姿勢で臨んでください。

【評価方法】

出席、授業態度、ワークシート、テストで総合評価します。

【テキスト】

なし。随時、資料を配付します。

【参考文献】

『やさしい教育心理学 改訂版』 鎌原・竹綱(著) 有斐閣アルマ
その他、講義中に紹介します。

教育心理学Ⅱ

担当教員 渡嘉敷 あゆみ

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「教育心理学」とは、学び手が自分の能力を最大限にまで伸ばし成長・発達するための援助方法について研究する心理学の領域である。本講義では、その知見提供と教育行為実践力の養成を行いたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：教育心理学とは
2	学び手を理解する視点①
3	学び手を理解する視点②
4	学び手を理解する視点③
5	学び手を理解する視点④
6	教え手のリーダーシップ①
7	教え手のリーダーシップ②
8	学び手のメンタルヘルス①
9	学び手のメンタルヘルス②
10	教え手のリーダーシップ③
11	グループワーク① 事例を通して教育心理学の視点を養う
12	グループワーク② 事例を通して教育心理学の視点を養う
13	グループワーク③ 事例を通して教育心理学の視点を養う
14	グループワーク④ 事例を通して教育心理学の視点を養う
15	グループワーク⑤ 事例を通して教育心理学の視点を養う
16	テスト

【履修上の注意事項】

- ・この科目は教職科目ではありませんので、注意して下さい。
- ・「教育心理学Ⅰ」を履修済みであることが望ましいです。
- ・グループワークがありますので、積極的な参加を求めます。

【評価方法】

出席、授業態度、ワークシート、テストで総合評価します。

【テキスト】

なし。随時、資料を配付します。

【参考文献】

『やさしい教育心理学 改訂版』 鎌原・竹綱（著） 有斐閣アルマ
その他、講義中に紹介します。

グループアプローチ

担当教員 平山 篤史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

集団心理療法の技法を利用したグループ活動を行う。具体的には、レクリエーション的活動、ロールプレイング、心理劇の実習を行う。集団の成員が相互に影響を及ぼしあうこと、他者とのコミュニケーション、自発性や創造性の発揮、自己理解と他者理解、集団場面での自分の役割、集団場面でのリーダーのあり方について体験的に学ぶ。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 ウォーミングアップ的活動
- 3 対人交流を目的としたグループ活動①
- 4 対人交流を目的としたグループ活動②
- 5 対人交流を目的としたグループ活動③
- 6 自己理解・他者理解を目的としたグループ活動①
- 7 自己理解・他者理解を目的としたグループ活動②
- 8 自己理解・他者理解を目的としたグループ活動③
- 9 自発性の発揮を目的としたグループ活動①
- 10 自発性の発揮を目的としたグループ活動②
- 11 自発性の発揮を目的としたグループ活動③
- 12 役割演技と適応
- 13 心理劇の体験①
- 14 心理劇の体験②
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

グループ活動の実践が中心になるので、参加メンバーとの相互の積極的交流が求められる。活動中も意見や感想を述べる機会が多く与えられる。積極的に他のメンバーと交流し、発言し、他者との関わりを楽しんでほしい。身体運動を伴う活動も行うので、それにふさわしい服装で参加すること。

【評価方法】

出席状況、授業での活動への取り組みと毎回提出するミニレポート、期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

適宜配布資料を用意する。

【参考文献】

臨床心理劇入門 台利夫 ブレーン社
SSTウォーミングアップ活動集 前田ケイ 金剛出版

ケアマネジメント論

担当教員 島村 枝美

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ケアマネジメントは、地域で生活する要援護者を社会資源につなぎ、究極の目標は、サービス利用者が力（エンパワメント）を取り戻し、地域での新しい支援ネットワークの構築で、住み慣れた地域社会（在宅）での生活を可能にするために機能する。

本講義では、ケアマネジメントの理念や目的を初め、ケアマネジメントの機能、現状等について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義概要、講義日程他）
2	ケアマネジメントの目的と概念
3	ケアマネジメントによる支援
4	ケアマネジメントとソーシャルワーク
5	ケアマネジメントの構成要素
6	ケアマネジメントのプロセス
7	コミュニティケアとケアマネジメント
8	介護保険制度とケアマネジメントの関係
9	サービス利用とケアプラン
10	ケアプラン（ケアマネジメント）の実際①
11	ケアプラン（ケアマネジメント）の実際②
12	在宅生活支援とリスクマネジメント
13	ケアマネジメントとコミュニティソーシャルワーク①
14	ケアマネジメントとコミュニティソーシャルワーク②
15	ケアマネジメントの総括（現状と課題）
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

遅刻や講義中の私語はしない。課題レポートは積極的に取り組み自己研鑽をしていただきたい。

【評価方法】

成績評価は、出席状況、授業態度、レポート、発表、試験等の総合評価によって行う。

【テキスト】

指定なし。適宜レジュメを配布する

【参考文献】

講義で紹介する。

健康スポーツ科学論

担当教員 一笹澤 吉明

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

健康・スポーツ科学に関する基礎的理論、すなわち、健康、体力、肥満・痩せ、栄養、運動・トレーニング等を学び、自身や家族の生涯に亘る健康管理に役立て、将来、健康・スポーツ関連の指導者としての実践に応用する基礎を養う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（スポーツ科学、健康科学に関する理論の必要性とその意義）
2	健康とは①（健康の背景、新健康フロンティア戦略、健康日本21）
3	健康とは②（健康の背景、新健康フロンティア戦略、健康日本21）
4	適切な生活習慣①（生活習慣病、死の四重奏、メタボリックシンドローム、健康診断・保健指導）
5	適切な生活習慣②（生活習慣病、死の四重奏、メタボリックシンドローム、健康診断・保健指導）
6	肥満・痩せと生活習慣病（生活習慣病と肥満、肥満を解消する運動と食事）
7	健康・体力の維持増進①（体格・体力の測定評価、運動の仕組み、トレーニング）
8	健康・体力の維持増進②（体格・体力の測定評価、運動の仕組み、トレーニング）
9	競技スポーツのトレーニング①（競技スポーツの分類、専門的トレーニングの要素及び方法）
10	競技スポーツのトレーニング②（競技スポーツの分類、専門的トレーニングの要素及び方法）
11	栄養と健康・スポーツ①（栄養とは、食生活の見直し、健康のための食事と健康）
12	栄養と健康・スポーツ②（栄養とは、食生活の見直し、健康のための食事と健康）
13	運動・スポーツの安全性（体温調節、熱中症、ウォーミングアップ、ストレッチング）
14	運動・スポーツによる外傷、障害（スポーツ障害と予防、救命救急、応急処置）
15	女性・高齢者の健康とスポーツ（女性・高齢者の運動の重要性、女性、中・高齢者の生理的特徴）
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席状況（5回以上の欠席は単位取得不可とする）、レポート、期末試験、授業態度を総合評価する

【テキスト】

健康・スポーツ科学の基礎 出村慎一著 杏林書院

【参考文献】

講義で適宜紹介

権利擁護と成年後見制度

担当教員 照屋 俊幸

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

高齢者虐待や高齢者を狙い打ちにした消費者被害が起こっている。社会福祉の専門家を志す人は、このような出来事に心情的に思いを寄せるだけでなく、現実には、高齢者の利益を守る活動に出る必要がある。そのためには、認知症高齢者等の権利擁護の担い手としては、どのような者がいるのか、それぞれどのような役割を果たすことが期待されているのかを知らなければならない。とりわけ成年後見制度の仕組みと狙いを理解することが重要である。この講義では、ビデオ上映や現場で活躍する人の生の声を聞き、具体的な場面をイメージしながら法律制度の仕組みを「考えて」もらうことを主眼とする（そのため、講義では、受講生に対し講師からの質問が日常的

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	各回の講義内容の予告等
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	期末試験
16	試験問題の解説等

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験の結果を最重視する。ただし、講義の前半で実施される試験の結果は、評価の対象としない。

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座 『権利擁護と成年後見制度』（最新版）、中央法規

【参考文献】

芸術療法

担当教員 中山 さおり

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

芸術療法とは、様々な表現活動をとおして行う心理療法の方法です。「芸術」というと人によっては高尚なものをイメージするかもしれませんが、子どもが絵をかき歌い踊り工作することを楽しむような、人の自然な活動を生かしていこうとするものです。芸術療法には多くの種類がありますが、本講義では、絵画・コラージュ・詩歌などの技法を中心に解説し実習を行い、表現することが心にとって持つ意味、非言語的な人とのやりとりについて、体験的に学習することを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、概説
2	概説
3	絵画療法 ①
4	絵画療法 ②
5	絵画療法 ③
6	絵画療法 ④
7	絵画療法 ⑤
8	コラージュ療法 ①
9	コラージュ療法 ②
10	コラージュ療法 ③
11	コラージュ療法 ④
12	詩歌療法 ①
13	詩歌療法 ②
14	詩歌療法 ③
15	予備日
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・実習では共同作業や話し合いを行うことがあります。他学生の作品を批判したり軽んじたりせず、肯定的に受けとめあいともに楽しむ態度を望みます。
- ・文房具や画材の持参を求めることがあります（はさみ、のり、クレヨンなど。講義で説明します）。
- ・授業の展開計画は適宜変更する可能性もあります。なお抽選となった場合は4年次より優先して行います。

【評価方法】

授業への参加姿勢、実習時のミニレポート、期末試験を総合的に評価します。

【テキスト】

指定なし。適宜レジュメを配布します。

【参考文献】

授業で紹介していきます。

現代社会とジェンダー

担当教員 一知念 ウシ

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄を取り巻く状況を植民地主義、ジェンダーの視点で考え、グローバルに問題提起する力を養います。知念ウシの『ウシがゆく』『あなたは戦争で死ぬますか』、野村浩也『無意識の植民地主義—日本人の米軍基地と沖縄人』『植民者へ—ポストコロニアリズムという挑発』、竹下小夜子『性T0生』を扱いながら、映像や文章を「わたし」「沖縄・琉球」「植民地主義」、「ジェンダー」の4次元から、分析批評するレポートの提出を行います。

【授業の展開計画】

詳細は講義にて説明予定

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートで評価する。

【テキスト】

知念ウシ『ウシがゆく』（沖縄タイムス社）、野村浩也『無意識の植民地主義—日本人の米軍基地と沖縄人』（御茶の水書房）

【参考文献】

野村浩也編『植民者へ—ポストコロニアリズムという挑発』（松籟社）、知念ウシ他著『あなたは戦争で死ぬますか』（NHK出版）、竹下小夜子『性T0生』（沖縄タイムス社）、藤原書店編集部編『「沖縄問題」とは何か』（藤原書店）ほか。

現代社会と福祉

担当教員 保良 昌徳・岩田 直子

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

この講義では、「社会福祉」という実践そして学問としての営みを理解するための基本的パラダイムの構築を目的とする。福祉をめぐる原理・倫理の理解、福祉政策・制度の歴史とその意味、福祉実践と制度の課題、福祉実践への関連法の与える影響などをテーマに講義を組み立てていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	社会福祉とは何か（その定義をめぐって）	17	社会福祉提供システム
2	社会福祉とは何か（専門職なのか？）	18	地域福祉のパラダイムと実践
3	福祉の思想と哲学（市場原理と福祉）	19	社会福祉基礎構造と福祉実践
4	福祉の思想と哲学（自己決定と支援の哲学）	20	福祉サービス提供の意味するもの
5	福祉政策の理論と実際（行政と福祉）	21	資源の構築に向けて
6	福祉政策の理論と実際（民間事業所と資源）	22	専門家アイデンティティの功罪
7	福祉政策の理論と実際（福祉サービス）	23	援助の実際（直接対人援助）
8	福祉政策の発展過程（国外の歴史から）	24	援助の実際（集団援助と地域への介入）
9	福祉政策の発展過程（国内の歴史から）	25	援助の実際（行政との対峙と協働）
10	福祉サービス提供のパラダイム	26	
11	法制度の実践への影響	27	
12	社会福祉用語の言説（ナラティブ）	28	
13	政策としての福祉（レジームの比較）	29	
14	政策としての福祉（諸制度の比較）	30	後期テスト
15	前期テスト	31	
16	福祉が提供するもの・支援するもの		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、課題提出、授業態度、講義中の課題の提出にもとづき評価する。

【テキスト】

講義のなかで詳細を伝える。

【参考文献】

公衆衛生学 I

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

公衆衛生学とは、ある特定の地域や環境における集団の疾病を予防し、心身の健康を図ることを目的とする学問である。本講義では、社会・生活環境、格差や心理状態と健康との関連性、疫学や様々な保健領域に視点を置いた上で、特に公衆衛生分野におけるソーシャルワーカーの役割について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientation オリエンテーション
2	The Significance of Public Health 公衆衛生の概念意義
3	History and Background of Public Health 公衆衛生の歴史的背景
4	Public Health Activities: Basic Concepts and Activities I 公衆衛生活動の基本概念I
5	Public Health Activities: Basic Concepts and Activities II 公衆衛生活動の基本概念II
6	Population Health Statistics I 人口統計I
7	Population Health Statistics II 人口統計II
8	Epidemiology I 疫学I
9	Epidemiology II 疫学II
10	Health throughout the Life Course ライフコースを通じての健康
11	Environmental Health 環境保健
12	Health and the Workplace 産業保健
13	School Health 学校保健
14	Nutritional Epidemiology 栄養疫学
15	International Health 国際保健
16	Final Exam 期末テスト

【履修上の注意事項】

- ・上記の問題においてクラス討論が重要になるので、学生はテキスト・文献等をクラスの前に読むこと。
- ・文献やクラス討論は、英語と日本語を併用する。

【評価方法】

出席状況、課題レポートの内容、講義中の議論内容、期末試験、授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

近藤克則(2005)『健康格差社会－何が心と健康を蝕むのか』医学書院

【参考文献】

眞野喜洋(2002)『スタンダード公衆衛生学』文光堂

近藤克則編(2007)『検証「健康格差社会」介護予防に向けた社会疫学的大規模調査』医学書院

その他、適宜資料を配布または紹介する

公衆衛生学Ⅱ

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

公衆衛生学とは、ある特定の地域や環境における集団の疾病を予防し、心身の健康を図ることを目的とする学問である。本講義では、社会・生活環境、格差や心理状態と健康との関連性、疫学や様々な保健領域に視点を置いた上で、特に公衆衛生分野におけるソーシャルワーカーの役割について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientation オリエンテーション
2	Introduction to Social Epidemiology 社会疫学序論
3	Social Determinants of Health 健康の社会的な決定要因
4	SES and Health 学歴・職業・所得と健康
5	Social Inequality and Health 社会格差と健康
6	Social Relationships and Health I 社会関係と健康I
7	Social Relationships and Health II 社会関係と健康II
8	Affective States and Health 心理状態と健康
9	Depression and Medical Illness 鬱と疾患
10	Social Capital and Health I ソーシャルキャピタルと健康I
11	Social Capital and Health II ソーシャルキャピタルと健康II
12	Health Behaviors in a Social Context 社会的文脈における保健行動
13	The New Public Health 新たな公衆衛生
14	Psychosocial Intervention 心理社会的介入
15	Mobilizing Community Health Resources 地域保健資源の動員
16	Final Exam 期末テスト

【履修上の注意事項】

- ・上記の問題においてクラス討論が重要になるので、学生はテキスト・文献等をクラスの前に読むこと。
- ・文献やクラス討論は、英語と日本語を併用する。

【評価方法】

出席状況、課題レポートの内容、講義中の議論内容、期末試験、授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

近藤克則(2005)『健康格差社会－何が心と健康を蝕むのか』医学書院

【参考文献】

眞野喜洋(2002)『スタンダード公衆衛生学』文光堂

近藤克則編(2007)『検証「健康格差社会」介護予防に向けた社会疫学的大規模調査』医学書院

その他、適宜資料を配布または紹介する

更生保護制度

担当教員 知名 孝

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

法を犯した者が償いを終えて生きる場は、社会・地域であり、その人たちの立ち直りは地域で完結する。更生保護とは、犯罪や非行をした人の立ち直りを支援し、地域生活を定着してもらうための支援あり方である。この講義では、那覇保護観察所からの講師派遣協力のもと、司法機関・制度、更生保護施設、精神科医療における医療観察制度、就労支援を含む地域生活支援のための支援機関と更正保護行政についてふれていく。

【授業の展開計画】

この講義は、1単位全8回の講義を予定している。

週	授 業 の 内 容
1	導入・刑事司法のなかの更正保護・非行犯罪臨床の概要
2	保護観察と生活環境の調整
3	更正保護制度の担い手
4	更正保護制度における関係機関・団体との連携
5	精神科医療と医療観察法
6	医療観察制度の概要
7	更正保護の実際と今後の展望
8	講義のまとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

『新・社会福祉士養成講座20巻 更生保護制度』（中央法規）

【参考文献】

行動療法

担当教員 上田 幸彦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

行動療法・認知行動療法の基本的な考え方、技法、対象について概説する。認知行動療法は、近年、その効果が科学的に実証され世界的に最も用いられることが多い心理療法である。他の心理療法との違いも踏まえながら、精神科領域に止まらず、一般医療、教育、福祉など広範囲に適用されている所以を理解することをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	行動療法とは
2	行動療法の歴史
3	行動療法の基礎となる学習理論
4	行動療法の技法①系統的脱感作法
5	事例
6	行動療法の技法②リラクゼーション法
7	行動療法の技法③暴露反応妨害法
8	事例、行動療法の技法④応用行動分析・事例
9	社会的学習理論、行動療法の技法④ソーシャルスキルトレーニング
10	認知行動療法とは、
11	うつ病の認知行動療法：認知の歪み
12	認知行動療法の技法①：非機能的思考記録
13	認知行動療法の技法②：セルフモニタリング、思考停止法、他
14	アルコール依存の認知行動療法①
15	アルコール依存の認知行動療法②
16	テスト

【履修上の注意事項】

授業の事前準備として、参考文献は一読しておくこと。
 板書されたことはもちろん、授業中に話したことは、必ずノートに取ること。
 授業中の私語、携帯電話の使用は当然、認められない。

【評価方法】

成績は、授業への参加状況、学年末試験によって総合的に判断する。

【テキスト】

【参考文献】

行動療法 内山喜久雄 著 日本文化科学社 1700円
 認知行動療法の理論と実際 岩本隆茂・大野 裕・坂野雄二 共編 培風館 3700円

高齢者に対する支援と介護保険制度

担当教員 安次富 郁哉・保良 昌徳

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講義のねらいは、まず、高齢者の特性を理解し、高齢者を取り巻く社会環境と問題点を理解する。次に、高齢者保健福祉施策と高齢者支援のための関係法規を習得する。さらには、2000年にスタートした介護保険制度について理解し、説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス	17	介護保険制度① 全体像 改正介護保険法
2	高齢者を理解する① 身体と心の変化	18	介護保険制度② 改正介護保険法
3	高齢者を理解する② 高齢者の生活	19	介護保険制度③ 要介護認定のプロセス
4	少子高齢社会と高齢者を取り巻く諸問題	20	介護保険制度④ 要介護認定のプロセス
5	老人福祉施策①	21	介護保険制度⑤ サービス体系 居宅
6	老人福祉施策②	22	介護保険制度⑥ サービス体系 居宅
7	老人福祉施策③	23	介護保険制度⑦ サービス体系 施設
8	老人福祉施策④	24	介護保険制度⑧ サービス体系
9	老人福祉施策⑤	25	介護保険制度⑨ 介護予防サービス
10	老人福祉施策⑥	26	介護保険制度⑩ 地域支援事業
11	老人福祉施策⑦	27	介護保険制度⑪ 地域密着型サービス
12	老人福祉施策の流れ①	28	介護保険制度⑫ 社会資源連携
13	老人福祉施策の流れ②	29	介護保険制度⑬ 社会資源連携
14	老人福祉施策の流れ③	30	後期振り返り
15	前期振り返り	31	筆記試験実施
16	後期オリエンテーション		

【履修上の注意事項】

本講義はわが国における高齢社会および高齢者を取り巻く現状を十分に理解することができる。単に受験資格科目としてではなく、高齢者を知る、高齢社会を知る、介護保険制度を知るという今高齢社会に生きる国民の基本的な知識を身につけるという認識で受講してもらいたい。本講義は前期を保良昌徳、後期安次富郁哉が担当する。

【評価方法】

前期、後期に実施する試験によって評価する。なお、出席状況も評価の対象とする。

【テキスト】

「高齢者に対する支援と介護保険制度」中央法規 社会福祉士養成講座

【参考文献】

「国民衛生の動向」「高齢社会白書」などを参考書として指定するが、その他については講義の中で随時紹介する。

国際関係論

担当教員 ダグラス ラミス

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現在の国際関係は、いくつかの前提に成り立っている。そしてそれらは、「前提」である以上、あまり議論・疑問・検証の対象にはならない。この授業は、それぞれの前提を取り上げて、改めて考えたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	戦争論 趣旨の説明
2	戦争論 ホッブズの戦争論
3	戦争論 ホッブズの戦争論
4	戦争論 ホッブズの戦争論
5	戦争と国家 「正当な暴力の独占」とはなにか
6	戦争と国家 「正当な暴力の独占」とはなにか
7	正義の戦争とはなにか 正戦論
8	正義の戦争とはなにか 正戦論
9	現在における『帝国』とはなにか 帝国論
10	現在における『帝国』とはなにか 帝国論
11	現在における『帝国』とはなにか 帝国論
12	非暴力論 ガンジーの思想
13	非暴力論 ガンジーの思想
14	非暴力論 ガンジーの思想
15	まとめ
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

学期末試験

【テキスト】

【参考文献】

ホッブズ『ラヴァイアサン』1（岩波文庫）、ラミス『憲法と戦争』（晶文社）、ラミス『ガンジーの危険な平和憲法』（集英社）、ラミス「帝国を設けて、なにが悪いのか」（配布）

コミュニティ心理学

担当教員 大嶺 和歌子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①我々の生活で起きる問題をコミュニティという枠組みで捉えるコミュニティ心理学を紹介する。
 ②社会的文脈に人間存在を位置づけることで、人が本来もっている強さとコンピテンスを重視する。エンパワメント等を紹介し、問題解決への選択肢を拡げることがを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	コミュニティ心理学とは何か：コミュニティ心理学の定義
3	人と環境の適合－生態学的アプローチ：様々な理論の紹介
4	予防①：予防の種類・事例「いじめ」
5	予防②：事例「介護スタッフのバーンアウトの予防」・予防の倫理的問題
6	ストレスとコーピング
7	危機介入とコンサルテーション①：危機介入
8	危機介入とコンサルテーション②：コンサルテーション
9	ソーシャルサポートとセルフヘルプ①：ソーシャルサポート
10	ソーシャルサポートとセルフヘルプ②：セルフヘルプ
11	エンパワメント：定義と批判
12	コミュニティ感覚と市民参加：コミュニティ感覚
13	コミュニティ感覚と市民参加：市民参加
14	理論と実践の連携
15	期末試験
16	

【履修上の注意事項】

教科書必携

【評価方法】

期末テストを70点配分で行い、出席30点配分と合算して評価を行う。評価＝出席（30点）＋期末テスト（70点）
 出席は一言カードの提出で確認する。
 一言カードは授業開始前に配布し、その日の授業内容にちなんだ課題を記入し提出してもらう。
 テストは客観式テストを行う。

【テキスト】

植村勝彦 コミュニティ心理学入門 ナカニシヤ出版

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

社会科学研究法

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義の目的は、社会の出来事を論理的に考察し、表現するための技能を習得することである。専門的な分野も含めた情報収集の方法や、集めた情報をもとに考察したことを論文として書き表す方法を学び、社会福祉士として必要なレポート作成力を身につける。

【授業の展開計画】

本講義では、宿題も活用しながら、実際に情報を収集し、整理、考察を行い、論文として表現する練習を行う。最初に先輩の卒業論文を読んでどんな文章を書けばよいかを把握し、論文の書き方について講義した後、各々興味のある者同士でチームを作って文献調査し、レポートを作成する

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（宿題あり。配布された卒業生の卒論コピーを読んでくること。）
2	宿題に出した卒論を解説
3	社会的な出来事について「知り」「考え」「伝える」とはどういうことか
4	社会的な出来事について「知る」方法（1）—リアリティの捉え方
5	社会的な出来事について「知る」方法（2）—文献調査のしかた
6	社会的な出来事について「考える」方法—どう情報を整理するか
7	社会的な出来事について「伝える」方法—効果的な論文執筆のルール
8	（3～7週にかけて宿題あり。新聞や雑誌などから、自分の興味を引く資料を集めておく）
9	「今、自分が興味を持っていること」について1分スピーチとスピーチ内容によるグループ分け
10	以下、15週目まで、手分けして文献調査～レポート作成。テスト期間最終日までに提出。
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

授業では実際に論文を作成する作業をしている時間が長いので、その作業にきちんと参加すること。

【評価方法】

出席状況を10%、授業への参加を40%、課題レポートで50%として評価する。

【テキスト】

適宜、配布する。

【参考文献】

朝日新聞社『勉強のやり方がわかる』AERA Mook ; 98、2004年。
今田高俊編『社会学研究法・リアリティの捉え方』有斐閣、2000年。

社会学概論 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

「社会学ってなに?」と考えると、すぐさま高校までの社会科を思い起こし拒絶感や虚脱感を抱く学生も少なくないはずだ。ところが、社会学とはこれまでの社会科の知識を一旦忘れても構わない。社会学は、自分自身が生きる日常世界に対して疑問や関心さえあれば誰にでも飛び込むことができる学問なのである。つまり「自分」なのである。「わたしって何者なのか、今この世の中でどう生きているのか/生かされているのか」という問いが大切なのだ。「自己」「他者」「自明性」について考える方向感覚を身につけていく作業⁷。そのものが、社会学であるともいえる。

【授業の展開計画】

毎回の講義に際しては、まず冒頭で前回の講義内容に関する「おさらい」的な応答で開始する。次に、講義の本題では教員からの発話を中心となるが、適宜、学生への発問や応答を求めることもある。

週	授 業 の 内 容
1	社会学概論 I への招待
2	社会学の歴史①
3	社会学の歴史②
4	権力論から読み解く社会学①—初級編：ウェーバーを中心に
5	権力論から読み解く社会学②—基本編：行為・社会関係・制度
6	権力論から読み解く社会学③—フーコー I：視線と身体
7	権力論から読み解く社会学④—フーコー II：規律と管理
8	権力論から読み解く社会学⑤—応用編 I：sex、gender、sexuality
9	権力論から読み解く社会学⑥—応用編 II：行為の複数文脈とカテゴリーの凝固
10	権力論から読み解く社会学⑦—応用編 III：高度経済成長と母性神話
11	権力論から読み解く社会学⑧—応用編 IV：アメリカ化と家父長制
12	権力論から読み解く社会学⑨—応用編 V：ナショナルな商品広告
13	権力論から読み解く社会学⑩—応用編 VI：精神安定剤としての TV ドラマ
14	権力論から読み解く社会学⑪—応用編 VII：メディア化と個室化
15	社会学概論 I のまとめ
16	テストまたは補習

【履修上の注意事項】

講義の中で発問やミニ課題等も与える。それに対する応答も評価に加える。

【評価方法】

出席および受講状況（20%）、ミニ課題および発問への応答状況（20%）、課題の提出状況およびその内容評価（60%）。

【テキスト】

テキストの指定はとくにないが、適宜紹介していく。

【参考文献】

テキストの指定はとくにないが、適宜紹介していく。

社会学概論Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期の社会学概論Ⅰでは日常の中の権力性を読み解く視点を紹介するが、後期のⅡでは「資本」のメカニズムと社会構造との関係性について考えていく。ただし、本講義で使用する「資本」とは経済的な意味だけではなく、社会関係や文化など広い意味での「価値」や「利益」のことを意味する。とくに言説やイメージなどに依拠した文化資本の生産・消費・差異化は、社会関係や経済的地位とどのように関連しているのか、日常に見受けられるその具体的な問題を提起していく。

【授業の展開計画】

毎回の講義に際しては、まず冒頭で前回の講義内容に関する「おさらい」的な応答で開始する。次に、講義の本題では教員からの発話を中心となるが、適宜、学生への発問や応答を求めることもある。

週	授 業 の 内 容
1	社会学概論Ⅱへの招待
2	「資本」とは何か—文化資本を中心に社会学から考える
3	「資本」の投資とく社会>というゲームへの参加
4	「資本」の投げ方①—演技論
5	「資本」の投げ方②—発話とボキャブラリー
6	「資本」の社会学的探究①—差別問題を考えるⅠ：いじめも差別である
7	「資本」の社会学的探究②—差別問題を考えるⅡ：差異化と価値づけ
8	「資本」の社会学的探究③—差別問題を考えるⅢ：欲望とイメージの類推
9	「資本」の社会学的探究④—差別問題を考えるⅣ：シンボル化と過剰供給
10	「資本」の社会学的探究⑤—差別問題を考えるⅤ：自己とサプリメント
11	「資本」の社会学的探究⑥—メディア表象の非対称性Ⅰ：犯罪報道から考える
12	「資本」の社会学的探究⑦—メディア表象の非対称性Ⅱ：マイノリティ表象
13	「資本」の社会学的探究⑧—モノと消費から考えるⅠ：道具的機能と記号的機能
14	「資本」の社会学的探究⑨—モノと消費から考えるⅡ：消費概念の変遷と行動性向
15	社会学概論Ⅱのまとめ
16	テストまたは補習

【履修上の注意事項】

講義の中で発問やミニ課題等も与える。それに対する応答も評価に加える。。

【評価方法】

出席および受講状況（20%）、ミニ課題および発問への応答状況（20%）、課題の提出状況およびその内容評価（60%）。

【テキスト】

テキストの指定はとくにないが、適宜紹介していく。

【参考文献】

中根光敏、他『社会学に正解はない』（松籟社）など、適宜紹介していく。

社会学理論 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 人間福祉学科対象 4年次は選択必修科目、3年次以下は自由選択科目となる

【授業のねらい】

本講義は、人間行為の社会性、社会現象およびその構造等を社会的な視点で読み解く理論的枠組みの基礎を提供するための講義である。「理論」(theory)と聞くと、抽象度が高く難解なイメージを抱きがちである。しかし、じつは言葉(概念)の単純な組み合わせで構成された、社会を「見る」便利な“メガネ”なのである。理論は万能な道具ではなく、必ず限界をもっている。この限界を認識することが、社会を読み解く<わたし><わたしたち>の「可能性」でもある。これらの社会学理論の魅力を紹介し、学生のレポート作成、研究論文に資する知識を提供していく。

【授業の展開計画】

社会学理論 I は「個」と「関係」を単位とした視点から出発する。つまり、人間の行為、認識・イメージ、コミュニケーションがもつ社会的側面を理解するための理論から講義を展開する。その補完的な知識として、人間の自我および精神に関する基礎理論も提供し、そのうえで行為と相互作用の社会性を理論的に理解する。

週	授 業 の 内 容
1	社会学理論 I への招待 ー理論を学ぶ上での留意点
2	社会学理論の基本概念① ー社会的相互作用と価値・意味・シンボル
3	社会学理論の基本概念② ー社会化と社会制度
4	社会学理論の基本概念③ ー主体と権力
5	社会的投企としての自画像① ー欲望の社会理論
6	社会的投企としての自画像② ー自我/他者の獲得をめぐる
7	社会的投企としての自画像③ ー同化/異化とコンプレックス
8	行為の社会理論① ー演技の共同性
9	行為の社会理論② ーエスノメソドロジーの視点
10	現象学的社会学の視点① ー記号としての言語と類型的語彙
11	現象学的社会学の視点② ー生活世界と間主観性、間身体性
12	現象学的社会学の視点③ ー類型化と多元的現実
13	ブルデュー社会学の理論① ーディスタンクシオンと文化資本
14	ブルデュー社会学の理論② ーハビトゥスと身体
15	ブルデュー社会学の理論③ ー<場/実践>の理論と再生産
16	補習またはテスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

社会学理論Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考 人間福祉学科対象 4年次は選択必修科目、3年次以下は自由選択科目となる

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、人間行為の社会性、社会現象およびその構造等を社会的な視点で読み解く理論的枠組みの基礎を提供するための講義である。「理論」(theory)と聞くと、抽象度が高く難解なイメージを抱きがちである。しかし、じつは言葉(概念)の単純な組み合わせで構成された、社会を「見る」便利な“メガネ”なのである。理論は万能な道具ではなく、必ず限界をもっている。この限界を認識することが、社会を読み解く<わたし><わたしたち>の「可能性」でもある。これらの社会学理論の魅力を紹介し、学生のレポート作成、研究論文に資する知識を提供していく。

【授業の展開計画】

社会学理論Ⅱは、我々を取り巻く「モダニティ」の諸側面を捉える基礎理論と概念を中心に紹介し、その批判的、創造的な視点を提供する。とりわけ、資本主義と国民国家を中心的な具象として取り上げながら、現代社会の構造と過程およびその権力性を理解するための講義を展開する。

週	授 業 の 内 容
1	社会学理論Ⅱへの招待 ―モダニティから創造的転回へ
2	モダニティの基本概念② ―構造化の視点と再帰的近代化(ギデンズ、ベック)
3	モダニティの基本概念③ ―ディスクール論と規律/管理(フーコー、ドゥルーズ、ライアン)
4	資本主義を社会的に考える① ―マクドナルド化と感情労働(リッツァ、ホックシールド)
5	資本主義を社会的に考える② ―物象化と文化産業(ルカーチ、ホルクハイマー、ドゥボール)
6	資本主義を社会的に考える③ ―シミュレーションとシミュラクル(ホドリヤール)
7	資本主義を社会的に考える④ ―交換の権力性と言語ゲーム(ブラウ、ヴィトゲンシュタイン)
8	資本主義を社会的に考える⑤ ―代補論と資本の運動(デリダ)
9	国民国家を社会的に考える① ―伝統の創造と想像の共同体(ホブズボーム、アンダーソン)
10	国民国家を社会的に考える② ―イデオロギー装置とヘゲモニー(アルチュセール、グラムシ)
11	国民国家を社会的に考える③ ―疑似環境と社会的閉鎖(リップマン、マーフィ、オールポート)
12	国民国家を社会的に考える④ ―世界システム論と従属理論(ウォーラステイン、ロストウ)
13	国民国家を社会的に考える⑤ ―オリエンタリズムと抑圧委譲論(サイード、丸山真男)
14	モダニティからの創造的転回① ―<生の複数性>とパフォーマンスティビティ(アーレント、パトラー)
15	モダニティからの創造的転回② ―不和の政治とマルチチュード(ランシエール、ハート=ネグリ)
16	補論またはテスト

【履修上の注意事項】

講義の中で発問やミニ課題等も与える。それに対する応答も評価に加える。

【評価方法】

出席および受講状況(20%)、ミニ課題および発問への応答状況(20%)、課題の提出状況およびその内容評価(60%)。

【テキスト】

テキストの指定はとくにないが、適宜紹介していく。

【参考文献】

適宜紹介していく。

社会心理学 I

担当教員 泊 真児

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会心理学の領域で扱われている主要な研究知見、理論、研究方法、ならびに、著名な研究者などについて概説していきます。受講生の要望等もふまえながら、なるべく日常的な心理現象や社会的トピックを取り扱っていく予定です。そうした身近な事象を社会心理学的な視座から読み解いていくことを通して、科学的・客観的なものの見方、考え方を養っていくことを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・注意事項等の説明
2	自己とは何か？～自己過程の心理学(1)～
3	自己を知るとは？～自己過程の心理学(2)～
4	他者を知るとは？～対人認知の心理学～
5	社会について知るとは？～社会的認知の心理学～
6	原因を求める心とは？～帰属過程の心理学～
7	態度と態度変容(1)～態度の概念・測定法・理論を中心に～
8	態度と態度変容(2)～説得的コミュニケーションを中心に～
9	対人行動の動機と対人魅力とは？～対人行動の心理学(1)～
10	対人関係を形成し、維持するには？～対人行動の心理学(2)～
11	対人関係の葛藤・ストレスとは？～対人行動の心理学(3)～
12	友人・友情とは何か？～友人関係の心理学～
13	人を好きになる心とは？：恋愛関係の進展を中心に～恋愛の心理学(1)～
14	人を好きになる心とは？：恋愛関係の不和・崩壊を中心に～恋愛の心理学(2)～
15	まとめ
16	学期末試験（予定）

【履修上の注意事項】

- ・学期末課題は、学期末試験、または、学期末レポート課題を課す予定です。
- ・授業への積極的な参加（個人または全体に向けた質問や発言）を求めます。
- ・授業の展開計画は、講義内容を含め、変更する可能性があります。

【評価方法】

・評価の内訳は、出席状況が15%、参加態度が30%、学期末課題が55%のウェイトです。・授業への出席状況、参加態度、学期末課題を総合して評価します。但し、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。・授業への参加態度は主に、毎回の講義内容に関するコメントカード（その日のテーマに関連する課題について記入）の提出および、その内容によって評価します。・学期末課題は、試験を実施する場合、参考書や資料等の持ち込みを不可として行う予定です。レポート課題の場合は、授業内で詳細を指示します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に進める予定です。

【参考文献】

堀洋道・山本眞理子・吉田富二雄 編著（1997）. 新編 社会心理学 福村出版
 岡本浩一（1986）. 社会心理学ショート・ショート 新曜社

社会調査の企画と設計

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学ぶ。「社会調査の基礎」では量的調査を中心に内容を展開したが、Ⅱではサンプリングの技法と質的調査（とりわけ参与観察法、生活史法、ドキュメント分析など）に力点をおいて講義を行なう。実践的な社会福祉（ソーシャルワーク）、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）と質的調査の関連性、重要性を前提に内容を展開していきたい。また、学生各自による調査の企画と設計、および量的調査または質的調査のいずれかを使用した調査の実践を行い、その成果を発表してもらおう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査法Ⅱへの招待
2	標本抽出（サンプリング）の理論
3	サンプリングの種類
4	サンプリングの実際
5	質的調査の考え方
6	質的調査の種類
7	質的調査の諸注意
8	ドキュメント分析と観察法
9	生活史法とライフコース分析
10	面接とインタビューの技法
11	調査実施の際の諸注意
12	個別研究テーマの発表・提出
13	調査の企画と設計の提出
14	調査実施の効果とふりかえり
15	総括と課題発表
16	試験

【履修上の注意事項】

講義形式で進めるが、調査票作成及び調査プロトコール作成においてはグループごとに討論することもあるため、話し合い、及び活動には積極的に参加すること。

【評価方法】

出席状況、グループ参加状況、調査報告内容及び試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年

【参考文献】

特に指定はしないが、随時紹介する。

社会調査の基礎

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学習する。同講義は社会福祉、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）に関わる領域を題材にしながら内容を展開する。また、社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心に、アンケート調査の実践を展開する講義とする。調査研究の企画設計、変数と仮説構成など、プロトコルの作成から調査実施まで総合的に講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査とは？—その意義、目的—
2	社会調査の歴史とソーシャルワーク
3	社会調査のための諸注意—社会調査の倫理と個人情報取り扱い—
4	事前の情報収集の方法 1
5	事前の情報収集の方法 2
6	社会調査の基本的な道具
7	研究テーマの設定法
8	調査の企画、設計
9	概念、変数、仮説の活用
10	量的調査—調査票作成の事前準備
11	質問文作成の基本ルール
12	選択肢作成の基本ルール
13	調査に関する様々な誤差 1
14	調査に関する様々な誤差 2
15	社会調査法 I の総括と課題発表
16	試験

【履修上の注意事項】

原則的に講義形式で行うが、後半ではコンピュータ室を使用しての講義を展開する。そのため、基本的なコンピュータ操作に慣れておくことが望ましい。

【評価方法】

レポート、試験、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』ミネルヴァ書房

【参考文献】

随時講義の中で紹介していく。

社会調査の基礎

担当教員 一住 直広

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学習する。同講義は社会福祉、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）に関わる領域を題材にしながら内容を展開する。また、社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心に、アンケート調査の実践を展開する講義とする。調査研究の企画設計、変数と仮説構成など、プロトコルの作成から調査実施まで総合的に講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査とは？—その意義、目的—（本講義の目的・内容・スケジュールの紹介）
2	社会調査の歴史とソーシャルワーク
3	社会調査のための諸注意—社会調査の倫理と個人情報の取り扱い—
4	事前の情報収集の方法 1
5	事前の情報収集の方法 2
6	社会調査の種類（量的調査と質的調査）
7	研究テーマの設定法
8	調査の企画、設計
9	概念、変数、仮説の活用
10	量的調査—調査票作成の事前準備
11	質問文作成の基本ルール
12	選択肢作成の基本ルール
13	調査に関する様々な誤差 1
14	調査に関する様々な誤差 2
15	社会調査法 I の総括と課題発表
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。

【評価方法】

提出物（論文・レポートなど）、テスト、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年
 根本博司、他編著、『初めて学ぶ人のための社会福祉調査法』、中央法規、2001年
 天田城介、他編著、『社会調査の基礎』、中央法規、2009年、講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する

【参考文献】

ダレル・ハフ、『統計でウソをつく方法—数式を使わない統計学入門』、講談社（ブルーバックス）、1979年
 谷岡一郎、『「社会調査」のウソーリサーチ・リテラシーのすすめ—』文藝春秋（文春新書）、2000年
 好井裕明、『「あたりまえ」を疑う社会学—質的調査のセンス—』光文社（光文社新書）、2006年

社会統計学 I

担当教員 宮平 隆央

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

統計は、私たちが生活している社会の有り様を示す、重要な情報の一つです。しかし、社会には、信頼のおけるものから不確かなものまで、様々な統計・数字があふれています。

この講義では、統計的データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識について勉強し、統計リテラシー（統計を読み取る力・統計を作成する力など統計を活用する力）の基礎を身につけることを目指します。講義では、事例をできるだけ多く紹介して統計的な考え方のイメージや基礎的な考え方を学ぶとともに、パソコンを使用して実際に統計を作成・分析する作業を通じ、理解を深めて行きます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）
2	「統計」とは何か？（ものごとを数字で測るとは？ 統計学的な考え方）
3	「測る」とはどういうことか？（尺度と変数、度数分布とグラフ）
4	データの特徴をどう表すか？～基本統計量1（代表値とは何か）
5	データの特徴をどう表すか？～基本統計量2（散布度とは何か）
6	データの特徴をどう表すか？～基本統計量3（尖度・歪度、正規分布・標準偏差）
7	データからどこまで確かなことがいえるか？1（検定・推定の考え方、抽出法の理論）
8	収集したデータ間に関連性はあるか？ ～量的変数1～（相関係数）
9	収集したデータから予測はできるか？ ～量的変数2～（回帰分析の基礎1）
10	収集したデータによる予測をどう読み取るか？～量的変数3～（回帰分析の基礎2）
11	みせかけの関連性を見抜くにはどうするか？～量的変数4～（変数のコントロール、偏相関係数）
12	収集したデータ間に関連性はあるか？～質的変数1～（独立性の検定、属性相関係数）
13	データの関連性をどうやって示すか？～質的変数2～（カイ二乗検定など具体的な独立性検定の方法）
14	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数3～（エラボレーション）
15	講義の振り返り・まとめ
16	（レポート提出）

【履修上の注意事項】

- ・希望者が定員を上回った場合、原則として人間福祉学科の学生を優先する。
- ・授業中の私語・携帯電話は厳禁。場合によっては退席を命じることもある。その場合、欠席したものとして取り扱う。
- ・欠席する場合、事前もしくは事後に、必ず欠席届を提出すること。理由によって適切に対応する。

【評価方法】

出席 : 45点=1回:3点×15回（宿題提出をもって出席とする）
 レポート : 50点
 その他 : 5点（受講態度など）

【テキスト】

テキスト：廣瀬毅士 寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010
 また、適宜講義中にプリント、学習用電子データを配布する。

【参考文献】

- ・ハンス・ザイゼル『数字で語る—社会統計学入門』新曜社、2005
- ・ロウンリー『新・涙なしの統計学』新世社、2001
- ・酒井隆『図解 アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2003 など

社会統計学Ⅱ

担当教員 宮平 隆央

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会で起きている現象の多くは、1つの要因で起こることよりも、複数の要因が関係し合っている場合が多く見られます。逆に、1つの要因が複数の現象を生み出すこともあります。社会統計学における多変量解析は、社会現象に関わる様々な要因の関係を数字で表そうとするものです。

この講義では、「社会統計学Ⅰ」の内容を踏まえ、多変量解析の基本的な考え方と方法を学びます。それにより、統計リテラシー（統計を読み取る力・統計を作る力、など統計を活用する力）を高めることを目指します。

【授業の展開計画】

講義では、まず前期の社会統計学Ⅰの内容をおさらいした上で、多変量解析による分析手法の概要をお話します。その上で、代表的な分析手法について、事例やサンプルデータを用いて、実際に分析作業を練習しながら勉強していきます。それにより実践的な知識の習得を図ります。

なお、受講生の要望、講義の進み具合、講義実施上の都合などにより、講義の順序・内容を一部変更することもあります。

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）
2	「多変量解析」を学ぶ前に（社会統計学Ⅰの復習）
3	「多変量解析」とは何か？（多変量解析の種類と用途、その方法の概要）
4	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」1
5	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」2
6	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」3
7	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」4
8	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」1
9	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」2
10	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」3
11	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」4
12	似たものをまとめる「クラスター分析」1
13	似たものをまとめる「クラスター分析」2
14	似たものをまとめる「クラスター分析」3
15	講義のふりかえり・まとめ
16	（レポート提出）

【履修上の注意事項】

- ・希望者が定員を上回った場合、原則として人間福祉学科の学生を優先する。
- ・授業中の私語・携帯電話は厳禁。場合によっては、退席を命じることもある。その場合、欠席したものとして取り扱う。
- ・欠席する場合は、事前もしくは事後に、必ず欠席届を提出すること。理由に応じて適切に対応する。

【評価方法】

- ・出席 : 45点 (講義1回3点×講義15回、宿題提出をもって出席とする)
- ・レポート : 50点
- ・その他 : 5点 (受講態度等)

【テキスト】

【参考文献】

社会統計基礎

担当教員 嘉手川 繁三

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

人間福祉学科の学生を対象に統計の基礎を学んでいく。特色としては、①数学は中学程度の知識があればよい、②平均や標準偏差など、すでに習っているものから始める、③例題や演習問題はパソコンのエクセルを用いる、をあげておこう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	授業の進め方、統計とは？ エクセルの利用
2	データのグラフ表現 1
3	データのグラフ表現 2
4	度数分布表とヒストグラム
5	累積度数曲線の応用
6	平均、中央値、最頻値
7	散布度、分散、標準偏差
8	度数分布表からの平均、標準偏差の計算
9	散布図と相関係数
10	回帰直線の求め方
11	確率分布、二項分布、ポアソン分布
12	正規分布
13	t ー分布
14	母平均の区間推定
15	比率の区間推定
16	

【履修上の注意事項】

パソコンのエクセル（表計算）に習熟している方が望ましい。

【評価方法】

クラスへの出席と課題の提出物で評価する。締め切りに遅れた提出物は評価しない。

【テキスト】

指定しない。プリントを配ります。

【参考文献】

水野恭之 「看護学系の統計入門」 培風館
 新田 功 「同時に学ぶExcelと入門統計学」 ムイスリ出版

社会福祉援助技術現場実習指導

担当教員 宮城 美智子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 6

準備事項

備考

【授業のねらい】

「社会福祉援助技術現場実習指導」では、社会福祉現場実習の意義について理解する。これまでに学んだ社会福祉関連科目を意識しながら、事前指導を受けてほしい。また、夏に行う現場実習で体験したことを事後指導で振り返り、「理論と実践の統合」の重要性を体得する。最終的には、個別の「課題研究」としてまとめる。

【授業の展開計画】

- ・実習オリエンテーション
 - ・実習直前指導(実習の心得、実習日誌の書き方等)
 - ・実習現場における体験学習や見学実習
 - ・実習の振り返り(個別・グループ)
 - ・実習報告会
 - ・課題研究への取り組み
 - ・その他
- ※必要に応じて他のゼミとの合同ゼミも計画している。

【履修上の注意事項】

実習に行くことを自覚し、受講すること。積極的に授業に参加すること。

【評価方法】

課題研究、実習現場の評価、授業への参加、出欠状況等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

特になし。必要があれば授業時に提示する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

社会福祉学基礎

担当教員 安次富郁哉・他 4 名

対象学年 1 年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

人間福祉学科社会福祉専攻の教員の専門分野をオムニバス方式で紹介し、社会福祉学のおもしろさ、研究のおもしろさを伝える。

合わせて、大学で学ぶとはどういうことなのかを理解する機会とする。

【授業の展開計画】

社会福祉専攻の教員 8 名が、オムニバス方式で講義を行う。

詳細は、前期初回の講義の時に提示する。

【履修上の注意事項】

人間福祉学科1年次全員が履修する科目であり、人数が非常に多い科目なので、提出期限を守ることや講義時におしゃべりをしない等、大学生としてあたり前の行動をとることを心がけてほしい。

【評価方法】

出席状況
レポートなどの課題の提出状況およびその内容
その他

【テキスト】

テキストはなし。
各教員が随時資料を配付する。

【参考文献】

各教員が随時提示する。

社会福祉学特講 B

担当教員 川本 隆史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

テキストにそって、共生、社会、福祉という用語の厚みと広がりを検証する。三つの言葉の力が鋭く問われ続けている《うるま》の地に呼び出された以上は、できるだけ双方向的な授業を心がけたい。

項目・「共生」の両義性・孤独と共生・ケアと共生・教育と共生・臨床と共生・エコロジーと共生・「あなたを苦しめているものは何ですか」・人間の権利の再定義－三つの道具を使いこなして

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

- ・テキストを必ず準備すること
- ・登録はオリエンテーションに出席することが必要条件
(日程・場所はガルーンで告知、登録最終日を予定、欠席者は登録名簿から削除)

【評価方法】

授業中の小レポート、最後のテスト（持ち込み不可）等で総合的に評価する。

【テキスト】

川本隆史『共生から』（双書・哲学塾、岩波書店、2008年、ISBN: 9784000281652）。

【参考文献】

- ・NHK「Q」制作班編『Q～わたしの思考探究』（2）（NHK出版、2011年、ISBN: 9784140814611）。
- ・ジョン・ロールズ『正義論〔改訂版〕』（川本隆史・福岡聡・神島裕子訳、紀伊國屋書店、2010年、ISBN: 9784314010740）。

社会保障

担当教員 安次富 郁哉・青山 喜佐子・中村 敬

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講義のねらいは、「①少子高齢社会を背景とした、わが国における社会保障制度の課題について理解する。②社会保障の概念や体系について理解する。③年金保険、労働保険、医療保険、介護保険等について具体的な内容を理解する。」である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 安次富	17	年金保険制度① 沿革 青山
2	社会保障制度の課題・概念・体系 安次富	18	年金保険制度② 概要 体系 青山
3	医療保険制度① 沿革及び体系 安次富	19	年金保険制度③ 国民年金 青山
4	医療保険制度② 安次富	20	年金保険制度④ 厚生年金 青山
5	医療保険制度③ 安次富	21	年金保険制度⑤ その他年金制度 青山
6	医療保険制度④ 安次富	22	年金制度の管理運営体制 今後の課題 青山
7	医療保険制度⑤ 安次富	23	振り返り 青山
8	医療保険制度⑥ 安次富	24	労働保険制度① 労働者災害補償保険 中村
9	介護保険制度① 創設の経緯と改正 安次富	25	労働保険制度② 労働者災害補償保険 中村
10	介護保険制度② 安次富	26	労働保険制度③ 雇用保険 中村
11	介護保険制度③ 安次富	27	労働保険制度④ 雇用保険 中村
12	介護保険制度④ 安次富	28	労働保険制度⑤ 雇用保険 中村
13	介護保険制度⑤ 安次富	29	労災保険・雇用保険の管理運営体制 中村
14	介護保険制度⑥ 安次富	30	振り返り 中村
15	民間保険と社会保険 安次富	31	後期試験 安次富
16	前期試験 安次富		

【履修上の注意事項】

本科目は3名の講師によるオムニバス形式で勉める。年金保険制度については青山喜佐子、労働保険制度については中村敬、医療保険制度、介護保険制度については安次富郁哉が担当する。MSWを目標とする学生は受講することが望ましい。

【評価方法】

講義への出席状況、前期・後期で実施する試験点数、課題提出状況をもって総合的に評価する。

【テキスト】

中央法規出版「社会保障論」社会福祉士養成講座シリーズ予定
オリエンテーションにて詳細を告知したあとに購入すること（改訂最新版を使用するため）

【参考文献】

参考書については、講義の中で随時紹介する。

社会理論と社会システム

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義の目的は、人と社会の関係をどうとらえるかを学び、家庭や地域といった身の回りの社会システムや社会問題を社会学の視点から捉えなおすことである。社会福祉士にとって社会の成り立つ仕組みを知り、人々の関係性や生活世界に対する理解を深め、現代社会の抱える社会問題がどのようなものなのかを知っておくことは業務を遂行するための基礎となるので、ぜひ社会生活のなかで感じる自分なりの疑問に答えを見つけるつもりで受講してほしい。

【授業の展開計画】

本講義では、関連する資料や参考文献の内容を盛り込みながらテキストの解説を行う。毎週コメントカードで質問やコメントを受け付け、翌週に回答する。学期半ばに中間テスト、期末に小論文のテストを行って授業に対する理解を確認する。

週	授 業 の 内 容
1	社会学とはなにか：これから学ぶこと
2	生活の理解：生活のとらえ方
3	生活の理解：家族
4	生活の理解：地域
5	人と社会の関係：社会的役割
6	人と社会の関係：社会的行為
7	人と社会の関係：社会関係資本と社会的連帯
8	ミニテスト
9	社会問題の理解：社会問題のとらえ方
10	社会問題の理解：日本社会と社会問題
11	社会問題の理解：共生社会と権利
12	社会問題の理解：社会のグローバル化と社会問題
13	現代社会の理解：社会システム
14	現代社会の理解：社会変動—近代化、産業化、グローバリゼーション
15	現代社会の理解：人口からみた社会変動—社会変動と福祉国家
16	期末テスト（小論文）

【履修上の注意事項】

毎時間ごとにコメントカードを提出するので、何をコメントするか考えながら講義を聞くこと。

【評価方法】

出席状況を10%、授業への参加（コメントカードの提出）を30%、課題レポートで60%として評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『社会理論と社会システム』中央法規出版、2010年。

【参考文献】

講義の中で適宜、指示する。

就労支援サービス

担当教員 崎濱 秀政

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期前半

授業形態 一般講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

「就労支援サービス」は、障害のある人が「働くこと」を通して円滑で安定的な社会生活を獲得し、「働き続ける」ことで自律的に「生きること」を目的としている。また障害のある人自身が「働くこと」により「生活のしやすさ」「生きやすさ」を求め、さまざまな社会資源とつながりながらインクルーシブな社会の構築もめざしたいのである。この講義では、教育分野の役割、福祉分野と労働分野の有機的な施策の連携、実践者の連携こそが「就労支援サービス」であることを理解する。その連携の手段として、障害のある一人ひとりに合わせた個別支援計画の策定とケアマネジメントの重要性も理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 就労支援の意味と社会福祉士の役割
2	就労支援の対象者
3	就労支援の方法
4	就労支援制度と就労支援機関、専門職の役割
5	低所得者と就労支援
6	就労支援とケアマネジメント、就労支援の流れ
7	就労支援ネットワークの必要性
8	就労支援の実際
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

障害学

担当教員 岩田 直子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「障害とは何か」ということを、医学、心理学、社会学、社会福祉学など、多角的な視点から問い直し、障害概念を再構築することを目標とする。また、日常の生活行動において障害者が直面する社会問題について理解を深める。

具体的には、障害の社会モデルに基づいて、障害の機能面ばかりでなく社会構造との関係にも注目し、そもそも障害を生み出しているのは何かについて追究する。また、生活行動と人体との関係や支援者の役割について考えると共に、障害者の日常生活で直面する諸問題について深く掘り下げる。

【授業の展開計画】

- 第1回 障害の歴史
 - 第2回 障害とは何か①医学モデル
 - 第3回 障害とは何か②社会モデル
 - 第4回 障害とは何か③WHOのICF（国際生活機能分類）
 - 第5回 社会的抑圧としての障害の現状
 - 第6回 生活行動と人体の関係①
 - 第7回 生活行動と人体の関係②
 - 第8回 支援者の役割とは
 - 第9回 当事者運動の役割とは
 - 第10回 障害者の日常生活①教育
 - 第11回 障害者の日常生活②雇用
 - 第12回 障害者の日常生活③交通や住宅へのアクセシビリティ
 - 第13回 障害者の日常生活④障害と開発
 - 第14回 障害者の日常生活⑤権利擁護と救済
 - 第15回 多様性を認めあう社会
- 定期試験等

【履修上の注意事項】

講義形式だけでなく、広くワークショップなども行う。
学生には積極的に参加することを期待する。

【評価方法】

出席、レポート、定期試験によって判断する。

【テキスト】

- ①河野正輝、東敏裕(2009)『障がいと共に暮らす—自立と連帯—』放送大学教育振興会。
- ②杉野昭博(2007)『障害学—理論形成と射程—』東京大学出版会。

【参考文献】

- ①コリン・バーンス、ジェフ・マーサー他著、杉野昭博他訳『ディスアビリティ・スタディーズ—イギリス障害学概論—』
- ②マイケル・オリバー著、三島亜紀子他訳(2006)『障害の政治—イギリス障害学の原点—』明石書店

障害者に対する支援と障害者自立支援制度

担当教員 岩田 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

①「障害」とはいったい何かについて考える ②障害者がたどった歴史について理解を深める ③障害者福祉の理念について理解を深める ④障害者を対象にした法律の変遷を理解すると共に、知識を広める ⑤障害児者が日々の生活の中で直面する問題（教育、雇用、移動、経済的保障、社会参加など）についてその原因と課題について考える ⑥障害当事者の視点から社会福祉サービスを再考する ⑦沖縄の視点から障害者福祉を考える ⑧途上国の障害者福祉について理解を深める

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	障害者福祉の理念
2	障害者福祉の歴史
3	障害の定義：ICF、障害の社会モデル、国内法を中心に
4	自立生活の理念と国内外の動向
5	障害者福祉施策の概要（1）
6	障害者福祉施策の概要（2）
7	諸外国の障害者福祉施策の概要
8	障害児者に関する国際連合の動向
9	障害者の生活と社会福祉施策の課題（1）
10	障害者の生活と社会福祉施策の課題（2）
11	障害者の生活と社会福祉施策の課題（3）
12	障害者の生活と社会福祉施策の課題（4）
13	障害者の生活と社会福祉施策の課題（5）
14	障害者運動の主張と政策への影響
15	障害と開発
16	

【履修上の注意事項】

障害者福祉の基盤となる定義や理念を理解することに努めること。

配布資料や参考文献をしっかりと読むこと。

授業と並行して、積極的にボランティア活動に参加したりメディア情報にアクセスしたりすることを勧める。

【評価方法】

- ①定期試験および課題レポートの内容
- ②授業態度および出席状況
- ③その他、ビデオ鑑賞の後に提出してもらう感想など

【テキスト】

「障害者に対する支援と障害者自立支援制度—障害者福祉論」（最新版）、中央法規
 「障害のある人の支援と社会福祉—障害者福祉入門」（2008）、ミネルヴァ書房

【参考文献】

第1回講義時に提示する

障害児・者心理学

担当教員 財部 盛久

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業は後期に開講予定の発達臨床心理学の前段階として、障害児(者)の心理学的な特徴について概説する。授業では単一の障害に限定せず、障害種別に心理学的特徴について講義を行う。

【授業の展開計画】

- 第 1回：オリエンテーション
- 第 2回：障害をどのように捉えるか
- 第 3回：障害の原因・病理
- 第 4回：受容機能の障害と心理特性 (1) 視覚障害
- 第 5回：受容機能の障害と心理特性 (2) 聴覚障害
- 第 6回：表出機能の障害と心理特性 (1) 運動障害
- 第 7回：表出機能の障害と心理特性 (2) 言語障害
- 第 8回：処理機能の障害と心理特性 (1) 知的障害 1
- 第 9回：処理機能の障害と心理特性 (2) 知的障害 2
- 第10回：処理機能の障害と心理特性 (3) 学習障害
- 第11回：処理機能の障害と心理特性 (4) 注意欠陥／多動性障害
- 第12回：処理機能の障害と心理特性 (5) 自閉症 1
- 第13回：処理機能の障害と心理特性 (6) 自閉症 2
- 第14回：処理機能の障害と心理特性 (7) 自閉症 3
- 第15回：授業のまとめ
- 第16回：試験

【履修上の注意事項】

この授業は受講生自身が積極的に考え、学ぶことを基本にしている。したがって、常に疑問をもち、それを解決しようとする姿勢をもって授業に参加のこと。また、授業に遅刻や欠席をせず、受講する自信のあることが前提条件である。

【評価方法】

授業への参加状況、課題に対する取り組みおよび発表や提出されたレポートにより評価する。授業中、ただ黙って座っているだけでは参加状況に関する評価は低いことを理解しておいて欲しい。また、予習課題を十分に理解した上で授業を受け、毎回の授業で実施する小テストは評価の際に大きなウェイトを占めることを了解して欲しい。なお、遅刻や欠席がないことを前提としているので、何らかの事情でやむを得ず欠席する場合は事前に届けること。

【テキスト】

特別支援児の心理学 梅谷忠勇 生川善雄 堅田明義編著 北大路書房 ¥2,500+税

【参考文献】

障害児の心理 佐藤泰正編著、学芸図書株式会社 ¥2,000+税
 障害特性の理解と発達援助 教育・心理・福祉のためのエッセンス 鼻地勝人他編 ナカニシヤ出版 ¥2,800+税

心理学概論

担当教員 前堂 志乃・平山 篤史

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講では、心理学の歴史、主要な研究、重要な理論などを幅広く取り上げ、心理学の各専門領域を概説する。心理学全般についての幅広い基礎知識を身につけ、人間の心の諸問題を心理学的に捉える視点を身につけてもらいたい。この講義はオムニバス形式で開講し前期は前堂、後期は平山が担当する。前期は、心理学の歴史、研究法、感覚・知覚・記憶・学習・思考・知能・動機づけ・情動・こころと脳、後期は、発達、人格、社会、臨床などを取り上げる。普段は気づかない自分のこころの仕組みを理解し、心理学の幅広さと面白さを知って欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	17	後期オリエンテーション
2	心理学の歴史と研究法①	18	発達心理学①
3	心理学の歴史と研究法②	19	発達心理学②
4	感覚・知覚①	20	発達心理学③
5	感覚・知覚②	21	人格心理学①
6	記憶①	22	人格心理学②
7	記憶②	23	社会心理学①
8	学習①	24	社会心理学②
9	学習②	25	社会心理学③
10	思考と創造性①	26	社会心理学④
11	思考と創造性・知能②	27	臨床心理学①
12	動機づけ・情動②	28	臨床心理学②
13	動機づけ・情動①	29	臨床心理学③
14	こころと脳①	30	心理学を学ぶことは役に立つのか?①
15	こころと脳②	31	心理学を学ぶことは役に立つのか?②
16			

【履修上の注意事項】

- 水曜1校時のこの「心理学概論」のクラスは人間福祉学科の専門科目として開講しています。特に、心理カウンセリング専攻の1年次にとっては重要な基礎科目であるため心理専攻の学生を優先的に登録します。
- 人間福祉学科以外の学生で、公民科の教科に関する科目として受講を希望する場合は、H24年度に開講される教職用クラスを受講してください（教職用クラスは隔年開講となっており、H23年度は開講されません）。

【評価方法】

- 出席、期末課題、期末試験などを総合し、さらに、前期と後期の成績を総合して評価する。
- 前期と後期それぞれにおいて、出席、レポート、期末試験などを課す。詳細については、それぞれ学期初めのオリエンテーションで各担当者の説明を聞いて確認すること。

【テキスト】

授業時に紹介する

【参考文献】

授業時に適宜紹介する

心理学基礎演習

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講の目的は、実際に複数の心理学基礎実験・実習の体験を通して、心理学における実験的研究や実証的研究の基礎を修得することである。具体的には、実験的技法や実証的技法を基盤とした複数の基礎心理学的実験・実習において、実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)の体験をし、得られたデータを自ら分析し、毎回報告書を提出する。心理学の各分野から選んだ実験・実習の主題のもと、知覚実験、記憶実験、学習実験、社会心理学的実験、行動観察、質問紙調査などの実験・実習を行う。

【授業の展開計画】

6ゼミ全体で行う合同ゼミ、ゼミごとに行う個別ゼミ、各教員が担当する実験・実習テーマのもと小グループに分かれ各種の基礎実習を体験し、レポートを作成・提出するローテーションゼミの3つのゼミ形式を組み合わせる。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	合同ゼミ (全体オリエンテーション)	17	心理学文献の読み方①
2	講義 (心理学研究法とは)	18	心理学文献の読み方②
3	講義 (基礎実習報告書の書き方)	19	実習④-1
4	実習①-1	20	実習④-2
5	実習①-2	21	実習④-3
6	実習①-3	22	実習⑤-1
7	講義 (レポートの添削フィードバック)	23	実習⑤-2
8	講義 (レポートの添削フィードバック)	24	実習⑤-3
9	実習②-1	25	実習⑥-1
10	実習②-2	26	実習⑥-2
11	実習②-3	27	実習⑥-3
12	実習③-1	28	質問紙法オリエンテーション
13	実習③-2	29	質問紙法の基礎 1
14	実習③-3	30	質問紙法の基礎 2
15	文献検索の仕方	31	質問紙法の基礎 3
16			

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、6ゼミ合同で行う場合や個別ゼミで行う場合がある。さらに、6ゼミ全てが同じ内容の実験・実習を行うため、6ゼミ生全員が6名の担当教員の授業や指導を受けるローテーション形式も組み合わせる。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的で積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする予定である。

【評価方法】

- ①報告書の提出：各基礎実習と後期の個別ゼミでの質問紙の作成・実施、それぞれについて実習報告書の作成と提出を課す。
- ②質問紙調査に関する実習では、学期末に調査実習結果発表を課す。
- ③①の報告書の提出と②の発表会への参加、その他、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する予定である。

【テキスト】

テキストは初回の講義時に紹介する予定。

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学基礎演習

担当教員 井村 弘子

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本演習は、心理学領域の基本的な研究法とその手続き、研究結果や考察をまとめた報告書の書き方などを修得することを目的とする。具体的には、実験法、観察法、検査法、質問紙法等を取り入れた複数の基礎的実験・実習において、実験者及び研究対象者（実験参加者・協力者等）の体験をし、得られたデータを自ら分析し、毎回報告書を提出する。心理学の各分野から選んだテーマに基づき、知覚実験、学習実験、社会心理学的実験、行動観察、質問紙調査などの実験・実習を行う。

【授業の展開計画】

前期	1. 合同ゼミ (全体オリエンテーション)	2. 個別ゼミ (心理学研究法とは)
	3. 個別ゼミ (基礎実習報告書の書き方)	4. 実習①-1 (行動観察)
	5. 実習①-2 (行動観察)	6. 実習①-3 (行動観察)
	7. 個別ゼミ (レポートの添削フィードバック)	8. 個別ゼミ (レポートの添削フィードバック)
	9. 実習②-1 (錯視量の測定)	10. 実習②-2 (錯視量の測定)
	11. 実習②-3 (錯視量の測定)	12. 実習③-1 (社会心理学的実験)
	13. 実習③-2 (社会心理学的実験)	14. 実習③-3 (社会心理学的実験)
	15. 個別ゼミ (文献検索の仕方)	16. 個別ゼミ (レポート作成、質疑応答)
後期	1. 個別ゼミ (心理学文献の読み方)	2. 個別ゼミ (心理学文献の読み方)
	3. 実習④-1 (訓練の転移)	4. 実習④-2 (訓練の転移)
	5. 実習④-3 (訓練の転移)	6. 実習⑤-1 (記憶実験)
	7. 実習⑤-2 (記憶実験)	8. 実習⑤-3 (記憶実験)
	9. 実習⑥-1 (認知心理学的実験)	10. 実習⑥-2 (認知心理学的実験)
	11. 実習⑥-3 (認知心理学的実験)	12. 合同ゼミ (質問紙法オリエンテーション)
	13. 個別ゼミ (質問紙法の基礎1)	14. 個別ゼミ (質問紙法の基礎2)
	15. 個別ゼミ (質問紙法の基礎3)	16. 個別ゼミ (レポート作成、質疑応答)

【履修上の注意事項】

- ・この演習は個別ゼミや6ゼミ合同で行う場合がある。全員が同じ内容の実習を行うため、6名の担当教員の指導を受ける形式である。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的で積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成する予定である

【評価方法】

- ① 報告書の提出：各基礎実習と後期の個別ゼミでの質問紙の作成・実施、それぞれについて実習報告書の作成と提出を課す。
- ② ①の報告書の提出、その他、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 2「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版 ほか
随時講義の中で提示する。

【参考文献】

松浦均・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 3「観察法・調査的面接法の進め方」ナカニシヤ出版
中澤・大野木・南（編著）心理学マニュアル「観察法」北大路書房

心理学基礎演習

担当教員 山入端 津由

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

これまで学んだ心理学の知識がどのような方法で導き出されたかについて学ぶ。つまり、心理学の各領域で用いられている主要な研究法の基本を学ぶ。具体的には、観察法、実験法、検査法と背景にある心理学理論について学習する。それを受けて、実際にこれらの方法を用いて実験や調査を行い、データを処理・分析し、レポートする演習を行う。これらの結果について発表を行い、公共性のある研究を目指すためのノウハウを学習する。これらの学習結果は、3学年の心理学演習や4学年の卒業論文作成につなげるようにする。

【授業の展開計画】

講義形式は2種類

前期

- 1 合同ゼミ (全体オリエンテーション)
- 2 個別ゼミ 「基礎実習とは何か」
- 3 個別ゼミ 「心理学研究法とは何か」
- 4 個別ゼミ 「基礎実習報告書の書き方」
- 5 基礎実習① 「訓練の転移」 (×2週間)
- 6 個別ゼミ 「レポートの添削フィードバック」
- 7 基礎実習② 「行動観察」 (×2週間)
- 8 基礎実習③ 「錯視量の測定」 (×2週間)
- 9 基礎実習④ 「二点閾弁別」 (×2週間)
- 10 個別ゼミ 「フィードバック」

後期

- 1 合同ゼミ (全体オリエンテーション)
- 2 基礎実習⑤ (検討中) (×2週間)
- 3 基礎実習⑤-1 「質問紙とは」
- 4 基礎実習⑤-2 「質問紙の作成」
- 5 基礎実習⑤-3 「質問紙作成の実際：Q&A」
- 6 個別ゼミ 「質問紙の作成、実施、データ分析、結果のまとめ」 (×7週間)
- 7 個別ゼミ 「調査結果発表会」
- 8 個別ゼミ 「フィードバック」

【履修上の注意事項】

本基礎演習は、4ゼミ合同で行う場合や2ゼミずつで行う場合など多様な形態がある。また、4ゼミ生全てが同じ内容の実習を行うため、4ゼミ生全員が4名の担当教員の授業や指導を受ける形式となっている。実習を伴うゼミなので、主体的で積極的な受講態度が重要である。基礎実習を行うために、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成を行う予定である。

【評価方法】

①報告書の提出：各基礎実習と後期の個別ゼミでの質問紙の作成・実施、それぞれについて実習報告書の作成と提出を課す。②質問紙調査に関する実習では、学期末に調査実習ポスター発表会、そこでの発表を課す。③①の報告書の提出と②の発表会への参加、その他、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する予定である。

【テキスト】

テキストは、初回の講義時に紹介する予定。

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介を行う。

心理学基礎演習

担当教員 上田 幸彦

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講の目的は、実際に複数の心理学基礎実験・実習の体験を通して、心理学における実験的研究や実証的研究の基礎を修得することである。具体的には、実験的技法や実証的技法を基盤とした複数の基礎心理学的実験・実習において、実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)の体験をし、得られたデータを自ら分析し、毎回報告書を提出する。心理学の各分野から選んだ実験・実習の主題のもと、知覚実験、記憶実験、学習実験、社会心理学的実験、行動観察、質問紙調査などの実験・実習を行う。

【授業の展開計画】

講義は、ゼミごとに行う個別ゼミと、小グループに分かれローテーションで各種の基礎実習を体験し、レポートを作成・提出する、形式からなる。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション	17	心理学文献の読み方
2	講義 心理学研究法とは	18	心理学文献の読み方
3	講義 基礎実習報告書の書き方	19	実習④-1
4	実習①-1	20	実習④-2
5	実習①-2	21	実習④-3
6	実習①-3	22	実習⑤-1
7	講義 レポートの添削フィードバック	23	実習⑤-2
8	講義 レポートの添削フィードバック	24	実習⑤-3
9	実習②-1	25	実習⑥-1
10	実習②-2	26	実習⑥-2
11	実習②-3	27	実習⑥-3
12	実習③-1	28	質問紙法オリエンテーション
13	実習③-2	29	質問紙法の基礎 1
14	実習③-3	30	質問紙法の基礎 2
15	文献検査の仕方	31	質問紙法の基礎 3
16			

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、6ゼミ合同で行う場合や1ゼミずつで行う場合がある。さらに、6ゼミ全てが同じ内容の実習を行うため、6ゼミ生全員が6名の担当教員の授業や指導を受ける形式である。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的で積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする予定である。

【評価方法】

- ①報告書の提出：各基礎実習と後期の個別ゼミでの質問紙の作成・実施、それぞれについて実習報告書の作成と提出を課す。
- ②①の報告書の提出と、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する予定である。

【テキスト】

テキストは初回の講義時に紹介する予定。

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学基礎演習

担当教員 泊 真児

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講の目的は、実際に複数の心理学基礎実験・実習の体験を通して、心理学における実験的研究や実証的研究の基礎を修得することである。具体的には、実験的技法や実証的技法を基盤とした複数の基礎心理学的実験・実習において、実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)の体験をし、得られたデータを自ら分析し、毎回報告書を提出する。心理学の各分野から選んだ実験・実習の主題のもと、知覚実験、記憶実験、学習実験、社会心理学的実験、行動観察、質問紙調査などの実験・実習を行う。

【授業の展開計画】

6ゼミ全体で行う合同ゼミ、ゼミごとに行う個別ゼミ、各教員が担当する実験・実習テーマのもと小グループに分かれ各種の基礎実習を体験し、レポートを作成・提出するローテーションゼミの3つのゼミ形式を組み合わせる。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	合同ゼミ (全体オリエンテーション)	17	心理学文献の読み方①
2	講義 (心理学研究法とは)	18	心理学文献の読み方②
3	講義 (基礎実習報告書の書き方)	19	実習④-1
4	実習①-1	20	実習④-2
5	実習①-2	21	実習④-3
6	実習①-3	22	実習⑤-1
7	講義 (レポートの添削フィードバック)	23	実習⑤-2
8	講義 (レポートの添削フィードバック)	24	実習⑤-3
9	実習②-1	25	実習⑥-1
10	実習②-2	26	実習⑥-2
11	実習②-3	27	実習⑥-3
12	実習③-1	28	質問紙法オリエンテーション
13	実習③-2	29	質問紙法の基礎 1
14	実習③-3	30	質問紙法の基礎 2
15	文献検索の仕方	31	質問紙法の基礎 3
16	前期まとめ		

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、6ゼミ合同で行う場合や個別ゼミで行う場合がある。さらに、6ゼミ全てが同じ内容の実験・実習を行うため、6ゼミ生全員が6名の担当教員の授業や指導を受けるローテーション形式も組み合わせる。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的で積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする予定である。

【評価方法】

- ①報告書の提出：各基礎実習と後期の個別ゼミでの質問紙の作成・実施、それぞれについて実習報告書の作成と提出を課す。
- ②質問紙調査に関する実習では、学期末に調査実習結果発表を課す。
- ③①の報告書の提出と②の発表会への参加、その他、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する予定である。

【テキスト】

テキストは初回の講義時に紹介する予定。

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学基礎演習

担当教員 平山 篤史

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講の目的は、実際に複数の心理学基礎実験・実習の体験を通して、心理学における実験的研究や実証的研究の基礎を修得することである。具体的には、実験的技法や実証的技法を基盤とした複数の基礎心理学的実験・実習において、実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)の体験をし、得られたデータを自ら分析し、毎回報告書を提出する。心理学の各分野から選んだ実験・実習の主題のもと、知覚実験、記憶実験、学習実験、社会心理学的実験、行動観察、質問紙調査などの実験・実習を行う。

【授業の展開計画】

講義は、ゼミごとに行う個別ゼミの回と、ローテーションで各種の実習①～⑥を体験し、レポートを作成・提出する回の2つの形式をとる。レポートは実習①～⑥および質問紙法の合計7つ提出する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	4月11日 オリエンテーション(合同ゼミ)	17	9月26日 心理学文献の読み方(個別ゼミ)
2	4月18日 講義(心理学研究法とは)	18	10月3日 心理学文献の読み方(個別ゼミ)
3	4月25日 講義(基礎実習報告書の書き方)	19	10月17日 実習④-1
4	5月2日 実習①-1	20	10月24日 実習④-2
5	5月9日 実習①-2	21	10月31日 実習④-3
6	5月16日 実習①-3	22	11月7日 実習⑤-1
7	5月23日 レポートの添削フィードバック1	23	11月14日 実習⑤-2
8	5月30日 レポートの添削フィードバック2	24	11月21日 実習⑤-3
9	6月6日 実習②-1	25	12月5日 実習⑥-1
10	6月13日 実習②-2	26	12月12日 実習⑥-2
11	6月20日 実習②-3	27	12月19日 実習⑥-3
12	6月27日 実習③-1	28	1月16日 質問紙法オリエンテーション
13	7月4日 実習③-2	29	1月23日 質問紙法の基礎1
14	7月11日 実習③-3	30	1月30日 質問紙法の基礎2
15	7月25日 文献検索の仕方(個別ゼミ)	31	2月6日 質問紙法の基礎3
16			

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、さらに、6ゼミ全てが同じ内容の実習を行い、学生全員が、ローテーションで6名の担当教員の指導を受ける形式をとる。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的に積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする予定である。

【評価方法】

- ①報告書の提出：実習①～⑥と後期の個別ゼミでの質問紙の合計7つの実習報告書をレポートとして提出する。
- ②①のレポートの評価と、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文(2008)．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学研究法 I

担当教員 中村 完

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理学を研究していく手順や方法についての基礎的知識と技法について学習する。具体的には、心理学の歴史の過程で採用されてきた各種の研究法についての理論と技法について概説する。その中でも、実際に心理学の研究を進めていく上で、もっとも利用や活用範囲が広い実験法と相関的研究法に力点をおきたい。また、時代の変化に対応して多様化する人間行動を考慮し、他方では日進月歩の技術革新によって進展する心理学的解析法を念頭に入れて、心理学の新しい研究法の開発に向けて、その動機づけの高揚につながる事などにも言及する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	コースのオリエンテーション、心理学とは
2	行動の科学について、行動の法則性について
3	心理学研究の過程（手順）、心理学研究に向けての学習法
4	行動観察法（意義、方法、留意点等）
5	面接法（意義、種類、この方法の過程、特色、留意点等）
6	心理テスト法①（意義、心理テストの種類等）
7	心理テスト法②（心理テストの特徴、利用法等）
8	質問紙調査法（意義、手順、尺度の妥当性、信頼性等）
9	実験法①（意義、実験計画法、変数、関数関係、因果関係等）
10	実験法②（実験法の実際等）
11	相関的研究法①（意義、内容、相関係数の意味）
12	相関的研究法②（ χ^2 検定、この研究法の実際－1）
13	相関的研究法③（この研究法の実際－2、長所と短所 因果関係と相関関係について）
14	事例研究法（意義、方法、特徴等）
15	新しい研究法の開発（行動の多様化、新たな行動障害、解析法の進展、学際的研究等）
16	学期末テスト

【履修上の注意事項】

心理学の基礎科目を履修済みであることがのぞましい。

【評価方法】

受講態度、レポート、試験等から総合的に行う。

【テキスト】

高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一（編著）「人間科学研究法ハンドブック」 ナカニシヤ出版、1998年

【参考文献】

（1）高野陽太郎・岡隆（編）「心理学研究法」 有斐閣、2004年、（2）原岡一馬（著）「心理学研究の基礎」 ナカニシヤ出版、2002年、（3）南風原朝和 他2名（編）「心理学研究法入門—調査・実験から実践まで」 東京大学出版、2002年、（4）大山正 他2名（共著）「心理学研究法」 サイエンス出版、2007年

心理学研究法Ⅱ

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講は、心理学の専門領域の研究における主要な研究手法と手続きの基本的な事項について概説することを目的とする。心理学にはいくつかの代表的な研究手法があるが、中でも研究の基礎となる実験的手法と卒論などで最も多用される質問紙法を取り上げながら、心理学の手法で研究するということについて理解を深めていく。典型的な事例を挙げながら、できるだけ具体的に、研究テーマの設定、研究デザインと研究計画の策定と吟味、研究の具体化、報告書の執筆、という研究の流れを辿りながら、研究をすることの意味と面白さについてともに考え理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	心理学研究法の基礎知識①
3	心理学研究法の基礎知識②
4	研究する意味
5	研究テーマの選定・設定
6	研究デザインと研究計画の策定
7	研究デザインと研究計画の吟味と具体化
8	質問紙法①
9	質問紙法②
10	質問紙法③
11	実験法①
12	実験法②
13	研究成果の報告①
14	研究成果の報告②
15	研究のつながりと楽しみ・まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

心理学研究法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

【評価方法】

出席：キーワード調べ、クイズへの回答などをもって出席点とする
 ワーク：研究法に関連する課題をいくつか課す
 期末試験：学期末に論述式の試験を行う（予定）
 出席、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である

【テキスト】

心理学研究法Ⅰで使用したテキストも利用する
 心理学基礎演習で紹介する参考図書も活用する
 その他、初回の講義時に紹介する予定

【参考文献】

授業時に適宜紹介する

心理学専門演習 I

担当教員 前堂 志乃

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講では、卒業研究の前段階として、心理学の各研究法を理解しその手続きを身につけることを目的とする。具体的には、2グループに分かれてのグループ研究を行う。グループでの討議と協働を通して、自らの問題意識とリサーチクエスションの関係づけ、文献検索、文献の読み込み、研究テーマの発見、研究デザインの設定、研究計画の策定、実験、調査などの計画・実行、データの収集と分析、報告書の作成と発表という一連の研究活動について体験的に学んでいく。このグループ研究活動を通して卒業研究へと繋げていく。

【授業の展開計画】

前期

1週目：オリエンテーション

2週目：心理学の研究の流れと研究論文について

3～9週目：テキストの講読

10週目：グループ研究の流れについて

11週目：問題意識とリサーチクエスションについて

12週目：文献検索と文献レビューについて

13週目：研究テーマの設定、研究デザインと研究計画について

14～15週目：研究テーマの討議と研究グループの編成

後期

1～3週目：グループ研究①文献の読み込みと文献レビュー発表

4～6週目：グループ研究②研究デザインの検討と発表

7～9週目：研究計画の具体化（実験・調査などの準備）

10～12週目：研究の実施（データ収集と分析）

13～15週目：結果の分析と考察およびゼミ論文の執筆・研究報告会

*前期の後半からは研究グループでの活動が主となる

*前・後期ともに定期的なゼミでの発表と討議、個別指導を組み合わせる

【履修上の注意事項】

4年次での卒業研究につなげるため、グループでのゼミ研究を行う。グループ研究活動へ自発的・積極的に取り組むことを通して、さまざまな意見をもつメンバーと討議・協働しながら1つの研究を立ち上げて一定の結論を得るという達成感を味わって欲しい。4年次の卒業論文演習のゼミとの合同の勉強会や、合同ゼミも計画している。学年を超えての学習活動に主体的に参加することで、相互に刺激し、学び合える関係を体験して欲しい。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、ゼミ論の作成と提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

①都筑学（2008）．心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣

②小塩真司・西口利文（2008）．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版

【参考文献】

参考図書は、講義の中で適宜紹介する。

心理学専門演習 I

担当教員 平山 篤史

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理学の文献・先行研究を精読し、独自の研究計画を立てる。その計画に基づき、心理学研究の研究法の一つである質問紙調査法を用いて実際のデータを収集し、まとめ、発表をする。さらに、自らの研究を再検討しなおし、卒業論文のテーマを設定する。テーマとしては以下のものを取り上げる。

1、大学生の対人交流に関する研究 2、大学生の適応・不適応（対人不安、シャイネスを中心に）に関する研究 3、グループアプローチ・グループ活動に関する研究 4、動作法に関する研究

【授業の展開計画】

以下の内容で授業を展開する。

- 1、心理学研究を進めるための文献・資料の検索、収集
- 2、文献・論文の精読
- 3、研究計画の作成
- 4、質問紙調査表の作成
- 5、質問紙調査の実施とデータとまとめ
- 6、質問紙調査の結果のまとめと考察
- 7、プレゼンテーションの準備
- 8、研究の再検討
- 9、卒業論文のテーマ設定と研究計画

【履修上の注意事項】

受講生自身が積極的・主体的に考え、意見を述べることを求める。演習の時間だけでは研究を進めることはできない。普段から自分で積極的・自主的に研究を進めていかなければならない。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 2「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版
松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社

【参考文献】

適宜紹介する。

心理学専門演習 I

担当教員 上田 幸彦

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

卒論作成の前段階として、実際の臨床心理学論文を幅広く読み、理解できる力を身につける。同時に、これまで知らなかった幅広い対象者に心理学的アプローチが可能であり、さまざまな心理学的研究方法があることを知ることで、各自の卒論構想の幅を広げることを狙いとする。論文講読とディスカッションを通して、現在の臨床心理学の知見がどのようにして得られたのかを理解し、研究テーマ設定、文献検索、仮説構築、検証といった一連の研究手続きができるようになることをねらいとする。領域は、主に中途身体障害、慢性疾患、高次脳機能障害、リハビリテーション、認知行動療法の中から基礎的な論文を読む予定である。

【授業の展開計画】

前期においては、各自が興味あるテーマを発表したあと、中途身体障害、慢性疾患、高次脳機能障害、認知行動療法などの領域の基礎的な論文を輪読する。夏休み中には、上記の領域の中から指定された文献の一つを読み書評を書く。夏休み明けから、その概要を報告し、内容についてディスカッションを行う。後期においては、文献の輪読を続けながら、各自関心のある領域の一つを選び、その領域の論文を3つ以上読むことを課題とする。その中の1つについて概要を発表する。最終的には読んだ3つの論文の概要を提出する。適宜、各自の卒論研究についての構想を報告し、全体でディスカッションを行う。

【履修上の注意事項】

自分の発表以外の時に、積極的に疑問を持ち、質問し、考えを述べるのが求められる。授業中に積極的にディスカッションに参加するためには事前準備をしっかりと行うことが必要となる。行動療法、障害児・者心理学、神経心理学を受講していることが望ましい。

【評価方法】

授業への出席状況と、ディスカッションの積極性、前期、後期に提出されたレポートから総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

心理社会的リハビリテーションのキーワード
M.G. イーゼンバーク編 野中 猛・池淵恵美 監訳 岩崎学術出版社

心理学専門演習Ⅰ

担当教員 山入端 津由

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期は、前半、社会心理学、教育・発達心理学、臨床心理学領域で行われている研究の紹介、同研究で用いられている研究方法の理解を目指す。後半、「心理学基礎演習(後期)」における各自の質問紙調査発表の内容を検討する。特に、デザイン、質問紙の質問項目構成、統計処理等の次元で検討する。後期は、各自、各グループが関心のある領域の学术论文(原著論文)を読む(仮説設定、研究法、データの読み方を学ぶ)。文献調査を行い、その中から卒業論文に結びつける学术论文を選択して、購読する。最終的に、卒業研究の計画を立てる。

【授業の展開計画】

1	オリエンテーション	17	各自、各グループ(4名構成)の文献発表
2	臨床社会心理学領域の論文の購読	18	原著論文を選択し、内容について報告会を行う
3	帰属理論と臨床心理学	19	同
4	同	20	同
5	同	21	同
5	自己理論と臨床心理学	22	同
7	同	23	同
8	自己呈示・自己開示と臨床心理学	24	同
9		25	同
10	攻撃理論と臨床心理学	26	各自、各グループによる卒業論文のテーマ検討
11	教育・発達心理学領域の論文の購読	27	同
12	各自の「質問紙調査発表」の検討	28	同
13	同	29	同
14	堂	30	総括と討議
15	堂	31	テスト
16	同		

【履修上の注意事項】

受講生には、自ら積極的に課題処理を行うことが要請されている。率先して課題を処理し、かつゼミ仲間が互いに支えあいながら前向きに授業に臨んでほしい。

【評価方法】

授業への参加状況、課題へ取り組む態度、発表態度や発表要領などの工夫の程度、レポートのまとめ方や内容等について評価する。

【テキスト】

指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

心理学専門演習 I

担当教員 井村 弘子

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

この演習は卒業論文の前段階として、心理学の各領域の研究方法を理解し、卒業論文のテーマを発見することを目的にしている。そのために前期では文献の検索、読み込み、発表を行い、研究に必要な基礎知識を習得する。後期では、各自の関心のあるテーマについて前期で学んだ研究方法を基にデータを収集しレポートにまとめる。こうした一連の活動を通して卒業論文のテーマを絞り込むことを最終目的にしている。

【授業の展開計画】

前期では心理学の領域や研究方法について、文献を通して理解を深める。そのために、各自が論文を読み、概要を報告すると同時に、論文の特徴や課題について発表する。その際、その論文のテーマと方法についても十分に理解して説明することが求められる。発表者だけでなく、全員の理解が深まることを目的にしているため、受講者全員が主体的に討論に参加することが求められる。なお、取り上げる論文については講義時に紹介する予定である。後期では、前期で学んだことを基に、各自で関心のあるテーマを絞り、そのテーマについて予備的な実験、行動観察、調査等の手法を用いてデータを収集、整理して結果をレポートにまとめる。また、レポートを基に発表用の資料を作成し、口頭発表する。最後に、卒業論文のテーマを絞り込み大まかな研究計画を立てる。

【履修上の注意事項】

この演習は、受講生自身が積極的に考え、行動することを基本にしている。したがって、常に疑問をもち、それを解決しようとする姿勢をもって参加すること。また、遅刻や欠席をせず、受講することが前提条件である。

【評価方法】

授業への参加状況、課題に対する取り組みの態度および発表や提出されたレポートにより評価する。

【テキスト】

杉本敏夫（著）「心理学のためのレポート・卒業論文の書き方」サイエンス社

【参考文献】

各自のテーマに沿って紹介する。

心理学と職業

担当教員 前堂志乃・平山篤史・上田幸彦・井村弘子・山入端津由

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業では、心理カウンセリング専攻の学生が心理学を学んだのち、社会とどのように関わることになるのかについて学ぶ。まず、心理学という学問の性質と実際の仕事のなかでの心理学の研究成果の生かされ方などについて学ぶ。そして、心理学の知識を生かせる職業について、学生自身で調べ報告する。さらに、心理学を学んで就職している卒業生から、心理学と現在の仕事について話を聞き、心理学と職業についての考えを深める。加えて、心理学を学んだ者が仕事をしている県内の施設等を訪問し、心理学の現場について具体的に学ぶ。

【授業の展開計画】

講義計画については、初回の授業時に説明する。

【履修上の注意事項】

この授業は、施設を訪問して体験的な学習を行うため、ある程度まとまった時間を確保する必要がある。そのために、夏期集中講義の形式で行う。また、特殊な形式の授業であるため、受講は心理カウンセリング専攻の学生に限定する。

【評価方法】

- ①出席：出席表に必要事項の記入して提出
 - ②コメントシート：毎回のテーマについて、感想・意見などを書いて提出する
 - ③ディッシュカッションへの参加：各時間ごとにグループディスカッションを行い、話し合った内容を発表する
 - ④まとめのレポート：心理学と職業全体を通して学んだことについてのレポートを提出する
- ①～④を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

授業時に適宜紹介する

心理学特講 A

担当教員 佐藤 郁哉

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

質的研究法、とりわけフィールドワークの基本的な発想と質的データ分析の技法について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講師のフィールドワーク体験から
2	リサーチ 科学的調査とは？
3	筋の良いテーマとは？
4	密着取材・体験取材としてのフィールドワーク
5	観察研究としてのフィールドワーク
6	聞き取り調査としてのフィールドワーク
7	定性的（質的）調査の発想（1）：問題のあるサーベイとの比較から
8	定性的（質的）調査の発想（2）：定性・定量の区分とトライアングレーション
9	漸次構造化法の発想
10	ワークショップ1（MAXqdaソフトによる質的分析）
11	ワークショップ2（MAXqdaソフトによる質的分析）
12	ワークショップ3（MAXqdaソフトによる質的分析）
13	ライブラリーワークと人間関係のマネジメント
14	フィールドノートをつける
15	Q & A セッション—フリーディスカッション（ゲスト講師参加？）
16	テスト

【履修上の注意事項】

指示した点については事前学習をしておく。配布資料中、「・・・」などで示した箇所は授業時に提示する。資料中「Quiz」と書いてある箇所については、予習の際にあらかじめ答えを考えておく。

【評価方法】

テストを行う。出席回数等を参考にする。成績評価は厳格である。

【テキスト】

『組織と経営について知るための 実践フィールドワーク入門』佐藤郁哉著 有斐閣 2002

【参考文献】

『暴走族のエスノグラフィ—モードの叛乱と文科の呪縛』佐藤郁哉著 新曜社 1984 『フィールドワーク 書を持って街へ出よう』佐藤郁哉著 新曜社 1992 『組織エスノグラフィ』金井壽宏、佐藤郁哉、キテオン・クダ、ジョン・ヴァン・マーネ著 有斐閣 2010 『質的データ分析法 原理・方法・実践』佐藤郁哉著 新曜社 2008

心理学理論と心理的支援

担当教員 一金武 育子

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する 2. 人の成長・発達と心理との関係について理解する。 3. 日常生活と心の健康との関係について理解する。 4. 心理的支援の方法と実際について理解する。この授業では、以上を目的に、心理学の理論と心理的支援について考えていきます。理論と実践をつなぐ作業でありたいと思いますので、積極的な参加と「感じる心」、個々人の意思の表明に基づく相互理解を通して、ともに作り上げていきたいと思っています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	人の心理学的理解：認知・思考
3	人の心理学的理解：感情・情緒
4	人の心理学的理解：自己理解・他者理解
5	人の成長・発達と心理：人間発達について
6	人の成長・発達と心理：主要な発達理論について①
7	人の成長・発達と心理：主要な発達理論について②
8	日常生活と心の健康：心の健康とは？
9	日常生活と心の健康：ストレス社会の実際
10	日常生活と心の健康：ストレスマネジメント
11	心理的支援の方法と実際：援助するということ
12	心理的支援の方法と実際：カウンセリング・マインド
13	心理的支援の方法と実際：交流のワーク
14	心理的支援の方法と実際：傾聴のワーク
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・自分自身で自主的に考え、行動し、人間理解（発達心理学）・心理的支援（臨床心理学）の視点を身に付けてください。
- ・過度の遅刻、私語、携帯電話の使用などにおける、自己制御（管理）可能な方のみ受講してください。

【評価方法】

出席、レポート&各回のコメント、期末試験（1回）を総合的に評価する予定である。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版
 石田 潤 他共著 「ダイアグラム心理学」 北大路書房 その他、講義中に適宜紹介する

心理検査法 I

担当教員 井村 弘子

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

心理臨床学的アセスメントを行う際の手法のひとつである心理検査について概説を行い、代表的な心理検査について理解を深める。また、心理検査の実習を通して、心理学的人間理解の意義や方法、専門的手法を用いて人を理解しようとするときの心構えや倫理的問題についても体験的に学ぶ。前期はパーソナリティの特徴を把握するための心理検査を実際に試行し、結果を分析した上で、検査所見をまとめる実習を行う。

【授業の展開計画】

1. パーソナリティ理解のための心理検査
2. パーソナリティの構造とテスト・バッテリー
3. 心理検査と倫理問題
4. 心理検査①-1 (質問紙法・実施法と実習)
5. 心理検査①-2 (質問紙法・理論的背景)
6. 心理検査①-3 (質問紙法・所見のまとめ方)
7. 心理検査②-1 (作業検査法・実施法と実習)
8. 心理検査②-2 (作業検査法・理論的背景)
9. 心理検査②-3 (作業検査法・所見のまとめ方)
10. 心理検査③-1 (投映法その1・実施法と実習)
11. 心理検査③-2 (投映法その1・理論的背景)
12. 心理検査③-3 (投映法その1・所見のまとめ方)
13. 心理検査④-1 (投映法その2・実施法と実習)
14. 心理検査④-2 (投映法その2・理論的背景)
15. 心理検査④-3 (投映法その2・所見のまとめ方)
16. 最終レポート作成・提出

【履修上の注意事項】

使用する検査器具や図版、用紙などの数に限りがあるため、受講者数を限定する。受講者は実習する心理検査についての講義を受け、検査の実施方法・手順等を十分に身につけた上で実習を行う必要がある。また、検査結果は実習した検査ごとにレポート提出してもらう。心理検査を実施する過程での倫理上の問題等から、心理検査についての知識が重要であるため、欠席・遅刻の多い学生は受講できなくなることもある。十分に留意して受講してほしい。

【評価方法】

出席状況、提出されたレポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

上里一郎監修 「心理アセスメントハンドブック」第2版 西村出版
氏原寛 他編 「心理査定実践ハンドブック」 創元社

心理検査法Ⅱ

担当教員 平山 篤史

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

心理臨床学的アセスメントを行う際の手法のひとつである心理検査について概説を行い、代表的な心理検査を実習する。心理検査の実習を通して、心理学の人間理解の意義と方法や、専門的手法を用いて人を理解する上の心構えや倫理的問題を体験的に学ぶ。

特に前期では人間の知能検査を用いて、人間の認知的な特徴を理解する検査の実習を実際に施行し、結果を分析、検査所見をまとめる。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション /心理アセスメントとは
- 2 心理アセスメントと心理検査
- 3 心理検査と倫理問題
- 4 田中ビネー式知能検査とウェクスラー式知能検査
- 5 知能とは ・ 検査器具の取り扱いと実施 ・ 実習前試験
- 6 ウェクスラー式知能検査の実施
- 7 ウェクスラー式知能検査の結果の整理
- 8 ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方①
- 9 ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方②
- 10 田中ビネー式知能検査の実施
- 11 田中ビネー式知能検査の結果の整理
- 12 田中ビネー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方①
- 13 田中ビネー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方②
- 14 まとめ 人を理解するという事
- 15 予備日

【履修上の注意事項】

使用する検査器具などの数に限りがあるため、受講者数を限定する。受講者は講義、自習を通し、検査の実施方法・手順等を十分に身につけた上で検査実習を行う必要がある。また、検査結果をレポートにまとめ提出してもらう。心理検査を実施する上での倫理上の重要な注意点、心理検査についての知識が不可欠であるため、遅刻・欠席の多い者は受講を認めない。*初日のオリエンテーションに重要な説明をする。参加できない者は受講を認めることができない。何らかの事情で初日のオリエンテーションに参加できない者は、事前に相談に来ること。

【評価方法】

出席状況、検査所見レポート2つ、試験（1回）、実習前課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

日本版WISC-Ⅲ知能検査 日本文化科学社 /WISC-Ⅲアセスメント事例集 藤田和弘他（編著）日本文化科学社
軽度発達障害児の心理アセスメント 上野一彦他（編）日本文化科学社 / 田中ビネー知能検査Ⅴ 田研出版

心理統計学基礎

担当教員 前堂 志乃

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義は、「心理統計学」「心理学研究法」という心理学研究にとって重要な柱となる専門科目の基礎づくりをする科目である。また、心理学基礎演習で取り組む基礎実験実習、心理学専門演習Ⅰ、心理学専門演習Ⅱで取り組むゼミ研究、卒業研究と卒業論文につながる学習スキルの基礎を身につける科目でもある。講義、ワーク、グループディスカッション、課題などを通して、心理学研究の中での心理統計学の位置づけや役割を理解し、今後の心理学の専門の学習に必要な学習スキルと心理統計の基礎を身につけて欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	心理学研究と心理統計学①
3	心理学研究と心理統計学②
4	心理学の文章作法①
5	心理学の文章作法②
6	心理学の文章作法③
7	心理統計学の基礎知識①
8	心理統計学の基礎知識②
9	データ測定の基本①
10	データ測定の基本②
11	データ整理の基本①
12	データ整理の基本②
13	データの効果的な提示方法①
14	データの効果的な提示方法②
15	心理学の論文の基本的かたち・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

- ・心理カウンセリング専攻1年次および2、3年次編入生にとって、重要な科目となるので心理カウンセリング専攻学生を優先して登録する
- ・心理統計学や心理学研究法について理解するためには、「自分でやってみる：自分で体験する、自分で気づき、発見する、自分で考えること」が大切である。講義やワーク、グループディスカッション、課題等に自ら積極的に取り組もうとする知的好奇心と自発性を持って受講して欲しい。

【評価方法】

出席：キーワード調べ、クイズへの回答などをもって出席点とする
 ワーク：心理統計学、心理学研究法に関連する基礎課題をいくつか課す
 期末課題：学期末にいくつかの期末課題を課す
 出席、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である

【テキスト】

テキストは特に指定しない

【参考文献】

講義時に適宜紹介する

心理統計学 I

担当教員 大城 亘武

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理学は人間の心や行動を研究対象とし、観察や実験、質問紙法による調査やインタビューなど、何らかのかたちで心理特性を測定して分析する。その際に有効な手段の一つが統計的手法である。本講義では、統計リタラシの養成を目標とする。すなわち、心理学関連論文を読みとり、自ら実施した調査研究のデータ解析ができることを目指す。このためコンピュータを用いて実際にデータ分析をおこない、分析手法の使い分け、結果の読みとり方について実習する。

【授業の展開計画】

統計解析は統計パッケージSPSS (Statistical Package for Social Sciences) を使用する。

- 1 週目 インTRODクシヨンと尺度について
- 2 週目 統計パッケージSPSSについて
- 3 週目 基本当計量を求める
- 4 週目 範囲、分散、標準偏差
- 5 週目 度数分布とヒストグラム
- 6 週目 正規分布、標準偏差を求める
- 7 週目 データの標準化、偏差値
- 8 週目 ふりかえり実技テスト (記述統計ほか)
- 9 週目 相関係数と散布図 (ピアソンの偏差積率相関)
- 10 週目 回帰係数
- 11 週目 t-分布と2つの平均との差の分析 (1)
- 12 週目 t-分布と2つの平均との差の分析 (2)
- 13 週目 F分布と2つの分散の比較
- 14 週目 カイ2乗分布と度数の差 (1)
- 15 週目 カイ2乗分布と度数の差 (2)
- 16 週目 期末考査

【履修上の注意事項】

抽選となった場合は、心理カウンセリング専攻の4年次、3年次、2年次の順で優先して抽選する。
遅刻・欠席をしない。
後期に開講する心理統計学IIも履修すること。

【評価方法】

出席5%、課題25%、テスト70%の比率で評価する。

【テキスト】

小塩真司 2006 『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析』 東京図書 ￥2,500+税

【参考文献】

特になし

心理統計学Ⅱ

担当教員 大城 亘武

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理学は人間の心や行動を研究対象とし、観察や実験、質問紙法による調査やインタビューなど、何らかのかたちで心理特性を測定して分析する。その際に有効な手段の一つが統計的手法である。本講義では、統計リタラシの養成を目標とする。すなわち、仮説検定を中心にコンピュータを用いて実際にデータ分析をおこない、分析手法の使い分け、結果の読みとりと解釈、考察の仕方について実習する。

【授業の展開計画】

統計解析は統計パッケージSPSS (Statistical Package for Social Sciences) を使用する。

- 1 週目 登録・ガイダンス、診断テスト
- 2 週目 仮説検定と2種の誤まり
- 3 週目 t-検定 (1)
- 4 週目 t-検定 (2)
- 5 週目 t-検定 (3)
- 6 週目 分散分析 (1)
- 7 週目 分散分析 (2)
- 8 週目 分散分析 (3)
- 9 週目 ふりかえり実技テスト
- 10週目 カイ二乗検定 (1)
- 11週目 カイ二乗検定 (2)
- 12週目 重相関係数と多変量回帰分析
- 13週目 多変量回帰分析
- 14週目 因子分析 (1)
- 15週目 因子分析 (2)
- 16週目 期末考査

【履修上の注意事項】

抽選となった場合は、心理カウンセリング専攻の4年次、3年次、2年次の順で優先して抽選する。
遅刻・欠席をしない。
心理統計学Ⅰを履修済みであること。

【評価方法】

出席5%、課題25%、テスト70%の比率で評価する。

【テキスト】

小塩 真司 2004 『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析』 東京図書
00+税

¥2,8

【参考文献】

特になし

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」では、現在の児童の置かれている社会環境はもちろんのこと、児童福祉の理念、発展、制度・サービス、児童が抱える諸問題、児童家庭福祉分野の専門職及び援助活動の実際等について学ぶ。その中で、父母の第一義的養育責任とともに、社会の子育て家庭へのさまざまな支援が児童家庭福祉の重要な課題となっていることを理解する。

【授業の展開計画】

- ①オリエンテーション・授業の説明
- ②現代社会と子ども家庭 その1
- ③現代社会と子ども家庭 その2
- ④子どもと家庭福祉とは何か その1
- ⑤子どもと家庭福祉とは何か その2
- ⑥子どもと家庭福祉とは何か その3
- ⑦子ども家庭福祉にかかわる法制度 その1
- ⑧子ども家庭福祉にかかわる法制度 その2
- ⑨子ども家庭福祉にかかわる法制度 その3
- ⑩子ども家庭にかかわる福祉・保健 その1
- ⑪子ども家庭にかかわる福祉・保健 その2
- ⑫子ども家庭にかかわる福祉・保健 その3
- ⑬子ども家庭への援助活動 その1
- ⑭子ども家庭への援助活動 その2
- ⑮振り返り
- ⑯テスト

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、子どもを取り巻く環境(学校・教育・福祉・地域)に関心を持ち、可能ならば新聞・テレビ等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。さらに、児童家庭福祉に関する法改正等には注目・関心をもつこと。
なお、本科目は社会福祉士国家試験の必修科目となっているので、注意すること。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート及びテストを総合して評価する。なお、開講時間数の3分の1以上欠席(公欠除く)をすると試験が受けられませんので、注意すること。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会 編集(2010)：『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度(第2版)』、中央法規。

【参考文献】

ミネルヴァ書房編集部(各年版)：『社会福祉小六法』、ミネルヴァ書房。

情報リテラシー

担当教員 仲地 健

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、学生が少なくとも講義や演習、就職活動等に関わる情報収集、課題レポートの作成、学生と教員間、または学生間のコミュニケーション等に必要とされる基礎的なコンピュータ活用能力の養成を目指す。

具体的には、学内の情報環境に即したコンピュータ操作や日本語文書処理、表計算処理、プレゼンテーション表現等に加え、インターネットを利用した情報収集等情報技術の活用に関わる基礎的技能の習得を図る。”

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	パソコン教室の利用環境とその利用の仕組み
2	OS (Windows) の基本的処理と操作
3	キータイピングと日本語入力の実習
4	日本語文書処理 1 (簡単なビジネス文書の作成編集)
5	日本語文書処理 2 (罫線表の作成・編集)
6	日本語文書処理 3 (クリップアート等図形の挿入、印刷処理等)
7	日本語文書処理 4 (画像ファイル等の挿入等)
8	表計算処理 1 (ワークシートと簡単な表作成、編集処理)
9	表計算処理 2 (四則計算処理、簡単な関数処理)
10	表計算処理 3 (グラフ作成)
11	表計算処理 4 (データの検索、並び替え等)
12	表計算処理 5 (ピボットテーブル、集計処理関数等)
13	プレゼンテーションの仕組みと基本操作①
14	プレゼンテーションの仕組みと基本操作②
15	情報倫理
16	期末試験

【履修上の注意事項】

受講は人間福祉学科の学生に限定する。

【評価方法】

出席、学期末試験、課題提出に基づき評価する。

【テキスト】

講義時に指定する。

【参考文献】

人格心理学

担当教員 一渡嘉敷 あゆみ

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、人格（パーソナリティ）について主要な理論を概観することで、自己・他者理解を深めることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：人格心理学とは
2	人格の定義と形成について
3	人格理論①類型論
4	人格理論②特性論
5	人格理論③フロイトの心理・性的発達理論
6	人格理論④エリクソンの心理・社会的発達理論
7	人格理論⑤ユングのタイプ論
8	人格理論⑥主要5因子モデル
9	人格と環境
10	人格と心の病①
11	人格と心の病②
12	人格と心の病③
13	人格の査定①
14	人格の査定②
15	人格の査定③
16	テスト

【履修上の注意事項】

ワークやディスカッションも取り入れるので、積極的な姿勢で講義に臨んで頂きたい。

【評価方法】

出席、授業態度、ワークシート、テストで総合的に評価する。

【テキスト】

なし。随時、資料を配付する。

【参考文献】

講義を通して紹介する。

人体の構造と機能及び疾病

担当教員 鈴木 信

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 身体の仕組み（解剖）と働き（生理）を理解した上に系統臓器別に主な疾病についての知識を得る。2. 社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験の受験のための資格科目であるため、国家試験受験に必要な知識を修得して、国家試験に備える。3. MSW、PSW、臨床心理士に最も基礎になる知識であるから、福祉・心理の専門科目を履修するために身体についての基礎知識の修得は必須である。4. 高校の保健福祉の教師を目指す者にも必須科目である。

【授業の展開計画】

- 1週 4月8日 「医療と寿命」 医療の発展とともに人間の寿命がどのように変わったか
 2週 4月15日 「病気と健康」 “病気と健康の間の病態の段階を知る
 病気の原因や健康の原因を理解する
 医学と医療学の違いを知る”
 3週 4月22日 「運動と骨格」 “運動中枢の指令によって関節を超えた、筋肉の収縮
 により身体活動が起こる。
 その生理と病態を知る。”
 4週 5月6日 「摂食と消化」 食物を摂取消化し身体の組織となる過程を知る
 5週 5月13日 「血行動態」 心臓と血管系の血行動態を知る
 6週 5月20日 「心臓の自動能力」 心臓の刺激伝導系と固有心筋の活動を知る
 7週 5月27日 「排泄」 内呼吸とネフロンを通しての老廃物の排泄機能を知る
 8週 6月3日 「妊娠と分娩」 性殖・妊娠・分娩の意義と経過を知る
 9週 6月10日 「臓器相関」 “ホルモンを介しての臓器相関を知る
 代謝に関わる肝臓・脾臓の働きを理解する”
 10週 6月17日 “血液と免疫” “姿の一定しない臓器である体液、血液の組成
 とその臨床的意義を知る。
 身体を襲うストレス（しんしゅう）への免疫的対応を知る。”
 11週 6月27日 「脳で感知」 感覚器で感受したインパルス（刺激）から脳は独特のイメージをつくる
 12週 7月1日 「脳の働き」 脳の中核局在と総合的機能の理解
 13週 7月8日 「内部環境とストレス反応」 “内部環境をコントロールする視床下部とストレス
 反応を理解する”
 14週 7月15日 「人の死」 人の死を分析しホスピスとスピリチュアルヘルスを考える
 15週 7月22日 「テスト」
 16週 7月29日

【履修上の注意事項】

1. 必ず予習をしてくること。2. 毎回コメント用紙を授業開始時に配布し、終了時に提出する。3. コメント用紙を回収し士する。4. 授業開始時20分以内でコメント用紙を手渡すが、20分以降の遅刻者は欠席とする。5. 欠席者は公認の欠席届を一週以内に提出する。無断で欠席は-1.0点、公欠は約-0.5点。6. 欠席者は1週以内に自製のコメントを提出する。7. 事情によっては欠席点、コメント点の減点を少なくする。8. 公認の欠席届けがないと無断欠席とみなし、±1、欠席の場合、コメント用紙の提出がないとコメント点も-1点。

【評価方法】

・発表点 20点 ・出席点 20点 ・コメント点 20点 ・予習による評価、質問等への参加 20点
 ・テスト点 20点
 1～4の項目（出席、発表、討論）で80点を獲得し者はテストを免除する。なお、遅刻は4回をもって1回欠席とする。

【テキスト】

【参考文献】

- 1 配布した資料 3 社会福祉士養成講座「医学一般」
 2 医療科学 4 新・社会福祉士養成講座「人体の構造と機能及び疾病」

スクールソーシャルワーク論

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

「スクールソーシャルワーク(以下、SSW)論」では、今日の学校現場の抱える課題とスクールソーシャルワーカー(以下、SSWr)を導入する意義、その必要性等について理解を深める。また、米国をはじめとする海外のSSWrの役割と活動について学ぶとともに、その実践モデル、スーパービジョンの必要性に関して理解する。そして最後に、アセスメントとケース検討会の意義について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の目的等
2	今日の学校現場が抱える課題とSSWrを導入する意義 その1
3	今日の学校現場が抱える課題とSSWrを導入する意義 その2
4	SSWの歴史(日本)
5	海外のSSWrの役割と実践 その1
6	海外のSSWrの役割と実践 その2
7	SSWの実践モデル その1
8	SSWの実践モデル その2
9	SSWの支援方法 その1
10	SSWの支援方法 その2
11	SSWの支援方法 その3
12	スーパービジョンの必要性
13	アセスメントとケース検討会 その1
14	アセスメントとケース検討会 その2
15	アセスメントとケース検討会 その3
16	テスト

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、SSW限らず、子どもを取り巻く環境(学校・教育・福祉・地域)に関心を持ち、可能ならば新聞・テレビ等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート及び期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

日本スクールソーシャルワーク協会編(2008)：『スクールソーシャルワーク論』、学苑社。

【参考文献】

門田光司(2010)：『学校ソーシャルワーク実践』、ミネルヴァ書房。学校SW学会編(2008)：『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』、中央法規。山下英三郎(2006)：『相談援助—子どもたちとの関わりを中心に—』、学苑社。宮嶋ほか編著(2010)：『子どもの豊かな育ちへのまなざし—SSW実践ガイド—』、(株)久美。

ストレス・マネジメント

担当教員 平山 篤史・他

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心身の健康の維持・増進・回復への支援を考えると、ストレスについての諸理論と実践的支援法を学ぶことは重要である。この講義では、ストレスについての基本的理論を学習し、実際に臨床現場で用いられているストレス支援の心理学的な支援技法について学ぶ。心理学的な支援技法については、実技も取り入れ、受講学生が、日常生活でのストレスへ適切に対応し、自らの心身の健康の維持増進に資することもねらう。本講義は、専任教員と臨床現場で活躍する臨床心理士がオムニバスで担当し、地域での心理学専門家の役割についてもふれる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	ストレスとは何か
3	心理学的ストレスモデルの概要とその構成要因①
4	心理学的ストレスモデルの概要とその構成要因②
5	心理学的ストレスモデルの概要とその構成要因③
6	心理学的ストレスモデルに関連する諸要因①
7	心理学的ストレスモデルに関連する諸要因②
8	ストレスの測定と評価
9	ストレス研究のトピックス①
10	ストレス研究のトピックス②
11	ストレスへの対応と支援
12	実技：自律訓練法
13	実技：動作法
14	実技：呼吸法
15	実技：認知行動療法
16	試験

【履修上の注意事項】

実技も行うので、真剣に、積極的に取り組んでほしい。

【評価方法】

出席状況・受講態度・授業中に行うミニレポート・試験結果を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

適宜紹介する。

精神医学

担当教員 知名 孝 他10名

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

この講義では、精神医学の基礎（生物・神経学的、心理学的基礎、疾患・症状という基礎概念、その他精神医学理解のための基礎知識）に関する学習を行う。それをふまえ、各論では代表的な精神疾患についての学習を行っていく。治療論・リハビリテーション論のなかでは、医療的側面だけでなく、福祉、行政、教育、そして社会状況等の要因、あるいは地域文化に根ざした治療など、精神科サービスに付随する様々な取組も含め紹介・学習していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	導入・オリエンテーション（知名孝）	17	心理発達の障害（仲俣明夫）
2	精神医学の基礎（仲俣明夫）	18	心理発達の障害（仲俣明夫）
3	精神医学の基礎（仲俣明夫）	19	ジェンダーの問題と精神疾患（竹下小夜）
4	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	20	ジェンダーの問題と精神疾患（竹下小夜）
5	同上（大鶴卓）	21	職場環境と精神疾患（山本和儀）
6	統合失調症、統合失調症型障害、妄想性障害	22	職場環境と精神疾患（山本和儀）
7	同上（與那覇康博）	23	精神障害者支援（安村勤）
8	気分障害（躁うつ病・うつ病）（長田清）	24	精神障害者支援（安村勤）
9	気分障害（躁うつ病・うつ病）（長田清）	25	医療観察法と精神障害（真栄城兼秀）
10	症状性を含む器質性精神障害（小林敬）	26	医療観察法と精神障害（真栄城兼秀）
11	症状性を含む器質性精神障害（小林敬）	27	コメディカルと精神医学実践（平安良次）
12	地域精神医療（知念襄二）	28	コメディカルと精神医学実践（平安良次）
13	地域精神医療（知念襄二）	29	まとめ（知名孝）
14	神経症性障害（比嘉司）	30	後期テスト（知名孝）
15	人格障害（比嘉司）	31	テストの解答説明・講義の評価（知名孝）
16	心理発達の障害（仲俣明夫）		

【履修上の注意事項】

この講義は複数講師によるオムニバスにより行われます。

【評価方法】

講義第1回目（オリエンテーション）資料に記された年間の課題が出される。その課題の提出状況、出席、各講師の講義の要約と感想、期末テストを総合的に評価を行う。

【テキスト】

講義の中で指定する予定。

【参考文献】

精神科リハビリテーション学

担当教員 知名 孝

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

障害の種類にかかわらず、ノーマライゼーションの実践は地域におけるリハビリテーションを前提とする。精神障害者を対象としたリハビリテーションは、精神障害という性質からくる独自性が存在する。当事者として、家族として、市民として、そして人間として、障害とそして精神障害とともに生きることを考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	精神科リハビリにかかわる機関－保健所等
2	精神障害と精神疾患Ⅰ	18	その他関係機関
3	精神障害と精神疾患Ⅱ	19	リハビリテーション実践（計画・アセス）
4	障害者リハビリテーションという考え方	20	疾病の経過・ライフサイクル
5	精神科リハビリテーションの歴史・考え方	21	作業療法、レクリエーション療法
6	精神障害者をとりまく環境・制度（日本）	22	集団精神療法
7	精神障害者をとりまく環境・制度（国外）	23	行動療法（理論と実践）
8	精神科リハビリテーションの対象	24	認知行動療法（理論と実践）
9	リハビリテーションにおける精神保健福祉士	25	心理教育実践
10	チームをつくる	26	SSTの実際
11	脱施設化について	27	デイナイトケア
12	病院精神医療の現状	28	社会的状況でのリハビリテーション
13	社会復帰施設と社会資源	29	軽症うつ病、不安障害のリハビリ
14	社会復帰施設と社会資源Ⅱ	30	児童・思春期への実践／まとめ
15	前期まとめ	31	
16	精神科リハビリにかかわる機関－医療		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出物（宿題・講義中の課題）、授業への参加態度、学期末試験を総合的に評価をだす。

【テキスト】

『精神保健福祉士養成講座3 精神科リハビリテーション学』（精神保健福祉士養成講座編集委員会編集、中央法規）

【参考文献】

『リカバリーへの道』（マーク・レーガン著、前田ケイ監訳 金剛出版）
『精神科リハビリテーション学』（蜂矢英彦、岡上和雄監修 金剛出版）

精神保健学

担当教員 渡邊 浩樹

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

この20年足らずの間に社会福祉士、精神保健福祉士や臨床心理士などメンタルヘルスを取りまく資格制度が充実されてきた。それと同じくして、昨今の児童青年期が被害・加害として巻き込まれた凶悪事件、中高年の自殺、職場における精神疾患特にうつ病の問題、性犯罪の問題、軽度（高機能）発達障害の問題など、以前には比較にならないほどの多様なニーズと問題を精神保健福祉はつきつけられている。本講義では精神医療、保健、福祉など様々な現場に対応すべく、精神保健福祉の多様なニーズを紹介しながら問題提起と議論を深めていきたい

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・講義への導入	17	ひきこもり（学校・家庭の精神保健）
2	「精神」保健と社会	18	軽度（高機能）発達障害と精神保健
3	精神保健の概要	19	児童青年期のうつ病
4	精神疾患について（レビュー）	20	その他児童青年期の精神保健について
5	精神疾患について（レビュー）	21	DVと精神保健
6	ライフサイクルと精神保健福祉（乳幼児期）	22	児童虐待と精神保健
7	ライフサイクルと精神保健福祉（就学前期）	23	中高年の自殺、うつ病、EAP
8	ライフサイクルと精神保健福祉（学童期）	24	アルコール依存症
9	ライフサイクルと精神保健福祉（青年前期）	25	薬物依存症
10	ライフサイクルと精神保健福祉（青年後期）	26	慢性精神疾患と保健・福祉
11	ライフサイクルと精神保健福祉（成人期）	27	慢性精神疾患と保健・福祉
12	ライフサイクルと精神保健福祉（中高年期）	28	諸外国の精神保健福祉
13	精神障害者に対する精神保健福祉	29	
14	老人性痴呆疾患対策	30	全体まとめおよびテスト
15	前期まとめおよびテスト	31	
16	いじめと登校拒否（学校精神保健）		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

前期・後期それぞれの学期末にテストを行う。

【テキスト】

レジュメプリント

『精神保健福祉士養成講座 2 精神保健学』精神保健福祉士養成講座編集委員会編集（中央法規）

【参考文献】

精神保健福祉援助技術各論

担当教員 高橋 忍

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

精神保健福祉領域における援助ならびに援助者としての視点等について学んでいく。
内容としては、精神障害者の疾病および障害特性を考慮した上での、生活援助に必要とされる個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術等について総合的な理解を深め、その援助課程における精神保健福祉士の役割や業務内容についての知識および技術について学んでいく。さらに視聴覚教材等を用いて、欧米、日本国内等で開発され、現在、取り組まれているモデル等についても紹介をし、複合的な視野を持つ一助としたい。

【授業の展開計画】

講義のなかで詳細説明する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

テスト

【テキスト】

【参考文献】

精神保健福祉援助技術総論

担当教員 山城 涼子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

精神保健福祉分野で働くということを理解する。ソーシャルワークを総合的に学ことで、人を支援する人間として気づきを促す。精神保健福祉士として必要な知識を習得する。精神保健福祉士国家試験に備える。

【授業の展開計画】

テキスト（精神保健福祉援助技術総論）を参考に、講義を進めていきます。

- ◎精神保健福祉援助活動について（歴史的経過・内容と機能・理論と動向・目的と価値・課題と展望）
- ◎精神保健福祉援助技術について（体系・定義と概念・内容と機能・ライフサイクル）
- ◎精神保健福祉士について（専門性・倫理・共通基盤）
- ◎国家試験について（過去問題）

【履修上の注意事項】

8月の集中講義となっています。

【評価方法】

前期・後期の授業への積極的な参加（発言等）、試験やレポートの結果を基に評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉援助技術総論 中央法規出版

【参考文献】

:精神保健福祉用語辞典 中央法規出版

:新精神医学ソーシャルワーク 柏木昭 岩崎学術出版社 :精神障害者の地域生活支援 田中英樹 中央法規出版

:ジェネラルソーシャルワーク 大田義弘ら 光生館。その他講義を進めていく中で随時紹介いたします。

精神保健福祉論

担当教員 真栄平 勉・山城 涼子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 6

【授業のねらい】

精神保健福祉分野で働くということを理解する。精神保健福祉分野から障害者のおかれた状況を歴史や制度を通して理解する。精神保健福祉士として必要な知識を習得する。精神保健福祉士国家試験に備える。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

前期は山城が、後期は真栄平が講義を担当するため、両講師が行う試験及びレポートの評価、出席状況等を元に、精神保健福祉論の最終的な評価を行う。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座 4 精神保健福祉論 中央法規出版

【参考文献】

精神保健福祉用語辞典 中央法規出版社、平成22年度版 厚生労働白書 厚生労働省、※その他、講義を進めていく中で随時紹介する

生理心理学 I

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

生理心理学には、心理的事象の生理的基礎の解明を目指す狭義の生理心理学と、心身の相互関係や心理的状态に対応する生理反応の測定解析を行う心理生理学が含まれている。本講義では、広義の生理心理学とその関連領域に関する基本的知識に最新の知見を交えながら解説することを試みる。生理心理学の研究方法のなかでも脳や神経系の活動を測定する方法は、最近の脳科学の目覚ましい発展を反映して、より重要性を増している。生理心理学 I では、こういった現状を鑑み、脳神経系の基礎を重点的に学習する。

【授業の展開計画】

- | | | |
|----|---------------|--------------|
| 1 | 生理心理学とは | |
| 2 | 脳の構造 | |
| 3 | 〃 | |
| 4 | ニューロンとシナプス | |
| 5 | 〃 | |
| 6 | 感覚・知覚と脳 | |
| 7 | 〃 | |
| 8 | 運動と脳 | |
| 9 | 〃 | |
| 10 | 本能と脳 | |
| 11 | 〃 | |
| 12 | 情動と脳 | |
| 13 | 〃 | |
| 14 | 自律神経系及び内分泌系と脳 | |
| 15 | 〃 | 16回目にテストを行う。 |

【履修上の注意事項】

I、IIの順で続けて履修することが望ましい。

【評価方法】

期末試験及びレポートの結果により評価する（試験8割、レポート2割）。レポートの詳細は講義で説明する。なお、出席日数が2/3に満たない場合、単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

生理心理学Ⅱ

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生理心理学には、心理的事象の生理的基礎の解明を目指す狭義の生理心理学と、心身の相互関係や心理的状态に対応する生理反応の測定解析を行う心理生理学が含まれている。本講義では、広義の生理心理学とその関連領域に関する基本的知識に最新の知見を交えながら解説することを試みる。生理心理学Ⅱでは、認知過程に関する神経心理学的研究及び、脳波に基づく心身の相互関係等について概説する。

【授業の展開計画】

- | | | |
|----|----------------------------|--------------|
| 1 | オリエンテーション及び脳神経系に関する基本事項の復習 | |
| 2 | 薬物と脳（オピオイド、覚醒剤、アルコール等） | |
| 3 | 〃 | |
| 4 | 〃 | |
| 5 | 言語と大脳半球機能差（言語野と失語症） | |
| 6 | 〃（言語機能と性差） | |
| 7 | 〃（右半球症状から見た半球機能差） | |
| 8 | 脳波の基礎（測定法・分析法） | |
| 9 | 〃（基本の脳波と異常脳波） | |
| 10 | 〃（睡眠と脳波及び脳波の利用） | |
| 11 | 誘発電位と事象関連電位 | |
| 12 | 事象関連電位、特にP3の特徴と利用 | |
| 13 | ストレスとリラクセーション（ストレス時の反応） | |
| 14 | 〃（測定法） | |
| 15 | 〃（ストレス反応のコントロール） | 16回目にテストを行う。 |

【履修上の注意事項】

生理心理学Ⅰを先に履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験及びレポートの結果により評価する（試験8割、レポート2割）。なお、出席日数が2/3に満たない場合、単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 小柳 正弘

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

「福祉」「人間」「自我」「倫理」「自由」「障害」などとの関わりについて、理念と現実の両面をみすえた社会哲学の見地から、さまざまに考察を試みたい（学生自身がその重要性を他者に伝えたいと感じている問題であれば、どのような問題でも私のゼミでは議論のテーマとすることができる）。哲学は本来、対話を通して常識や自分自身の考え方・感じ方をのりこえ、さまざまな問題を多面的に（ときに根底的に）検討することをめざすものなので、この授業でも教員が諸説を紹介するのみならず、学生それぞれが考えていることや感じていることを書いたり話したりするかたちで「ともに考える」ことを中核に据える。

【授業の展開計画】

このゼミでは、参加者それぞれの問題意識をできるだけ活かしつつ、みんなで議論しながら、人間や福祉のありかたに関わるさまざまな問題について、あれこれ考えてみることをめざします。また、議論の素材としては、文献だけでなく、映像やフィールド・ワークのようなものも積極的に導入します。

第1回～第5回 セルフ・プレゼンテーションの技法や論文作法についての学習

第6回 その後の、具体的なテーマ、議論の素材とする文献、映像、フィールド・ワークについて概要を決定

前期は、園芸福祉実習、後期は、施設見学を実施する予定。

半期に最低1回は具体的な議論のテーマや議論の素材を参加者それぞれに提案してもらいます。

【履修上の注意事項】

授業に主体的に参加することが肝要。みずから学ぶ意欲のある受講生をのぞむ。

【評価方法】

授業への参加、報告、レポートの総合評価で成績を判断します。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

当演習ゼミは、都市社会のコミュニティの構築に関する知識を実践的に学習し、将来的に地域（福祉）計画やまちづくりに関するリーダーやコーディネーター、さらに社会問題やマイノリティの問題などに関するネットワーク構築などの人材を育成していくためのゼミである。その学習過程において地域の諸問題や実践的課題を整理し、記述していくために「社会調査」の技法を取り入れ、問題の発見から社会調査の実施、報告書の執筆までをとおして、都市コミュニティに関する洞察力をさらに深めていくための共同研究・相互学習の場にしていく。

【授業の展開計画】

当演習ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。そのテーマとは「都市の多元的世界と空間の政治に関する社会学的探求」と題する。すなわち、都市における空間の権力構造と多様な生活世界とのせめぎあいや交渉過程から描かれる、新たな都市コミュニティのあり方を模索するための理論的、および実践的研究を行なうものである。とくに、生活世界の諸相を捉える場合、都市マイノリティに対するまなざしということを前提として考えたい。

専門演習 I（2年）ゼミでは、前期に都市空間の権力構造の諸問題に関する理論的学習を行い、次に都市マイノリティとその個別具体的な生活世界を理解するための学習を行なう。夏期休暇期間中は、文献・資料と併せて都市地域（調査予定地）の事前視察と関係各機関・団体を事前訪問し予備的調査を行う。後期は今年度のゼミの共通テーマを確定・具体化し、さらに下位テーマを抽出する。下位テーマに即して春季休暇期間中に資料等の収集を行なう。

【履修上の注意事項】

「都市社会学 I・II」ならびに「社会調査法 I・II」を履修していることが望ましい。

【評価方法】

専門演習 I は、3年次「専門演習 II」の調査実習に向けての準備期間、予備的調査（資料収集、共同学習、成果発表）を主たる内容とするため、その共同学習の場における課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、出席状況や受講中の態度、共同学習に対する積極性は当然評価の必須項目とする。

【テキスト】

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

【参考文献】

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

当基礎演習では国際社会における福祉問題を幅広く学ぶことを目的とする。

【授業の展開計画】

授業は議論形式で、国際社会における福祉問題の論点を学んでいく。各回の授業ごとにグループ発表をもとに授業をすすめる。本講義に関連する国際フィールドワークへ参加をすすめ、夏休みにハワイ州のソーシャルワークについて現地で体験学習を実施する。後期には国外、国内および沖縄にある国際社会福祉組織について学ぶ。その中で沖縄県内にある国際機関・組織への訪問学習を実施し現場学習をする。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	Orientation	17	Orientation
2	グローバリゼーション時代の意義	18	発表グループ決め、テーマ決め
3	国際社会福祉の意義と展望 I	19	国際フィールドワーク報告
4	国際社会福祉の意義と展望 II	20	Student Presentation ①
5	国際社会福祉の課題	21	Student Presentation ②
6	「拡大する格差」を引き継ぐ未来世代	22	Guest Lecture
7	アジアの貧困と環境問題	23	Student Presentation ③
8	国際社会システムの形成とその視点 I	24	Student Presentation ④
9	国際社会システムの形成とその視点 II	25	Student Presentation ⑤
10	Guest Lecture	26	JICA国際協力フェスティバル参加
11	国際社会福祉の領域における日本の役割	27	Student Presentation ⑥
12	JICA見学ツアー	28	Student Presentation ⑦
13	社会福祉のグローバル化と国際協力	29	Guest Lecture
14	国際社会福祉の新たな方向	30	Student Presentation ⑧
15	沖縄県国際人材育成財団の活動について	31	Family Support Center Visit
16	まとめ		

【履修上の注意事項】

- ・講義は主に英語で行い英語の文献を併用するため、福祉英語基礎、福祉英語 I・II を履修することや各自で英語の学習をすることが望ましい。
- ・「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドのp149を参照し、「社会調査の基礎」、「社会調査の企画と設計」、「統計学I」を履修すること。

【評価方法】

- ・出席状況、演習中の議論、発表の内容など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

- ・仲村優一、他『グローバリゼーションと国際社会福祉』

【参考文献】

- ・ジェームス ミッジリイ (1999) 『国際社会福祉論』中央法規
- ・M. C. Hokenstad, James Midgley (1997) Issues in International Social Work, NASW Press.
- ・その他、適宜資料を配布または紹介する

専門演習 I

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

広くは「児童家庭福祉」をテーマとするが、全体を通してグループディスカッションや論文講読を行い、プレゼン能力や論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等の福祉現場や教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。
また、授業のねらいとして、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。

【授業の展開計画】

子どもの抱える問題の背景には保護者を含む家庭の問題が関わってくる。つまり、子どもと関わる際には家庭で起こる問題を避けて通ることができない。そのため、第一に子どもを取りまく環境を理解する。

特に「スクールソーシャルワーク」と「ソーシャルワークスキル」に焦点をあてて展開する。その柱は下記に示す。

①「スクールソーシャルワーク」

- ・その現状及び課題
- ・諸外国の現状（英書購読含む）
- ・学校等関係機関訪問 等

「ソーシャルワークスキル」

- ・社会福祉専門職（社会福祉士）として現場で求められるスキル（対個人・グループ）の修得
- ・各機関・施設の社会福祉士らとの交流 等

なお、現場理解のために施設・機関への訪問も計画している。

【履修上の注意事項】

本科目の主旨を理解し、積極的に授業に参加すること。

【評価方法】

本科目の主旨を鑑み、授業態度（積極的な参加等）、出欠状況、レポート等を総合して判断する。

【テキスト】

必要に応じ開講時に提示する。

【参考文献】

必要に応じ開講時に提示する。

専門演習 I

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本専門演習のねらいは、高齢社会を迎え、多様化する保健・医療・福祉の諸問題に対応できる人材を育成することである。特に、高齢社会を背景として、医療（病院）から福祉（在宅・高齢者福祉施設）への連携を担う人材（MSW：医療ソーシャルワーカー）が強く求められており、その即実践可能な人材の育成は不可欠であると考えられる。なお、本ゼミは主に医療ソーシャルワーカーを目標とする学生が履修を希望し、登録するため、4年まで一貫した演習を実施していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	専門演習ガイダンス	17	グループ課題の報告1、2グループ
2	グループエンカウンター①仲良くなるろう	18	グループ課題の報告1、2グループ
3	グループエンカウンター②仲良くなるろう	19	医療ソーシャルワーカーって？
4	グループ編成 グループ課題決定	20	医療ソーシャルワーカーの役割
5	グループ課題達成のための計画①	21	患者様・・・・・・・・
6	グループ課題達成のための計画②	22	学外講師招聘（医療ソーシャルワーカー）
7	学外講師招聘	23	病院で起こった困った問題①
8	話題提供 認知症	24	病院で起こった困った問題②
9	話題提供 医療保険	25	3年生談話（医療現場実習で感じたこと）①
10	話題提供 介護保険	26	3年生談話（医療現場実習で感じたこと）②
11	話題提供 医療施設の種類	27	グループ課題報告書作成①
12	話題提供 介護保険施設の種類の種類	28	グループ課題報告書作成②
13	生活習慣病を知ろう①	29	グループ課題報告書作成③
14	生活習慣病を知ろう②	30	後期振り返り
15	生活習慣病を知ろう③	31	1年間を振り返って
16	前期振り返り		

【履修上の注意事項】

本専門演習を履修する学生は、医療福祉論、社会保障論、保健医療サービス、老人福祉論の科目を履修することが望ましい。

【評価方法】

演習への出席、受講態度、意見発表の積極性、課題提出状況など総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

演習時に随時紹介する。

専門演習 I

担当教員 知名 孝

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

最近、発達障害（LD、ADHD、アスペルガー障害、軽度知的障害）、児童思春期の精神疾患（うつ病・不安障害・リストカット・摂食障害・その他）などの問題が、生活問題・家庭の問題への発展していくことが多く見られます。このゼミでは、これらの「問題」の医学的定義、家族生活、地域生活での具体的問題を学習し、これら問題についてどのような支援が行われていくべきかを問い続けながらゼミを進行していこうと考えています。現在の福祉制度のなかで、どのような支援が行われていくべきかに焦点をあてていこうと思います。

【授業の展開計画】

1. 発達理論：エリクソン、フロイト、M. マーラー、ボウルヴィーなどの発達理論から、人の成長・発達について考えていく。
2. 診断学：発達障害、子ども特有の精神疾患について掘り下げて学習する。DSMやICDなどの疾患分類をきちんと把握する。行動アセスメント・心理アセスメントが理解できるようにする。
3. 地域支援：自立支援法におけるサービスについて制度上の学習、自立支援協議会とそれに付随した分科会の果たす役割。様々な公的機関、各種事業所の役割。
4. 支援理論：支援理論については以下のようにまとめられる。
 - i) ソーシャルワーク理論：機能主義的理論からシステムズ理論に影響されたソーシャルワーク理論、そして昨今のナラティブアプローチなどのソーシャルワーク理論。特に「調整」に関する支援理論を中心に。
 - ii) グループ実践：SST（ソーシャルスキル・トレーニング）、心理教育プログラムなど。
 - iii) ミリエュー（生活場面介入）：TEACCHやABAなど、施設生活・児童デイ生活のなかで具体的な介入のための支援理論を中心に。
 - iv) 面接法：地域支援は人とのやりとり。やりとり法（＝面接法）はSWにとって重要な技術。
5. 実習・実践：児童デイサービスや日中一時支援、児童思春期心療内科クリニックなどでボランティア実習、自立支援協議会の見学、自立支援協議会圏域部会の見学、（ある市町村の）性行動問題部会の見学など。
6. 社会的に考える視点：「子ども達の行動の問題」が投げかける意味（唯物論的意味の検証）、「診断」、「障害」という現象の社会構成主義的認識。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、ゼミ活動（ゼミ中のディスカッション、活動、ボランティア実習など）、課題提出などにもとづき評価していく。

【テキスト】

ゼミのなかで指定していく

【参考文献】

ゼミのなかで指定していく

専門演習 I

担当教員 岩田 直子

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

- ①社会をつくるセクターとして期待されているNPO活動について、福祉国家、福祉社会、社会的企業の視点から研究する。
- ②沖縄県内のNPO活動と長期にわたって関わりを持ち、地域社会の問題解決およびまちづくりの手法について学ぶ。
- ③広く国内外のNPOの実践例について学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション①演習の目的について	17	夏休みの活度報告会②
2	オリエンテーション②年間計画	18	NPOに関する文献購読①
3	NPOに関する文献購読①	19	NPOに関する文献購読②
4	NPOに関する文献購読②	20	NPOに関する文献購読③
5	NPOに関する文献購読③	21	NPO活動参加への準備①
6	NPOに関する文献購読④	22	NPO活動参加への準備②
7	NPO活動支援センター訪問	23	NPO活動参加への準備③
8	県社会福祉協議会訪問	24	NPO団体訪問
9	ゲストスピーカーによる実践報告	25	ゲストスピーカーによる実践報告
10	グループ研究～理論を中心に～①	26	中間報告会①
11	グループ研究～理論を中心に～②	27	中間報告会②
12	グループ研究～理論を中心に～③	28	中間報告会③
13	グループ研究発表会①	29	報告集作成①
14	グループ研究発表会②	30	報告集作成②
15	夏休みの活動について	31	
16	夏休みの活動報告会①		

【履修上の注意事項】

- ①演習はゼミ生どおしが活発に関わりあい、知識や経験を共有し、互いに高めあう場である。個々の学生がゼミの仲間と積極的に学びあうことが期待される。
- ②学外の活動やイベント（NPOに関する講演会や研究会、NPO団体の活動など）に積極的に参加することが期待される。
- ③演習時には研究論文を多数読む。日頃から図書館を活用して知識を広げることが期待される。

【評価方法】

- ①演習で取り組む課題の内容
- ②演習および学生による自主的な活動への積極的な参加状況
- ③出席状況
- その他

【テキスト】

第1回演習時に提示する

【参考文献】

第1回演習時に提示する

専門演習 I

担当教員 保良 昌徳

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本専門演習Ⅱの目的は2点である。①我が国の医療構造を理解する。特に、病院完結型医療から地域完結型医療への推進による「地域連携」のあり方について理解を深める。②「医療資源」「医療用語」「医療保険制度」「介護保険制度」について、演習を通して理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション（計画・調整）	17	後期オリエンテーション（計画・調整）
2	我が国の医療資源①人・物・財	18	介護保険サービスを理解する①資源
3	我が国の医療資源②病院・診療所	19	介護保険サービスを理解する②資源
4	沖縄県における医療資源①医療施設	20	介護保険サービスを理解する③資源
5	沖縄県における医療資源②医療施設	21	介護保険サービスを理解する④社会人招聘
6	演習：病院を理解する①	22	演習：介護保険施設理解①見学（グループ）
7	演習：病院を理解する②	23	演習：介護保険施設理解②見学（グループ）
8	医療資源①医療従事者（MSWを中心に）	24	演習：介護保険施設理解③見学（グループ）
9	医療資源①医療従事者（MSWを中心に）	25	演習：連携ケーススタディ（相談援助実習）
10	演習：MSWを理解する①社会人招聘（MSW）	26	演習：連携ケーススタディ（相談援助実習）
11	演習：MSWを理解する②面接調査（グループ）	27	演習：連携ケーススタディ（相談援助実習）
12	演習：MSWを理解する③面接調査（グループ）	28	演習：連携ケーススタディ（相談援助実習）
13	演習：MSWを理解する④面接調査（グループ）	29	演習：連携ケーススタディ（相談援助実習）
14	報告会①：演習成果を全員で共有する。	30	報告会：演習成果を全員で共有する。
15	報告会②：演習成果を全員で共有する。	31	振り返り
16	前期振り返り		

【履修上の注意事項】

医療ソーシャルワーカーを目指す学生で、専門演習Ⅰで安次富ゼミを履修した学生が望ましい。

【評価方法】

演習報告、課題提出、ゼミ出席状況など総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。資料についてはその都度配布する。

【参考文献】

①改訂医療ソーシャルワーク実践50例：川島書店、大谷昭他 ②ソーシャルワーカーのための病院実習ガイドブック：勁草書房、村上須賀子他 ③医療に従事する人のための患者接遇マナー基本テキスト：日本能率協会マネジメントセンター、田中千恵子 ④イラスト図解医療費のしくみ、日本実業出版社、木村憲洋他

専門演習Ⅱ

担当教員 保良 昌徳

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

「専門演習Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、「専門演習Ⅱ」では、各学生の関心のある児童家庭福祉をテーマに深めていく。全体を通してグループディスカッションや論文講読を行い、プレゼン能力や論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等を中心に福祉現場や教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、ゼミのねらいとして、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。

【授業の展開計画】

子どもを取り巻く環境を総合的に理解する。特に、子どもの貧困や児童虐待、社会的養護などに焦点をあてその背景等を理解する。併せて、学校現場における支援方法の一つであるスクールソーシャルワークについて理解を深めていく。

以下に「子どもの貧困」「児童虐待」「社会的養護（集団・個別）」及び「スクールソーシャルワーク」に関する学びの柱を示す。

- ①「子どもの貧困」
 - ・その現状及び課題
 - ・諸外国の現状 等
- ②「児童虐待」
 - ・その現状及び課題
 - ・諸外国の現状 等
- ③「社会的養護」
 - ・集団養護（施設）及び個別養護（里親）それぞれの現状及び課題
 - ・諸外国の現状
 - ・児童福祉施設・機関訪問 等
- ④「スクールソーシャルワーク」
 - ・その役割・機能
 - ・その現状と課題
 - ・学校等関係機関訪問 等

【履修上の注意事項】

本科目の主旨を理解し、積極的に授業に参加すること。

【評価方法】

本科目の主旨を鑑み、授業態度（積極的な参加等）、出欠状況、レポート等を総合して判断する。

【テキスト】

必要に応じ開講時に提示する。

【参考文献】

子どもの貧困白書編集委員会編(2009)：『子どもの貧困白書』、明石書店。日本子ども家庭総合研究所編(2009)：『子ども虐待対応の手引き』、有斐閣。山野・野田・半羽編(2011)：『よくわかるスクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。日本SSW協会編(2008)：『スクールソーシャルワーク論』、学苑社。

専門演習Ⅱ

担当教員 知名 孝

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

最近、発達障害（LD、ADHD、アスペルガー障害、軽度知的障害）、児童思春期の精神疾患（うつ病・不安障害・リストカット・摂食障害・その他）などの問題が、生活問題・家庭の問題への発展していくことが多く見られます。このゼミでは、これらの「問題」の医学的定義、家族生活、地域生活での具体的問題を学習し、これら問題についてどのような支援が行われていくべきかを問い続けながらゼミを進行していこうと考えています。現在の福祉制度のなかで、どのような支援が行われていくべきかに焦点をあてていこうと思います。

【授業の展開計画】

前半は児童思春期のメンタル、虐待ひきこもりや児童虐待等と関連する生活問題について理解を深めていけるような学習をすすめていくようにしたい。後半は学生それぞれが自らの興味関心を見つけることができ、次年度の卒業論文研究へとつなげられるような学習をすすめていく。

【履修上の注意事項】**【評価方法】**

出席、課題提出、ゼミ活動への参加態度・状況などを総合的に評価する。

【テキスト】

テキストおよび参考文献についてはゼミの中で連絡する。

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

当演習ゼミは、都市社会のコミュニティの構築に関する知識を実践的に学習し、将来的に地域（福祉）計画やまちづくりに関するリーダーやコーディネーター、さらに社会問題やマイノリティの問題などに関するネットワーク構築などの人材を育成していくためのゼミである。その学習過程において地域の諸問題や実践的課題を整理し、記述していくために「社会調査」の技法を取り入れ、問題の発見から社会調査の実施、報告書の執筆までをとおして、都市コミュニティに関する洞察力をさらに深めていくための共同研究・相互学習の場にしていく。

【授業の展開計画】

当演習ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。そのテーマとは「都市の多元的世界と空間の政治に関する社会学的探求」と題する。すなわち、都市における空間の権力構造と多様な生活世界とのせめぎあいや交渉過程から描かれる、新たな都市コミュニティのあり方を模索するための理論的、および実践的研究を行なうものである。とくに、生活世界の諸相を捉える場合、都市マイノリティに対するまなざしということを中心として考えたい。

専門演習Ⅱ（3年ゼミ）では、2年次の後期に各自設定した社会調査のテーマに基づいて、調査方法、調査項目立てや質問紙づくり、および調査実習に関する企画設計を行い、夏期休暇期間中の社会調査実習に備える。社会調査の実施は8月下旬か9月上旬を予定している。後期は調査実習で得られたデータを整理し、報告書の執筆と作成を行なう。なお、調査予定地は、沖縄島の中南部都市圏の中からコミュニティを複数の地点で取り上げ、その空間の政治とせめぎあう様々な生活世界の層を取り上げていく。

【履修上の注意事項】

「都市社会学Ⅰ・Ⅱ」ならびに「社会調査法Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【評価方法】

専門演習Ⅰは、3年次「専門演習Ⅱ」の調査実習に向けての準備期間、予備的調査（資料収集、共同学習、成果発表）を主たる内容とするため、その共同学習の場における課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、出席状況や受講中の態度、共同学習に対する積極性は当然評価の必須項目とする。

【テキスト】

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

【参考文献】

予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

専門演習Ⅱ

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

国際社会福祉の領域では、途上国をはじめとする世界全体の社会福祉問題へのとりくみとソーシャルワーカーによる役割が重要となっている。本演習では、専門演習Ⅰで学んだ国際社会福祉に関する問題や論点について、国際福祉の観点からグループ調査を通して体験的に学ぶことを目的とする。社会福祉領域で国際的に、また特に沖縄において、今後ますます重要となる高齢化問題に焦点を当てる。グループ調査をとおして社会調査士の資格を習得し社会福祉の視点から問題背景や現状を学び、課題研究へつなぐ。

【授業の展開計画】

【前期】

- ・沖縄の高齢者福祉問題に関するテーマに沿って、グループごとに社会調査調査計画（調査方法・質問紙の作成など）を行う
- ・夏休み中に「社会調査」実習を実施

【後期】

- ・実習の報告発表を行う
- ・グループ毎に課題研究の進め方とまとめ方の指導を行う
- ・課題研究報告書作成を進め
- ・ゼミ全体での調査報告書を完成させる

【履修上の注意事項】

- ・演習は英語と日本語で行い、英語の文献も使用するため、「福祉英語基礎」「福祉英語Ⅰ・Ⅱ」を履修することや、各自で英語の学習をすることが望ましい。
- ・「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、「社会調査の基礎」「社会調査の企画と設計」「統計学Ⅰ」「社会統計学Ⅰ・Ⅱ」「専門演習Ⅰ・Ⅱ」を履修すること。

【評価方法】

- ・出席状況・レポート発表の内容・演習中の議論など授業への参加意欲・課題研究の内容を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明・高橋一朗著
演習時に適宜紹介する

【参考文献】

よくわかる学びの技法第2版（ミネルヴァ書房）田中共子編

専門演習Ⅱ

担当教員 岩田 直子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

行政、企業、NPOの「協働」による社会福祉実践について、その理論を学ぶと共に、「協働」の現状や課題について学ぶ。

また、参加学生の関心分野においてどのような協働が行われているのか、どのような課題があるのか深く追究する。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

- ・専門演習Ⅰでみつけた各自の関心テーマを深く研究することを目標とする。なので、演習時間以外にも、積極的に関連NPOに関わること。
- ・図書館を活用し、広く視野を広げることを期待する。
- ・ゼミ生とおし、互いに高めあい、成長しあうことを期待する。

【評価方法】

出席状況、レポート提出状況およびレポート内容、議論への積極的参加など

【テキスト】

随時、文献および資料を紹介する

【参考文献】

相談援助の基盤と専門職

担当教員 一竹藤 登

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

「相談援助の基盤と専門職」では、まず社会福祉専門職としての社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と意義について理解する。相談援助の概念と範囲、理念についても理解する。さらには、相談援助に係る専門職の概念、範囲及び専門倫理についても理解する。

それらを踏まえた上で、総合的かつ包括的な援助と他職種間の連携の意義と内容について学びを深める。

【授業の展開計画】

前期	後期		
① オリエンテーション・授業の説明	① 後期オリエンテーション・授業説明		
② 社会福祉士の役割と意義 その1	② 専門職倫理と倫理的ジレンマ その1		
③ 社会福祉士の役割と意義 その2	③ 専門職倫理と倫理的ジレンマ その2		
④ 相談援助の定義と構成要素 その1	④ 専門職倫理と倫理的ジレンマ その3		
⑤ 相談援助の定義と構成要素 その2	⑤ 総合的かつ包括的な相談援助の全体像 その1		
⑥ 相談援助の形成過程Ⅰ その1	⑥ 総合的かつ包括的な相談援助の全体像 その2		
⑦ 相談援助の形成過程Ⅰ その2	⑦ 総合的かつ包括的な相談援助の全体像 その3		
⑧ 相談援助の形成過程Ⅱ その1	⑧ 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論 その1		
⑨ 相談援助の形成過程Ⅱ その2	⑨ 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論 その2		
⑩ 相談援助の形成過程Ⅱ その3	⑩ 相談援助にかかる専門職の概念と範囲 その1		
⑪ 相談援助の理念Ⅰ その1	⑪ 相談援助にかかる専門職の概念と範囲 その2		
⑫ 相談援助の理念Ⅰ その2	⑫ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その1		
⑬ 相談援助の理念Ⅰ その3	⑬ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その2		
⑭ 相談援助の理念Ⅱ その1	⑭ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その3		
⑮ 相談援助の理念Ⅱ その2	⑮ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その4		
⑯ 前期末テスト	⑯ 後期末テスト		

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、社会福祉専門職（社会福祉士等）を取り巻く環境に関心をもち、可能ならば新聞・テレビ等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。

特に、関連する法改正等には注目・関心をもつこと。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート及び前・後期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編（2009）：『相談援助の基盤と専門職』、中央法規。

【参考文献】

柳澤孝主・坂野憲司編（2009）：『相談援助の基盤と専門職』、弘文堂。

相談援助の理論と方法

担当教員 知名 孝・岩田 直子・安次富 郁哉・島村 枝美

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 8

準備事項

備考

【授業のねらい】

ここ数年相談支援が委託事業化されることにより、ケアマネジャーや相談支援専門員といわれる、相談支援の専門家が地域の支援サービスの中核として存在しはじめています。この講義では、ソーシャルワークを中心につくりあげられた「相談支援」という実践のあり方・考え方を紹介することを目的とする。ケースワーク、グループワーク、様々な協議会を通じたワークの現実、資源を立ち上げること、社会的支援を組み立てることなど、ソーシャルワーカーとして必要とされる多様な活動の概要にふれていきたい。

【授業の展開計画】

ソーシャルワーカーとして持っていたいいくつかの視点（パラダイム）、理論などの概論と具体的な技法（面接、介入技法など）を組み合わせた講義の構成となっている。前期は知名孝、後期は島村聡を中心に現場実践をリードする講師によるオムニバス講義を展開する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	社会福祉実践とは何か	17	ケアマネジメントの理論と実践
2	ソーシャルワーク実践ってどんなもの？	18	利用者・家族の想いを聴く
3	様々なソーシャルワーク実践形態	19	アセスメントと個別支援計画作成
4	SW理解のためのいくつかの視点（1）	20	社会資源をつくりだす
5	SW理解のためのいくつかの視点（2）	21	支え合うためのグループワーク
6	医療モデル、生活モデル、社会モデル	22	生活場面における支援実践（1）
7	「資源」について－formal vs informal	23	生活場面における支援実践（2）
8	相談援助の展開過程（1）	24	生活場面における支援実践（3）
9	相談援助の展開過程（2）	25	地域活動支援センターの相談支援
10	「契約」について	26	病院場面における相談支援
11	地域支援システム	27	高齢者支援のための相談支援
12	精神分析の考え方とソーシャルワーク	28	ひきこもり・ホームレスと相談支援
13	システム理論・生態学的アプローチ	29	母子保健・療育・教育と相談支援
14	行動変容理論・課題中心アプローチ	30	事例検討
15	ポストモダニズムとナラティブ	31	後期まとめ、1年のまとめ
16	前期のまとめ（テスト）		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

講義の内外で出される課題（毎週だされる課題、講義中のグループワークその他の課題）の提出状況、そして前期・後期に行われる試験の結果を総合的に評価をだす。

【テキスト】

社会福祉士養成講座 『相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ』（最新版）、中央法規

【参考文献】

各担当教員が随時紹介する。

卒業論文演習

担当教員 保良 昌徳

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

4年間の集大成として、これまでに履修してきた講義・演習・実習にて学んだ知識と経験を活かして研究テーマを設定する。一年を通じて、各自の設定したテーマに基づき研究調査の企画と設計、論文・参考文献等の検索方法と収集、データ分析に関する指導等を行う。受講生には主体性をもって取り組むことを強く求める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	データ入力, 分析と集計
2	各自の研究テーマ候補報告	18	データ入力, 分析と集計
3	各自の研究テーマ決定	19	データ入力, 分析と集計
4	卒業論文研究計画書作成	20	データ入力, 分析と集計
5	論文・参考文献等の検索方法	21	データ入力, 分析と集計
6	先行研究などの資料収集	22	データ入力, 分析と集計
7	個別指導	23	個別報告と指導
8	個別指導	24	個別報告と指導
9	個別指導	25	個別報告と指導
10	個別指導	26	卒業論文発表会
11	中間発表	27	卒業論文発表会
12	調査票作成	28	卒業論文発表会
13	調査票作成	29	卒業論文集製作
14	個別報告と指導	30	卒業論文集製作
15	個別報告と指導	31	まとめ
16			

【履修上の注意事項】

個別指導中心となるが、必要に応じて演習を行う。演習時には活発な議論を求める。

【評価方法】

論文作成の過程と最終的に提出された論文を総合的に判断して評価する

【テキスト】

よくわかる卒論の書き方 (ミネルヴァ書房) 白井利明・高橋一郎著
 社会福祉の研究入門-計画立案から論文執筆まで- (中央法規) 久田則夫:編

【参考文献】

よくわかる学びの技法第2版 (ミネルヴァ書房) 田中共子編

卒業論文演習

担当教員 前堂 志乃

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講の目的は、4年間の専門領域の学習の集大成として、自らの問題意識を心理学の専門分野に位置づけた卒業研究を行い卒業論文をまとめることである。まず、心理学の各分野についての学習を通して培ってきた自分なりの問題意識をリサーチクエスチョンとし、卒業論文のテーマを設定、関連文献の読み込み、研究デザインの組立と発表を行う。続いて、研究デザインにもとづき、適合する心理学的研究方法の研究手続きのもと実験・調査等を行い、データを収集・分析し、卒業論文にまとめ、卒論発表を行う。卒論研究を通して、心理学的にものごとを捉え、深く考察し、得られた結論を発信するという、心理学的思考力と研究力を身につけることを目指す。

【授業の展開計画】

前期

1週目：オリエンテーション

2週目：卒業論文の研究デザインと研究計画について

3週目：卒業論文の研究デザインと研究計画の策定

4～7週目：デザイン発表

8～10週目：研究計画の具体化（実験・調査などの準備）

11～15週目：研究の実施（データ収集と分析）

後期

1～12週目：結果の分析と考察および卒業論文の執筆

13週～15週目：ポスター発表の準備と発表

*前・後期ともに定期的なゼミでの発表と討議、個別指導を組み合わせる

【履修上の注意事項】

4年間の心理学に関する学びの集大成となるゼミである。心理学的研究手法の実践を通して卒業論文の作成と発表を達成して欲しい。卒業論文への取り組みを通し、心理学的にものごとを捉え、深く考察し、何かを発見するという、研究する面白さや楽しみをぜひ感じて欲しい。特にグループ研究を推奨する。また、3年次の心理学専門演習Ⅰのゼミとの合同の勉強会や、合同ゼミも計画している。学年を超えての学習活動に主体的に参加することで、相互に刺激し、学び合える関係を体験して欲しい。

【評価方法】

ゼミへの参加度、デザイン発表や卒論発表、卒論の内容などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献】

- ①都筑学（2008）．心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣
- ②小塩真司・西口利文（2008）．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版
- ③その他の参考図書は、講義の中で適宜紹介する

卒業論文演習

担当教員 知名 孝

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学4年間の学びにひとつのパンクチュエーションを与えるものとして卒業論文執筆がある。論文執筆作成にかかる作業を行っていくなかで、自らの大学での学びを振り返り、論文という形でつくりあげる作業をすすしていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期	17	リサーチ計画と実行
2	オリエンテーション	18	論文まとめ
3	リサーチのつくりかた	19	
4	リサーチ資源に関するオリエンテーション	20	
5	論文を読む	21	
6	テーマ、リサーチクエッションの設定	22	
7	リサーチデザインの決定	23	
8		24	
9		25	
10		26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16	後期		

【履修上の注意事項】

自らの学習を振り返り、自分が論文としてとりあげたいテーマについて決めておくこと。ある程度の論文についての構想を持つておくこと。

【評価方法】

中間報告、定期的な課題・執筆状況、最終的な論文などを総合的に評価を行う。

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文演習

担当教員 桃原 一彦

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

各自の設定した研究テーマに沿って、企画・設計、先行研究等の情報収集、調査実施の手順、データの整理と分析、論文作成をおこなう。前期は、6月まで企画・設計、情報収集に関するレクチャーをゼミ全体に対して行うが、7月以降は研究方法の検討と調査実施の手順までを個別面談方式で一緒に議論していく。できるだけ夏期休暇中に調査を実施してもらい、後期はデータや資料の整理と論文作成に集中してもらう。なお、後期も個別面談方式を中心とし、集中的に論文作成を指導する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	年間のスケジュールと諸注意	17	調査実施（適宜個別指導）
2	各自研究テーマ候補の報告	18	調査実施（適宜個別指導）
3	各自研究テーマの確定と発表	19	調査実施（適宜個別指導）
4	同上	20	補足調査に関する指導
5	同上	21	データの整理法の指導
6	同上	22	論文構成の再検討
7	研究の企画・設計に向けての指導	23	個別の進捗報告と指導
8	先行研究の収集に関する指導	24	個別の進捗報告と指導
9	キー概念の活用に関する指導	25	個別の進捗報告と指導
10	論文構成（目次立て）の指導	26	個別の進捗報告と指導
11	調査の企画・設計に向けての指導	27	ゼミ全体での中間発表
12	調査項目立ての諸注意	28	卒論仮提出と修正指導
13	個別の進捗報告と指導	29	卒論本提出
14	同上	30	卒業論文集作成
15	同上	31	
16	調査実施（適宜個別指導）		

【履修上の注意事項】

「卒業論文演習」（4単位・専門基礎必修）と「卒業論文」（4単位・専門選択）は異なるので注意する。演習は通年の4年次ゼミのことを意味し、「卒業論文」は指導教員の適切な指導のもと卒業論文を執筆作成し、指定期日に所定の場所に提出し「可」以上の評価を与えられた者にだけ単位が認められる。また、卒業論文の執筆要領、提出期日および提出場所等は前期に掲示板に掲示されるので、ちゃんと確認すること。（人間福祉学科全学生共通事項）

【評価方法】

「卒業論文演習」は、各演習ゼミ担当教員によって評価が与えられる。「卒業論文」は、担当教員が主査、他の教員が副査となって論文審査を行い、評価が与えられる。論文の評価は、書式（文字数など）、研究の位置づけ（先行研究と論文内容の関係）、全体構成（研究の計画からまとめ方までの手順）、調査方法（調査の計画、実行内容、信頼性や妥当性）、分析方法（適切な手順・方法、客観性等）、考察等（論理的、実証的な論述）、引用・資料等（引用の仕方や表記方法、参考文献の扱い方、資料の使い方や表記）、その他（誤字脱字など）

【テキスト】

とくになし。適宜プリントを配布する。

【参考文献】

中根光敏、他編『社会学に正解はない』松籟社・大谷信介、他編『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房
根本博司、他編『初めて学ぶ人のための社会福祉調査法』中央法規

卒業論文演習

担当教員 岩田 直子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文を作成し、発表することを目標とする。

演習時には、それぞれの研究テーマを共有し、活発に議論することを重視する。

演習を通して、社会福祉学研究の広がりや豊かさ、また、課題について考えることを重視する

【授業の展開計画】

演習では、各自の研究テーマに対して以下のことを行う。なお、本演習に登録した学生の様子を勘案しながら内容を多少変更することもある。

- ①研究方法に関する講義
- ②個別面談
- ③中間報告会
- ④文献検索等ガイダンス
- ⑤卒業論文報告集の作成
- ⑥卒業論文発表会

【履修上の注意事項】

卒業論文を作成する際、時間的に余裕のある計画を立てる

面談時には与えられた課題をしっかりと準備して臨むこと
論文作成のプロセスを重視する。

【評価方法】

卒業論文の作成プロセスおよび論文の内容

演習の参加態度

出席状況

【テキスト】

その都度、資料を配布する。

【参考文献】

久田則夫編(2003)『社会福祉の研究入門—計画立案から論文執筆まで—』中央法規

岩田正美他編(2006)『社会福祉研究法—現実世界に迫る14レッスン—』有斐閣アルマ

卒業論文演習

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

「卒業論文演習」では、4年間の集大成として卒業論文に取り組む。これまでの講義・演習・実習等で得た知識・経験に基づいて各自のテーマを設定する。それぞれのテーマに基づいて、資料収集・調査等を行い、最終的に論文をまとめる。受講する学生の主体的な取り組みが本授業の大きなねらいである。

【授業の展開計画】

- ・オリエンテーション(年間のスケジュール)
- ・各自のテーマ候補の報告
- ・各自のテーマの決定
- ・先行研究等の資料収集
- ・個別の進捗状況の報告と個別指導
- ・中間報告会
- ・個別指導
- ・論文の完成
- ・最終報告会

【履修上の注意事項】

個別指導が主になるが、必要に応じて全体指導を行う。卒業論文は一朝一夕に出来上がるものではなく、これまでの学びの積み重ねで作られるものである。そのため、普段から自身のテーマに関心を持ちデータの収集を行うなどより積極的・主体的に取り組むことが望まれる。

【評価方法】

最終的に提出された論文と論文作成に至ったプロセス等を総合的に判断して評価する。一方、「卒業論文」は担当教員が主査、他の教員が副査となって論文審査を行い最終評価を与える。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

必要に応じて、適宜紹介する。

卒業論文演習

担当教員 上田 幸彦

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文作成を通して、心理学的研究法を身につけることがねらいである。これまでに学習してきたことをもとに、各自が関心のある、かつ臨床心理学的に意義のあるテーマを見出し、そのテーマに基づき、文献検索、文献の読み込み、研究計画作成、データ収集・データ分析を行い、データに基づいた結論を導き出せるようにしていく。またテーマ設定、研究計画、データ収集後の中間発表を通して、他者に分かりやすい論理的な文章の書き方を身につけることもねらいとする。

【授業の展開計画】

前期においては3年次での準備に基づき、すぐに卒論研究計画の発表あるいは予備実験を開始する。その後、データ収集法、データ整理、統計的検定法について具体的な個別指導を受けながら、夏休み前には、あるいは遅くとも夏休み中には本実験の開始、すなわちデータ収集に入れるようにする。

後期においては、すぐに夏休み中に収集したデータの統計分析を終らせ、結果についての中間報告を行う。それに基づき、心理学研究論文としての結果の記述の仕方、考察の展開の仕方について個別に具体的に指導する。これらの指導を受けながら卒業論文を完成させ、最終報告をする。

【履修上の注意事項】

心理学の卒業論文作成は、そのデータ収集に醍醐味がある。最良の状態でこれに取り組めるように計画・準備・実行すること。最終目標は心理学研究論文としての卒業論文を完成させることである。そのために研究計画、中間報告、最終報告の発表を行うが、それぞれの報告を十分に行うためには、早くから準備すること、時間をかけること、そして主体的に研究を進めていく姿勢が必要とされる。こちらからの指示待ちではなく積極的に個別指導を活用してほしい。

【評価方法】

論文作成過程での取り組み方、積極性と提出された論文の内容から総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

APA論文作成マニュアル 江藤裕之他訳 医学書院

卒業論文演習

担当教員 井村 弘子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまで履修した講義、演習等を通して興味をもった問題について関連する文献を読み、卒業論文のテーマを設定する。卒業論文の目的を明確にし、研究デザインの発表を行った後、データの収集を行う。すべてのデータ収集の後、データの分析と整理を行い、中間発表を経て論文を作成し最終発表を行う。受講学生が主体性をもって取り組むことを最大のねらいとしている。

【授業の展開計画】

前期ではまず、研究テーマを絞り、そのテーマに関連する論文を読み、論点を整理する。次に、各自の問題意識に基づき、各自のテーマと先行研究で得られた知見を基に研究の目的を明確にする。そして、研究目的を達成するための方法論を検討し、具体的な研究計画を作成する。6月上旬をめぐりして、研究計画（デザイン）発表・検討する予定である。その後、研究を開始して、データ収集の準備をはじめめる。後期では、収集したデータの分析・考察を行う。10月をめぐりに研究経過の中間発表を行う。12月上旬には、すべてのデータの分析と整理を終え、論文を完成させる。卒業論文を提出後、最終発表を行う。

【履修上の注意事項】

個別指導を中心に行うが、必要に応じて一斉指導を行う。また、卒業論文を作成することを目的としているので、デザイン、中間、最終と各段階での発表を行うことを前提としている。論文を作成するためには毎日の地道な積み重ねが必要となるので、各自が卒業論文作成のための綿密な計画、時間管理、十分な体制を作っておくことを望んでいる。

【評価方法】

提出された論文の内容と論文作成までのプロセスを総合的に評価する。

【テキスト】

個別に助言・提示する。

【参考文献】

松井豊（著）「心理学論文の書き方」河出書房新社
白井・高橋（著）「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房

卒業論文演習

担当教員 山入端 津由

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

前半、関心のある学術文献の調査、購読を経て、卒論テーマの設定を行い、先行研究の整理を通して卒論研究デザインを作成する。その後、具体的な卒業論文作成のための研究計画を立て、調査方法を選択し、予備実験や調査を行う。結果の中間発表を経て、本調査を実施する。後半、得られたデータ（例えば定量データや、定性データなど）で分析を行い、卒業論文を作成し、最終発表を行う。

【授業の展開計画】

- | | | |
|----|--|---|
| 1 | オリエンテーション | |
| 2 | 文献調査・発表・討議（各自、各グループのテーマに関する文献の購読・発表・討議） | 19 結果の分析及び論文作成（結果をきちんと分析し、章立てを行い、論文を作成する） |
| 3 | 同 | 20 同 |
| 4 | 同 | 21 同 |
| 5 | 調査計画（各自、各グループによる調査デザイン、調査計画等の作成） | 22 同 |
| 6 | 同 | 23 同 |
| 7 | 同 | 24 同 |
| 8 | 予備調査（各自、各グループによる予備調査、実験を行う） | 25 同 |
| | 同 | 26 同 |
| 9 | 同 | |
| 10 | 同 | 27 最終発表の準備 |
| 11 | 中間報告（各自、各グループによる予備調査、実験結果と本調査、実験のデザイン発表） | 28 同 |
| 12 | 本調査、実験の実施（各自、各グループによる本調査の実施及びデータの集計・整理を行う） | 29 最終発表 |
| | | 30 報告書の作成 |
| 13 | 同 | |
| 14 | 同 | |
| 15 | 同 | |
| 16 | 同 | |
| 17 | 結果の分析及び論文作成（結果をきちんと分析し、章立てを行い、論文を作成する） | |

【履修上の注意事項】

個別、グループ指導とゼミ全体指導を適宜使い分けながら行う。各個人、グループの進捗状態に合わせて柔軟に対応する。また、学期初めに個別研究かプロジェクト研究科をはっきりさせる。卒業研究のデザイン発表、中間発表、最終発表の3回の発表を行うことを前提としている。論文を作成するためには、具体的名調査手法はもちろん重要であるが、先行研究と仮説の設定抜きには研究が成立しないので、各自が卒業論文作成のために自己管理をきちんと行うように望んでいる。

【評価方法】

提出された論文の適正な審査評定と論文作成過程も含め、総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、助言、紹介する。

【参考文献】

適宜、紹介、助言を行う。

卒業論文演習

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本ゼミのねらいには二つある。一つは、4年間培ってきた専門・基礎知識の集大成、もう一つは、「批判的検討能力」「問題発見・解決能力」を身につけることである。後者については「自ら考え、解決する」能力にほかならない。卒業論文を作成する過程において、まず、問題・課題を含むテーマを決定し（問題発見）、それについて資料収集・調査実施して論理的・実証的に論述（批判的検討）していく。最終的には、テーマに含まれる問題・課題について結論が導き出される（問題解決）ことになる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	オリエンテーション	17	データ入力・集計方法2
2	卒論作成に向けて概説	18	データ入力・集計方法3
3	卒論研究プロトコル作成法	19	データ集計・分析・執筆1
4	論文の書き方①	20	データ集計・分析・執筆2
5	論文の書き方②文献、論文検索	21	データ集計・分析・執筆3
6	卒論テーマ作成のための個人面談1	22	データ集計・分析・執筆4
7	卒論テーマ作成のための個人面談2	23	データ集計・分析・執筆5
8	卒論テーマ作成のための個人面談3	24	データ集計・分析・執筆6
9	卒論テーマ作成のための個人面談4	25	卒論発表会1
10	卒論テーマの決定とプロトコル作成	26	卒論発表会2
11	卒論プロトコル提出	27	卒論発表会3
12	調査票作成1	28	卒論・ゼミ論集制作
13	調査票作成2	29	卒論・ゼミ論集制作
14	調査依頼	30	卒論・ゼミ論集制作
15	データ入力方法講義（CPU室にて）	31	振り返り
16	データ入力・集計方法1		

【履修上の注意事項】

初回のゼミにテーマにしたい内容を発表できるように整理しておくこと。前期で卒論テーマを確定し、夏休み前に社会調査を終了する。なお、安次富ゼミでは量的調査を中心とし、対象者は原則学生とする。したがって、調査実施は前期終了までとし、夏休み中に調査結果を集計分析し、文章を完了させることが望ましい。後期には執筆修正を行っていく。

【評価方法】

完成した卒業論文を客観的評価指標とし、中間口頭発表、論文作成過程、ゼミ参加時態度などを考慮して総合評価する。なお、卒業論文の評価は、主査：指導教員 副査：他教員1名の計2名による。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

随時紹介する。

卒業論文演習

担当教員 平山 篤史

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでに心理学を学んできた集大成として、興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、それを実施し、論文としてまとめ、発表する。心理学の視点から、人間のこころや行動について、科学的に、多面的に、深く、考察する力を養う。人のこころに関する現象を明らかにすることの奥の深さ、面白さを体験してほしい。取り上げるテーマは、以下のテーマを設定している。

1、大学生の対人交流に関する研究 2、大学生の適応・不適応（対人不安、シャイネスを中心に）に関する研究 3、グループアプローチ・グループ活動に関する研究 4、動作法に関する研究

【授業の展開計画】

4月～6月中旬	先行研究・文献の精読と研究デザインの検討
6月末	研究デザイン発表会（問題と目的・方法の検討）
7月～11月上旬	予備調査とデータ収集
11月中旬	中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討）
11月下旬～12月上旬	まとめの作業
12月中旬	卒業論文提出
1月	発表準備（ポスター資料制作、発表練習）
2月中旬	卒業論文発表会

【履修上の注意事項】

積極的・主体的に研究に取り組む姿勢を求める。

心理学研究の基礎を大切にしつつ、オリジナリティーのある研究を行うことを期待する。

研究は一人で行うのは難しい。ゼミ受講生の相互の協力が必要とされる。互いに助け合い、切磋琢磨し研究を進めることを期待する。

【評価方法】

ゼミへの参加態度、研究態度、発表、論文の内容により評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 2「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版
松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社

【参考文献】

適宜紹介する。

地域福祉の理論と方法

担当教員 -上地 武昭

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

○地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。○地域福祉の主体と対象について理解する。○地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。○地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について理解する。○地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	地域福祉の基本的考え方・概念と範囲	17	地域における社会資源の活用・調整・開発の
2	地域福祉の理念・定義	18	地域における福祉ニーズの把握方法と実際
3	地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁	19	質的な福祉ニーズの把握方法と実際
4	護）	20	量的な福祉ニーズの把握方法と実際
5	地域福祉の発展過程	21	地域トータルケアシステムの構築方法と実際
6	地域福祉における住民参加の意義	22	地域トータルケアシステムに必要な要素
7	地域福祉におけるアウトリーチの意義	23	地域トータルケアシステムの構築方法と実際
8	地域福祉の主体と対象について理解する	24	地域における福祉サービスの評価方法と実際
9	社会福祉法（地域福祉の推進）	25	ストラクチャー評価、プロセス評価、アウト
10	行政組織と民間組織の役割と実際	26	福祉サービスの第三者評価事業、I S O、Q
11	地方自治体、社会福祉法人、特定非営利活動	27	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域
12	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域	28	専門職や地域住民の役割と実際
13	地域福祉の主体と対象について理解する。	29	（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活
14	社会福祉士、社会福祉協議会の地域福祉活動	30	地域福祉の主体と対象について理解する。
15	ネットワーキング（多職種・多機関との連携	31	地域福祉の推進方法について理解する。
16	ネットワーキング（多職種・多機関との連携		試験・講義評価・地域福祉の推進課題につい
	地域における社会資源の活用・調整・開発		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席30%、提出物30%、試験40%で評価する。

【テキスト】

中央法規『地域福祉の理論と方法』

【参考文献】

知覚心理学

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

知覚心理学では、実際に自分の感覚や知覚を通して「世界」を感じて理解する過程を意識的に体験しながら「自分の知覚の仕組み」について理解することが重要である。そのため本講は、さまざまな感覚・知覚刺激の観察や簡単な実験などの体験を行いながら進める。さまざまな知覚体験をきっかけに、人間が外界（身の周りの環境）を理解する基本的な心理的能力である”知覚;Perception”の仕組みについて興味・関心を持ち、心理学では知覚についてどのように捉え研究しているのか理解して欲しい。日頃は意識しない”知覚というこころの働き”について目覚めてほしい。

【授業の展開計画】

この講義は、感覚・知覚実験および認知的実験を体験し、その結果について実験グループやクラス全体でディスカッションを行い、知覚の働きについて考えるという形式で進める予定である。実験の材料によって1～2週かけて行うものや、3～4週に渡る場合もある。とり上げる実験と詳細な講義計画については、初回の講義時に説明する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・実験グループづくり
2	知覚とはなにか・五感のメカニズム①
3	実験①盲点の測定・視野測定
4	実験②五感を意識するワーク
5	実験③残像と恒常性
6	実験④色覚①
7	実験⑤色覚②
8	実験⑥視野融合
9	実験⑦注意①
10	実験⑧注意②
11	実験⑨重量弁別①
12	実験⑩重量弁別②
13	実験⑪視覚と聴覚の関連性
14	実験⑫味覚と嗅覚の関連性
15	もういちど知覚とは何か・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

- ・心理学概論、もしくは共通科目の心理学Ⅰを履修済みであると理解しやすい。様々な実験器具や材料を使用した小グループでの実験を行うため、希望者が多い場合、心理カウンセリング専攻学生を優先して登録を行う。
- ・知覚心理学では、「自分で体験すること」「自分で気づいて・発見すること」が大切なので、授業や実験に自ら積極的に取り組もうとする好奇心と意欲のある学生の受講を希望します。

【評価方法】

出席、小実験への参加、課題レポートの提出などを総合して評価する予定

【テキスト】

特に指定しない。授業ごとに必要な資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する

低所得者に対する支援と生活保護制度

担当教員 一金城 鍛

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国外・国内を問わず社会経済状況は不安定な様相を呈しているが、これまでも、様々な生活問題は、社会構造、生活構造に大きく左右されてきた。貧困、低所得により困窮する市民生活に対して、「公的扶助」を中心とした社会保障・社会福祉制度がセーフティーネットとしての役割を果たしてきた歴史的展開、また「生活保護制度」の具体的な実施方法について学習する。制度の実施に当たって、ソーシャルケースワーカーの役割、支援の在り方について、多くの事例を提示する等により考察していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	公的扶助の概念及びその意義と役割について
2	社会情勢と貧困・低所得者の生活問題について
3	公的扶助制度の歴史(海外、日本)及び近年の動向
4	生活保護制度の仕組み(原理、原則)について
5	同 (保護の種類)、(権利・義務について)
6	生活保護の財源について
7	生活保護基準の算定方法について
8	生活保護動向について(1)
9	生活保護動向について(2)
10	低所得者対策(生活福祉資金貸付制度)
11	ホームレス対策について
12	福祉事務所及び関係機関の役割について
13	ケースワークの実際とワーカーの役割について
14	生活保護における自立支援の在り方について
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

講義の中で定期する課題についてのレポート及び期末テストの結果による。

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座「低所得者に対する支援と生活保護制度」第2版 中央法規

【参考文献】

哲学的人間論

担当教員 小柳 正弘

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

「人間」とは何かという問題を哲学の見地からさまざまに検討する。哲学は本来対話を通して常識や自説をのりこえ問題を多面的かつ根底的に検討することをめざすものなので、この講義でも受講者それぞれが書いたり話したりするかたちで、この問題がどのように問題となりうるのかを「ともに考える」ことを中核に据え、グループでの議論・発表・調査なども行う。★第1回のオリエンテーションに出席しなければ登録を取り消す。★

【授業の展開計画】

基本的には、その回の授業のテーマについて、全員に小レポートを書いてもらい、何人かの学生にそれに基づく発言を求め、講義担当者も交えて質疑応答を行う、というやりかた、または、8名程度の小グループで議論(もしくは調査)して結論をまとめ発表し、他のグループや講義担当者と質疑応答・討論する、というやりかたで授業を進める。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション(出席しなければ、原則、登録を認めないし、実質、単位が取得できない)
2	哲学とはなにか(1)
3	哲学とはなにか(2)
4	哲学のモデル—鷲田清一の場合
5	人間の「本質」とは何か
6	ボノボは人間か(1)
7	ボノボは人間か(2)
8	ボノボは人間か(3)
9	「私」とは何か、という問題はどのような問題か(1)
10	「私」とは何か、という問題はどのような問題か(2)
11	「私」とは何か、という問題はどのような問題か(3)
12	社会的自我論(G.H. ミード)
13	独我論(永井均)
14	禅の自我
15	バスカル「人間は考える葦である」をめぐって
16	まとめ

【履修上の注意事項】

小レポートやグループ・ワークのことなど授業のやり方や成績評価について説明するオリエンテーションに必ず出席すること(出席しなければ原則、登録を認めないし、実質、単位が取得できない)。授業への実質的で積極的な参加を強く求める。自分で考え、読んだり書いたりを通して、自分の言いたいことをきちんと話すことができ、他人の言いたいことをきちんと聞きとることができるような能力を練磨しようとする意欲や気概のある受講者を望む。

【評価方法】

テスト(持ち込み不可) = 20点

「ともに考える」ことへの実質的な関わり(小レポート、発言記録票、グループ・ワークの記録など)の評価 = 80点(形式的な出席は評価の対象にしない)

* 私語や途中入退室など、授業へのネガティブな関わりは、ネガティブに評価する。

【テキスト】

B5Eの紙製フラットファイル(赤色)を学内の浅野書房で購入すること。
資料は適宜配付する。

【参考文献】

授業中に、適宜、紹介する。

都市社会学 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

都市社会学 I では「都市（化）という現象を社会的に解釈すること、つまり都市社会学の理論的視座を学び、近・現代都市の諸側面を実践的に理解していくための内容とする。I では、ヨーロッパの初期都市研究とアメリカ・シカゴ学派都市社会学など、古典的な理論的視座を中心に上げ、さらにデュボイスらのブラック・ソシオロジーにおける都市研究についても言及する。さらに、理論的枠組みのみならず、都市の空間構造とインナーエリアの特質、都市エスニシティと貧困・差別問題、抵抗としての文化運動など、具体的な諸事象と実践的学習を取り入れて理解していくことを目的とする。

【授業の展開計画】

授業の展開計画 毎回の講義に際しては、前回講義の「おさらい」的な応答で開始する。次に、講義の本題に入ると基本的に教員からの「発話」が中心となるが、適宜、受講生個人またはグループで学習してもらう。グループ学習は主にワークショップ形式をとるので、あまり緊張せずにリラックスして挑んで欲しい。

週	授 業 の 内 容
1	都市社会学的研究の意義
2	「都市」「都市化」とは何か？—都市社会学の基本的視座—
3	都市社会への理論的まなざし①—近代ヨーロッパ都市と分節化の政治—
4	—合理性、知性、市場経済
5	—野蛮性、収奪、奴隷
6	都市社会への理論的まなざし②—移民国家アメリカの都市社会とシカゴ学派
7	—アメリカ合衆国の都市化とその歴史的背景
8	—シカゴ学派の理論的枠組み（形式社会学／進化論／生態学）
9	—同心円地帯モデルと進化の空間図式
10	—映像でみるアメリカ都市の空間構造
11	都市社会への理論的まなざし③—デュボイスの都市研究とブラックソシオロジー
12	—デュボイスの都市研究とその功績
13	—ブラックソシオロジーの再検討
14	—マイノリティへのまなざしと身体・空間の政治
15	都市社会学 I の総括
16	

【履修上の注意事項】

本講義は個人による課題提出、またはワークショップ形式のグループ学習を取り入れるので、受講生自ら積極的に関わるように。また出席確認をとる。

【評価方法】

個人またはグループでの課題の提出物の内容（50%）、グループ学習への参加度とプレゼンテーションの内容（30%）、出席および受講状況（20%）の割合で評価する。

【テキスト】

テキストはとくにないが、適宜紹介する。

【参考文献】

町村敬志、西澤晃彦著『都市の社会学』有斐閣・見田宗介、他編『現代社会の社会学』岩波書店
その他、講義の中で適宜紹介していく。

都市社会学Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

都市社会学Ⅱでは、日本における都市化の様相と都市社会学の展開、さらに今日の都市社会学研究において注目を集める「空間論」「権力論」をベースに、郊外空間（サバービア）や大衆消費社会的都市空間について考える講義内容とする。とくに、郊外空間を社会学的に読み解くうえで戦後日本の「アメリカニズム」や、マルクス主義都市社会学（新都市社会学）の集会的消費施設論、さらに大型ショッピングモールを中心とした都市空間のありようを読み解くうえで重要な「テーマパーク論」の視座を紹介し、受講生の実践的な学習のなかで応用してもらう。

【授業の展開計画】

毎回の講義に際しては、まず冒頭で前回の講義内容に関する「おさらい」的な応答で開始する。次に、講義の本題に入ると基本的に教員からの「発話」が中心となるが、適宜、受講生個人またはグループで学習してもらう。グループ学習は主にワークショップ形式をとるので、あまり緊張せずにリラックスして挑んで欲しい。

週	授 業 の 内 容
1	都市社会学Ⅱへの招待
2	日本における近代的都市化①—1920年代を中心に
3	日本における近代的都市化②—1950年代後半～1960年代を中心に
4	日本における近代的都市化③—1980年代後半～90年代初頭を中心に
5	日本における都市社会学の展開①—結節機関論と「正常人口の正常生活」概念
6	日本における都市社会学の展開②—第三の空間論とコミュニティ研究
7	日本における都市社会学の展開③—エスニシティ研究と世界都市論の台頭
8	日本における都市社会学の展開④—マルクス主義の波及と資本・国家・空間の文脈
9	日本における都市社会学の展開⑤—空間の生産主体論と都市エスノグラフィ
10	空間の権力性に関する理論的視座①—空間の権力性に関する理論的視座
11	空間の権力性に関する理論的視座②—「郊外」というせめぎあう舞台
12	空間の権力性に関する理論的視座③—アメリカ化／マクドナルド化と集会的消費
13	空間の権力性に関する理論的視座④—テーマパーク論のテキスト
14	空間の権力性に関する理論的視座⑤—郊外化する沖縄の都市空間とショッピングモール
15	都市社会学Ⅱの総括
16	

【履修上の注意事項】

本講義は個人による課題提出、またはワークショップ形式のグループ学習を取り入れるので、受講生自ら積極的に関わるように。また出席確認をとる。

【評価方法】

個人またはグループでの課題の提出物の内容（50%）、グループ学習への参加度とプレゼンテーションの内容（30%）、出席および受講状況（20%）の割合で評価する。

【テキスト】

グループ学習への参加度。レスポンスの提出状況。レポート等の課題提出などにおいて評価する。

【参考文献】

町村敬志、西澤晃彦著『都市の社会学』有斐閣・見田宗介、他編『現代社会の社会学』岩波書店
その他、講義の中で適宜紹介していく。

動作法

担当教員 平山 篤史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

動作法は心理療法の一つである。自分自身の姿勢や動きをコントロールし、「動作課題」の達成に向けて、主体的に取り組む過程で、当人が実感する心身の感じ方や取り組み方を変化させるものである。姿勢や動作の改善や、ストレスマネジメントなど様々な対象者への心身の援助に効果を発揮している。この授業では動作法の理論の学習と実技を行い、動作法を日々の生活に生かすことや、援助技法として活用することを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション ー相手の身体に触れることに関する諸注意ー
2	動作法の歴史と理論～催眠から動作へ～
3	動作法による援助の基礎
4	動作法の援助の考え方と基本
5	リラクセーションの見方、考え方
6	リラクセーションの実技 軀幹 1
7	リラクセーションの実技 軀幹 2
8	リラクセーションの実技 肩を中心としたリラクセーション
9	リラクセーションの実技 股関節を中心としたリラクセーション
10	リラクセーションの実技 総合
11	動作法の臨床事例
12	タテ系動作課題について
13	座位姿勢の実技①
14	座位姿勢の実技②
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

本授業では催眠や動作法について、実習を通して、受講者が互いに援助者体験・被援助者体験をする。相手のところに深く関わる技法であるため、実技では相手を思いやり、相手のところを踏みにじらないことが絶対の条件である。そのため、実技の際にこれらを犯す者は動作法を行う資格に欠けると判断し、受講を取り消すことがある。実技の際は、床に座ることや横になることが多いので、動きやすい服装で受講すること。

【評価方法】

出席、受講中の態度や実技実習への取り組み、毎回のミニレポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

適宜、資料を配布する。

【参考文献】

「動作法ハンドブック 基礎編」 慶応大学出版

日本の国際協力

担当教員 徳元 貴子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、まず、(1) 国際協力の現状と課題を知るために、私たちの日常生活の「衣食住」が、世界の情勢とどのようにつながっているかを検討する。また、(2) 国、企業、個人や民間団体の活動内容やそれらが及ぼす影響を考察し、今日の世界情勢の中でいかなる「国際協力」が求められているかを考える。これらの考察を踏まえ、受講生一人ひとりが、望ましい「国際協力」とは何か、それをどのように実現するのかを、自らの日常生活との関連の中で考えることを狙いとする。

【授業の展開計画】

講義中に詳細を説明する

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

認知心理学

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、認知心理学の主要なテーマである、知覚、記憶、思考、言語、情動、注意と意識などについて、認知心理学の研究の知見を具体的な実験を紹介しながら概説する。さらに、「日常生活における認知活動」について観察し、考え、ディスカッションをしてみるというワークを通して、認知過程について具体的に理解していくことを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	認知とは・認知心理学とは
3	日常における認知過程
4	知覚①
5	知覚②
6	記憶①
7	記憶②
8	注意と意識①
9	注意と意識②
10	認知と情動
11	言語
12	思考・創造性
13	問題解決・考える技術①
14	問題解決・考える技術②
15	認知とは・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

授業では、「ものごと認識すること、理解すること、考えること」というこころの働きと日常における「認知と感情と行動の関係」について、考えたり、話し合ったりする機会をできるだけ持ちたい。主体的に、「考えること」を楽しんでみたい学生の参加を希望する。

【評価方法】

出席：キーワード調べ、クイズへの回答などをもって出席点とする
 ワーク：認知心理学に関連する課題をいくつか課す
 期末課題：学期末にレポート課題を課す
 出席、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である

【テキスト】

- ・テキストは、初回の講義時に紹介する予定である
- ・その他、必要な資料を授業時に配布する予定である

【参考文献】

授業時に適宜配布する。

発達心理学 I

担当教員 金武 育子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史、主要な研究・研究者、重要な理論等を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思います。発達心理学 I（前期）では、発達心理学の変遷、理論、研究法を概説し、誕生～青年期までについて取り上げる予定です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	発達心理学の変遷と研究法①：発達心理学の歴史概説する
3	発達心理学の変遷と研究法②：発達心理学の研究法を概説する
4	発達理論①：主要な理論について紹介する（フロイト）
5	発達理論②：主要な理論について紹介する（ピアジェ）
6	発達理論③：主要な理論について紹介する（エリクソン）
7	発達理論④：主要な理論について紹介する
8	胎児期：胎児期の発達の様子
9	乳幼児期：乳幼児期の発達の様子
10	幼児前期：幼児期の発達の様子①
11	幼児後期：幼児期の発達の様子②
12	児童期：児童期の発達の様子
13	青年期①：青年期の課題①
14	青年期②： 〃 ②
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・自分自身で自主的に考え、行動し、発達心理学の視点を身に付けてください。
- ・過度の遅刻、私語、携帯電話の使用など、自己制御（管理）可能な方のみ受講してください。

【評価方法】

出席、レポート&各回のコメント、期末試験（1回）を総合的に評価する予定である。

【テキスト】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版

【参考文献】

柏木恵子・古沢頼雄 「（新版）発達心理学への招待（人間発達をひも解く30の扉）ミネルヴァ書房
その他、講義中に適宜紹介する

発達心理学Ⅱ

担当教員 金武 育子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史、主要な研究・研究者、重要な理論等を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思います。発達心理学Ⅱ（後期）では、青年期から老年期までを取り上げ、発達臨床の視点も紹介する予定です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	発達理論①：主要な理論について紹介する
3	発達理論②：主要な理論について紹介する
4	発達理論③：主要な理論について紹介する
5	胎児期から青年期①：概観①
6	胎児期から青年期②：概観②
7	青年期：青年期の課題
8	成人前期：成人前期の発達の様子①発達課題
9	成人前期：成人前期の発達の様子②適応
10	成人中期：成人中期の発達の様子①発達課題
11	成人中期：成人中期の発達の様子②適応
12	成人後期：成人後期の発達の様子①発達課題
13	発達課題について：まとめ
14	発達研究：展望と課題
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・自分自身で自主的に考え、行動し、発達心理学の視点を身に付けてください。
- ・過度の遅刻、私語、携帯電話の使用など、自己制御（管理）可能な方のみ受講してください。

【評価方法】

出席、レポート&各回のコメント、期末試験（1回）を総合的に評価する予定である。

【テキスト】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版

【参考文献】

柏木恵子・古沢頼雄 「（新版）発達心理学への招待（人間発達をひも解く30の扉）ミネルヴァ書房
その他、講義中に適宜紹介する

発達臨床心理学

担当教員 財部 盛久

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業は前期開講の障害児・者心理学を基礎として、学習障害、注意欠陥/多動性障害、自閉症スペクトラム障害、知的障害を主な対象とした発達障害の心理臨床について概説をする。おもな授業内容は発達障害のアセスメントおよび発達障害の理解と支援に際しての基礎理論、そして心理臨床としてコミュニケーション支援、日常生活支援の実践そして親支援に関するテーマを取り上げる。

【授業の展開計画】

- 第 1回：オリエンテーション
- 第 2回：発達障害概論
- 第 3回：発達障害とアセスメント (1)
- 第 4回：発達障害とアセスメント (2)
- 第 5回：発達障害支援の基礎理論 (1)
- 第 6回：発達障害支援の基礎理論 (2)
- 第 7回：発達障害支援の基礎理論 (3)
- 第 8回：発達障害と心理臨床 (1)
- 第 9回：発達障害と心理臨床 (2)
- 第10回：発達障害と心理臨床 (3)
- 第11回：発達障害と心理臨床 (4)
- 第12回：発達障害と心理臨床 (5)
- 第13回：発達障害と心理臨床 (6)
- 第14回：発達障害と心理臨床 (7)
- 第15回：発達障害と心理臨床 (8)
- 第16回：試験

【履修上の注意事項】

この授業は受講生自身が積極的に考え、学ぶことを基本にしている。したがって、常に疑問をもち、それを解決しようとする姿勢をもって授業に参加のこと。また、授業に遅刻や欠席をせず、受講する自信のあることが前提条件である。

【評価方法】

授業への参加状況、課題に対する取り組みおよび試験により総合的に評価する。授業中、ただ黙って座っているだけでは評価の対象にはならないので、そのことは了解しておいて欲しい。特に授業に出席する際は、予習課題を十分に理解し、毎回の授業で実施する小テストは評価の際に考慮する。

【テキスト】

資料を適宜配布するので特にテキストの指定はしない。授業の内容を深く理解するためには以下の図書は参考になる。

【参考文献】

『行動障害の理解と援助』長畑正道他編著 『自閉症とこころの臨床』小林隆児・原田理歩著 『発達障害の子どもたち』杉山登志郎著 『LD (学習障害) とADHD (注意欠陥多動性障害)』上野一彦著

犯罪心理学

担当教員 山入端 津由

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

犯罪や非行とは何かについて、犯罪・非行の研究史や、現代における犯罪・非行研究を通して学ぶ。また、社会行動としての犯罪・非行について、発生機序、深度及び、社会における統制・対処策についても学ぶ。基本的に、犯罪や非行について、社会・文化的な脈絡で理解することをめざす。

【授業の展開計画】

- 1 犯罪・非行はどのように理解されてきたか（総論）
- 2 犯罪・非行研究の歴史（犯罪の原因論）
- 3 犯罪・非行とは何か
- 4 犯罪・非行理解のモデル(1)
人は、どうして犯罪を冒すのか？
- 5 犯罪・非行理解のモデル(2)
人は、どうして犯罪を冒さないのか？
- 6 犯罪・非行理解のモデル(3)
犯罪・非行の人格要因と環境要因
犯罪・非行の類型論（動機論とラベリング理論等）
- 7 犯罪・非行の発生過程
- 8 犯罪・非行の手口と深度分析
- 9 犯罪・非行の予防と対策～犯罪・非行の抑止政策と背景理論
- 10 警察・検察、矯正・保護・司法の処遇システム
- 11 矯正教育と犯罪・非行
- 12 犯罪の被害者と修復
- 13 犯罪・非行と地域支援
- 14 社会・制度・逸脱・病理・狂気
- 15 講義のまとめと討議
- 16 テスト

【履修上の注意事項】

毎回、講義内容についてのコメントを求めするので、きちんと講義を理解すること。

【評価方法】

理解度をみるためのテストを行う。その他、受講態度、発言回数等を参考にする。

【テキスト】

特に指定しないが、適宜、紹介する。

【参考文献】

- ① 細江達郎 2003 図解雑学 犯罪心理学 ナツメ社
- ② 大淵憲一 2006 心理学の世界 専門編4 犯罪心理学—犯罪の原因をどこまで求めるのか 培風館
- ③ 石田幸平・武井慎次（編） 犯罪心理学 東海大学出版会

福祉英語基礎

担当教員 ーロビンソン サイモン

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

This course is designed to introduce students to speaking English for communication

【授業の展開計画】

Students will engage in a number of pair and group speaking activities around the theme of self-introduction, in order to get them used to speaking English for communication.

【履修上の注意事項】

【評価方法】

Students will be assessed on their attendance, participation and on a final speaking test.

【テキスト】

There is no required text for this course.

【参考文献】

福祉英語 I

担当教員 ーロビンソン サイモン

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

To introduce students to essay writing in English and have them write essays on social welfare themes.

【授業の展開計画】

Students will do a series of guided exercises to develop their ability to write in English. They will then write essays explaining social welfare issues and potential solutions in English. Presentations will also be a part of this course.

【履修上の注意事項】

Regular attendance is extremely important for this course, as is timely completion of the assignments.

【評価方法】

Students will be assessed on their essays and presentations.

【テキスト】

【参考文献】

福祉英語Ⅱ

担当教員 ーロビンソン サイモン

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

To further develop students' ability to discuss social welfare issues in presentations and essays.

【授業の展開計画】

Students will write essays and make presentations on social welfare themes. The teacher will provide ongoing feedback to help develop the students writing and presenting abilities.

【履修上の注意事項】

【評価方法】

Students will be assessed on their essays and presentations.

【テキスト】

【参考文献】

福祉英語Ⅲ

担当教員 ーロビンソン サイモン

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

To further develop the students' ability to discuss welfare issues in English

【授業の展開計画】

The students will write essays, make presentations, and engage in debates in order to discuss social welfare issues.

【履修上の注意事項】

【評価方法】

The students' essays, presentations and debates will be assessed, as will participation and attendance.

【テキスト】

【参考文献】

福祉行財政と福祉計画

担当教員 金城 鍛

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

従来の福祉実践は、国が立案する社会福祉制度の枠組みに基づいて実施されてきたが、1990年代以降の市町村を中心とするサービス提供が展開されるなど実施主体が幅広い参入が促進されるようになった。こうした社会福祉基礎構造改革後の動向についてまとめるとともに、社会福祉制度の基盤について学習、財政の動向及びこれらの具体的な実施計画である福祉計画の仕組み、実態についてほりさげていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	福祉とは、社会福祉とはについて考える。
2	社会福祉制度の展開過程について
3	国と地方自治体の関係、行財政改革の動きについて
4	社会福祉基礎構造改革について
5	福祉財政について(1)
6	同 (2)
7	福祉専門機関とその役割
8	相談体制と専門職の役割
9	福祉計画の目的・意義について
10	各福祉計画の概要について
11	福祉援助の現場と福祉計画の検証(1)
12	福祉援助の現場と福祉計画の検証(2)
13	福祉計画における住民参加の在り方について(1)
14	福祉計画の評価について
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

講義の中で定期する課題についてのレポート及び期末テストの結果による。

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座 第10巻「福祉行財政と福祉計画」第2版 中央法規

【参考文献】

福祉サービス組織と経営

担当教員 一名 嘉 隆一

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会福祉施設・福祉サービス組織と経営の基本的知識

【授業の展開計画】

社会福祉は措置時代から利用者契約時代へと変化している。その根底には個の時代という認識がある。社会福祉構造改革や介護保険法・支援費制度の導入により社会福祉施設・福祉サービス組織を取り巻く経営環境は大きく変化している。少子超高齢化社会に向かい子どもおよび老人福祉の需要が一段と高まっているが、国家財政も地方自治体の財政も逼迫している。そうした財政環境のなかで、社会福祉施設・福祉サービス組織の経営環境は変化している。経営を確立し利用者へのサービスの管理の充実、在宅福祉サービスの提供、家族再生への支援など施設の社会化・施設・サービス組織の社会資源化が指摘されている。より高度な法人・施設の経営が求められている。本講座はその基本的知識を学ぶ。

- 社会福祉施設の体系と制度
- 生活困窮者・老人・身体障害（児）者・知的障害者（児）・児童・精神障害者・その他母子等・その他に対する施設の種類と生活
- 社会福祉施設経営と社会福祉法人の課題
- 社会福祉施設・福祉サービス組織と地域社会
- 社会福祉施設・福祉サービス組織における人材育成
- 経営環境の変化

【履修上の注意事項】

講義時に指示

【評価方法】

講義時に指示

【テキスト】

教師が講義資料作成

【参考文献】

講義時に指示

福祉の思想

担当教員 新垣 誠正

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間として生きるために自立・自律することは、われわれのもっとも基本的な根底をなしている。しかしながら、事情によって自立がかなわない人びとがいる。そのような人びとに自立のための援助を行うことは、当然のことである。しかし、精神と身体をもつ人間として、自立に向けた援助を行うということはどういうことであるのかということが、問われなければならない。このような根底の問題を視野にすえて、福祉の問題を思想的・哲学的に考えていこうとするのが、この科目の目指すところである。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	はじめに
2	「個」の自立（1）
3	「個」の自立（2）
4	「自律」の回復（1）
5	「自律」の回復（2）
6	「自律」の回復（3）
7	「個」の創造
8	「自由」と「人権」（1）
9	「自由」と「人権」（2）
10	「自由」と「人権」（3）
11	「権利」（1）
12	「権利」（2）
13	生存保障（1）
14	生存保障（2）
15	おわりに
16	テスト

【履修上の注意事項】

毎回出欠の確認をする。三分の一以上欠席すると、単位の認定が不可となるので注意してほしい。

【評価方法】

最終テストのほかに随時ミニ・テストを実施する。それらを統合して評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

そのつど、教室で指示する。

フレッシュマンセミナー

担当教員 トナルト・クレイグ・ウィルコックス、安次富 郁哉、岩田 直子、桃原 一彦、保良 昌徳

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

この科目は新入生を対象とした大学教育へのオリエンテーション的な内容を持つゼミナールで、入学年度（編入生は初年次）前期で履修するものである。合同研修や大学における学習のための研修を学年合同で行なっていく。同時に専攻教員による個別ゼミも行い、ゼミ担当教員がアカデミックアドバイザーとして指導を行う。クラス編制は専攻会議において行う。なお、後期開講の「基礎演習」は「フレッシュマンセミナー」と同じアカデミックアドバイザーのクラスに登録すること。

【授業の展開計画】

本科目は初年次学生向けのオリエンテーション的な内容であるため、大学生活や大学環境・サービス・仕組み等について理解していくことを内容に盛り込んでいく（図書館オリエンテーションも含む）。

また、人間福祉学科全体（心理カウンセリング専攻学生と）の合同プログラムも予定している。つまり、5月には福祉・心理専攻新入生合同の“一日研修”を本学体育館で開催し、福祉レクや心理学的ゲーム、障害者スポーツなど専攻の枠を越えて全体で体験し“仲間づくり”を目的としたプログラムを予定している。

さらに、専攻各教員をアカデミックアドバイザーとしたクラス別の個別ゼミにおいては、ゼミ担当教員の個性や専門領域に合わせた内容で大学生活の基礎作りを目指してプログラムを行う。その中では、アカデミックアドバイザーによる個別の履修指導やその他学生生活の相談等も行う。

【履修上の注意事項】

成績評価と関連するが、出席状況とプログラムへの取り組みが大きな目安となる。よって、出席と積極的な姿勢を心がけること。

【評価方法】

全体ゼミや個別クラスにおける出席状況を重視するが、個々のプログラムに取り組む姿勢等も考慮する。なお、最終評価は各アカデミックアドバイザーからの報告をもって行う。

【テキスト】

とくにない、適宜プリント等を配布する。

【参考文献】

とくにない、適宜プリント等を配布する。

保健医療サービス

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

わが国における保健医療サービスの基本的な構造と変遷を習得する。また、高齢社会を背景として、保健・医療・福祉の連携が重要となってきたが、その理論と実践について学ぶ。さらに、保健医療サービス提供に関わる専門職の役割と相互の連携のあり方、チームケアのあり方を理解する。

これからの社会福祉士に求められるのは、単に福祉の知識のみでなく、保健・医療の知識を含めた総合力であることを念頭において受講すること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	保健医療サービスとその構成要素
3	保健医療サービス提供施設① 病院ってなに？診療所ってなに？
4	保健医療サービス提供施設② いろいろな種類の病院があるんだね。
5	保健医療サービス提供施設③ 老人保健施設
6	保健医療サービスの専門職とその役割① 医療従事者 社会福祉士
7	保健医療サービスの専門職とその役割② 医療ソーシャルワーカーって？
8	関連法規：医療法①
9	関連法規：医療法②
10	関連法規：介護保険制度と介護報酬
11	保健医療サービスの連携の理論と実践① 専門職との連携
12	保健医療サービスの連携の理論と実践② 専門職との連携
13	保健医療サービスの連携の理論と実践① 社会資源間連携
14	保健医療サービスの連携の理論と実践② 社会資源間連携
15	講義の振り返り
16	試験実施

【履修上の注意事項】

社会福祉士の資格取得を考えている皆さんには重要な科目であり、知識です。特に医療ソーシャルワーカーを目指す学生の皆さんは是非履修してください。

【評価方法】

学期末に実施する試験および複数回実施する復習試験（まめテスト）で客観的評価をします。なお、出席および課題提出も評価の判断材料とします。

【テキスト】

「保健医療サービス」 社会福祉士養成講座（中央法規）

【参考文献】

「国民衛生の動向」「厚生労働白書」「国民福祉の動向」「高齢社会白書」など。講義の中で随時アナウンスします。

ボランティア・NPO論

担当教員 一住 直広

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

行政運営が厳しさを増す中、まちづくりへの多様な主体の参画、セクター毎の役割分担が求められています。そんな中、NPOを含めた市民の果たす役割はますます重要になってきています。私たちは、これからの社会において、個人個人の意思決定と行動と責任が求められますが、この講義ではそのためのノウハウ、実践論を学ぶことを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	NPO、ボランティアとは
3	社会の発展
4	社会学的想像力
5	社会のしくみ
6	市民社会とは
7	メディアリテラシー、リサーチリテラシー
8	地域を知る方法
9	地域を変える方法①
10	地域を変える方法②
11	地域を支える経済的しくみ①
12	地域を支える経済的しくみ②
13	地域に参加する技法（参加型グループ学習）①
14	地域に参加する技法（参加型グループ学習）②
15	
16	テスト

【履修上の注意事項】

私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。

【評価方法】

レポート、テスト、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する。

【参考文献】

適宜指示する。

ボランティア演習

担当教員 一砂川 亜紀美

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本演習は、①現場での実践を通して体験的にボランティア活動の意義について理解するとともに、②実際にボランティア活動を実施するために必要なスキル（企画・設計・実践）を習得し、③将来ボランティアの活動を支援する専門家（ボランティアコーディネーター）として活動できる人材を育成することを目的とする。具体的な取り組み方法としては、グループ毎にボランティアに関する情報収集・企画・設計を行い、ボランティア活動の実践へ繋げる。さらに、実践したことから得られた成果や課題等を明確にするために活動報告会及び報告書作成を行う。

【授業の展開計画】

*ボランティアに関する体験講座に関しては、適宜設定することとする。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期ガイダンス	17	ボランティアに関する講習会
2	仲間づくりのためのアクティビティ	18	ボランティア活動の実践・体験講座⑤
3	ボランティア領域設定とグループ分け	19	ボランティア活動の実践・体験講座⑥
4	ボランティアに関する講習会	20	ボランティア活動の実践・体験講座⑦
5	ボランティアに関する情報収集①	21	ボランティア活動の実践・体験講座⑧
6	ボランティアに関する情報収集②	22	ボランティア活動の実践・体験講座⑨
7	ボランティア活動の企画・設計①	23	ボランティア活動の実践・体験講座⑩
8	ボランティア活動の企画・設計②	24	活動のまとめ①
9	ボランティア活動の企画・設計③	25	活動のまとめ②
10	ボランティア活動の実践・体験講座①	26	報告書の作成①
11	ボランティア活動の実践・体験講座②	27	報告書の作成②
12	ボランティア活動の実践・体験講座③	28	活動報告会の準備①
13	ボランティア活動の実践・体験講座④	29	活動報告会の準備②
14	中間報告準備	30	活動報告会の実施
15	中間報告会	31	振り返り
16	後期ガイダンス		

【履修上の注意事項】

- ①グループ活動では、知識や経験を共有しあう場となるよう主体的に取り組むこと。
- ②各自、一年をとおしてボランティア活動に取り組むことが望ましい。
- ③福祉・ボランティア支援室などを活用し、ボランティアに関する情報を積極的に収集すること。

【評価方法】

授業への参加状況、受講態度、グループ活動に対する積極性、ボランティア活動状況（活動報告書提出状況）、等により総合的に評価する。

【テキスト】

演習の中で、その都度資料等を配布する。

【参考文献】

- ①「大学生のためのボランティア活動ハンドブック」ふくろう出版
 - ②「ボランティア・コーディネーター—その理論と実際—」大阪ボランティア協会
- その他、演習の中で適宜紹介する。

ライティング・スキル

担当教員 小柳 正弘

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本語教育の手法も援用して、日本語の作文技術を、実践的に習得することをめざす（あわせて「書く」ことを中心とする「知的生産」全体に関する理論的な検討もおこなう）。基礎的な練習問題を繰り返し、実際にレポートを作成することが授業の中核となるので、授業に主体的に参加しなければ単位は取得できない。各人が書いたものは授業の素材として公開する。★第1回のオリエンテーションに出席しなければ登録を取り消す。★

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション(出席しなければ、原則、登録を認めないし、実質、単位が取得できない)
2	知的生産とは何か [梅棹忠夫、ジョン・ケージ、山根一眞、立花隆]
3	作文技術の古典[清水/木下/本多] 作文技術の見取図[野口]メッセージ/形式と内容/説得力/推敲
4	読み書きの勘どころ [野口悠紀雄]
5	パラグラフ・ライティング (1) トピック・センテンスとサポーター・センテンス
6	パラグラフ・ライティング (2) 段落を作る練習
7	レポートを書くために (1) 作成の手順
8	レポートを書くために (2) 段落構成
9	レポートを書くために (3) 文体・表現・書式
10	レポートをかいてみる (1) 問題構成・準備
11	レポートをかいてみる (2) 作成・添削
12	レポートをかいてみる (3) 作成・添削
13	レポートをかいてみる (4) 発表
14	時間があれば、論理の基本 (1) 論理的であるとはどういうことか
15	時間があれば、論理の基本 (2) 演繹・帰納・仮説演繹法
16	まとめのテスト

【履修上の注意事項】

授業への実質的で積極的な参加を強くもとめる。受講者それぞれが書いたものは授業の素材としてすべて公開する。「書く」ことのみならず「知的生産」一般もテーマ。自分の言いたいことをきちんと書いたり話すことができ、他人の言いたいことをきちんと読んだり聞きとることができるような能力を練磨しようとする意欲や気概のある受講者を望む。教室では私語は厳禁。質問は原則授業中に行うこと（問題を教室で共有する）。第1回のオリエンテーションに出席しなければ登録を取り消す。

【評価方法】

授業への実質的な関わり（課題の提出や発言の記録）とまとめのテストを総合的に評価する。

【テキスト】

課題や資料を整理・保管するファイル類を各自準備すること（課題や資料の整理方法も評価の対象とする）。資料を配付する他、授業の展開に応じて別途指示する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

臨床心理学 I

担当教員 牛田 洋一

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「臨床心理学 I」においては、臨床心理学という学問の学問的位置づけと、その対象、基礎的理論、基礎的方法について、できるだけ幅広く具体的に解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、学生諸君が今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 臨床心理学とは：歴史的背景・援助の対象・臨床心理学の領域
3. 臨床心理学的諸問題：問題の分類とその基準
4. 臨床心理学的諸問題：小児の問題（発達障害、不登校など）
5. 臨床心理学的諸問題：思春期以降の問題（パーソナリティー障害など）
6. 臨床心理学的諸問題：老年期の問題、その他（認知症など）
7. 臨床心理学の基礎理論：人格理論（フロイト、ロジャーズなど）
8. 臨床心理学の基礎理論：発達理論（マラー、ウィニコットなど）
9. 臨床心理学的方法：心理アセスメント（知能の評価）
10. 臨床心理学的方法：心理アセスメント（パーソナリティーの評価）
11. 臨床心理学的方法：心理療法 1（来談者中心療法・認知療法など）
12. 臨床心理学的方法：心理療法 2（箱庭療法・芸術療法など）
13. 臨床心理学的方法：心理療法 3（家族療法・短期療法）
14. 臨床心理学的方法：心理療法 4（家族療法・短期療法）
15. 臨床心理学的方法：まとめ
16. 試験

【履修上の注意事項】

講義には学生として、また社会人としての常識ある態度で臨むこと。
自ら積極的に考えていくような受講態度を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

各講義時に適宜ハンドアウト資料を作成し配布する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床心理学 I

担当教員 大嶺 歩

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床心理学の学問的な位置づけと諸理論、技法について幅広く学ぶ。さまざまな心の問題について考え、臨床心理学としてどうとらえ、関わっていくのかについて紹介する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	臨床心理学とは
3	臨床心理学の実践
4	臨床心理学の理論と技法 (1) 精神分析療法、クライアント中心療法など
5	臨床心理学の理論と技法 (2) 認知行動療法ほか
6	臨床心理学の理論と技法 (3) 家族療法、コミュニティ心理学など
7	アセスメント (1) 検査法
8	アセスメント (2) 知能検査を中心に
9	発達障害 (1)
10	発達障害 (2)
11	臨床心理学の対象となる心の問題 (精神障害を中心に)
12	臨床心理学の対象となる心の問題 (家族関係、認知症など)
13	臨床心理学の研究活動 (実践に関する研究)
14	臨床心理学の社会的専門性 (諸領域にわたる心理援助、職業倫理)
15	これまでのまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

どのテーマについても自主的に学び、深めようという積極的な態度を求める。

【評価方法】

出席、試験、コメントシートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はしない。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

臨床心理学Ⅱ

担当教員 牛田 洋一

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「臨床心理学Ⅱ」においては、「臨床心理学Ⅰ」において解説した臨床心理学が扱う諸問題、基礎的な治療理論、臨床心理学的方法について特に重要だと思われるものをより深めて解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、学生諸君が今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 臨床心理学的諸問題：パーソナリティ障害を少し詳しく
3. 臨床心理学的諸問題：統合失調症その他の興味深い疾病を中心に
4. 臨床心理学的諸問題：被災者支援における臨床心理学の役割
5. 臨床心理学の基礎理論：フロイトの理論と精神分析
6. 臨床心理学的方法：投影法1 P-Fスタディー
7. 臨床心理学的方法：投影法2 ロールシャッハ・テスト
8. 臨床心理学的方法：認知行動療法（特にエリスの論理療法）
9. 臨床心理学的方法：短期療法1（MR Iアプローチ）
10. 臨床心理学的方法：短期療法2（BFTCアプローチ）
11. 臨床心理学的トピック：治療的コミュニケーションの語用論
12. 臨床心理学的トピック：短期療法と治療言語
13. 臨床心理学的トピック：心と現代の脳科学（ビデオを利用して）
14. 臨床心理学的トピック：まとめとその他興味深いトピックがあれば
15. 全体のまとめ
16. 試験

【履修上の注意事項】

「臨床心理学Ⅰ」を受講していることが望ましい。
講義には学生として、また社会人としての常識ある態度で臨むこと。
自ら積極的に考えていくような受講態度を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

講義のなかで適宜資料を配布する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床心理学Ⅱ

担当教員 大嶺 歩

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床心理学Ⅱでは、臨床心理学Ⅰで紹介した理論や技法、心の問題についての理解をより深めるため、架空事例を取り上げて解説する。また、予防的観点からの取り組みについても紹介する。この講義を通して、対人援助の基礎や柔軟な視点を持つということについて学んでほしい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	青年期の課題について
3	自我の発達論について
4	検査法 (1) 質問紙法
5	検査法 (2) 投影法
6	発達障害 (大人のアスペルガー症候群)
7	学校臨床について
8	強迫性障害について
9	気分障害について
10	統合失調症について
11	人格障害について
12	依存症について
13	自殺予防の取り組み
14	解決志向アプローチ
15	まとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

どのテーマについても自主的に学び、深めようという積極的な態度を求める。

【評価方法】

出席、試験、コメントシートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はしない。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

臨床面接法 I

担当教員 平山 篤史

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

乳幼児期から老年期までの各発達段階における心理臨床的援助の特徴、基本的な留意点を解説する。また、その発達段階における事例を紹介し、それに基づいてディスカッションも行う。講義を通して、受講者が心理療法面接の大枠を理解し、心理臨床的援助の奥深さを感じ取る。

また、自分の考えを述べ、他者の意見を聴くことで、社会との関わりの中で人間がどのように発達、成長を遂げ、生きていくのかについて、自分の問題に引きつけて考える機会を提供する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	心理臨床的援助のモデル、心理臨床的援助の過程
3	正常と異常、自我の機能と病態水準
4	心理臨床的援助の基本的留意点（乳幼児期）
5	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期）
6	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期・事例）
7	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～思春期）
8	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～思春期・事例）
9	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～後期）
10	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～後期・事例）
11	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期）
12	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期・事例）
13	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期）
14	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期・事例）
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」を履修済みのこと。（同時履修は可能）

講義中の私語や携帯電話は厳禁。受講者参加型の講義形式をとるため、受講者には自ら積極的に考える態度を求める。毎回の講義の後に講義・ディスカッションでの感想を提出する。

抽選となった場合は、4年次より優先し抽選する予定である。

【評価方法】

出席状況・毎回の授業の感想、及び期末のレポートにより評価する。

【テキスト】

講義のなかで適宜紹介する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床面接法Ⅱ

担当教員 井村 弘子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、臨床面接法に関する基礎的な理論を学ぶとともに、自分の内面を見つめたり、相手の気持ちを理解したりするためのワークやロールプレイなどを通して、臨床面接技法を体験的に学習することを目的とする。

【授業の展開計画】

1. はじめに（臨床面接の技法）
2. クライエントの話
3. 感情の反射
4. 焦点づけ
5. クライエントの質問
6. カウンセラーの質問（1）
7. 話し手と聞き手
8. 対話分析
9. クライエントへの応答
10. カウンセラーの質問（2）
11. カウンセラーの質問（3）
12. ケース理解
13. カウンセリングの実際
14. 援助的応答（1）
15. 援助的応答（2）
16. 学期末試験

【履修上の注意事項】

授業では、ペアや小グループでのワークが中心になる。段階を踏みながら臨床面接技法を身につけていくので、遅刻や欠席は厳禁。最後まで主体的な態度・姿勢で出席できる学生のみ受講してほしい。

【評価方法】

毎回ワークシートを配布し、授業の最後に提出してもらう。出席状況（ワークシートの提出状況）、学期末試験を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

毎回、資料とワークシートを配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

老年学概論 I

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

老年学とは、加齢に伴う心身の変化を研究し、高齢社会に起こるさまざまな問題を解決するための学問である。心身の加齢変化を追うには成長期から見ていく必要があり、社会的な側面では、高齢者と高齢者を取り巻く家族や若い世代との関係、さらには環境に至るまで視野に入る。老年医学、老年心理学、老年社会学などにまたがる学際的な研究と、ヘルスプロモーションなどを含む実践法を学び、問題解決のためのスキルを身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientation (オリエンテーション)
2	Challenge of Global Aging (世界全体の高齢化への挑戦)
3	Aging Japan: Healthy Urbanization and Aging (日本の高齢化社会)
4	Facts on Aging Quiz (高齢者に関するクイズ)
5	History of Aging and Images of Aging(高齢化の歴史と老化のイメージ)
6	Biology of Human Aging I (高齢化の生物学的理論 I)
7	Biology of Human Aging II (高齢化の生物学的理論 II)
8	Biology of Human Aging III (高齢化の生物学的理論 III)
9	Aging, Disability and Frailty I (加齢と障がいの理解 I)
10	Aging, Disability and Frailty II (加齢と障がいの理解 II)
11	Healthy Aging: Cross National Perspectives I(健康長寿:国際的な展望 I)
12	Healthy Aging: Cross National Perspectives II(健康長寿:国際的な展望 II)
13	Psychological Aspects of Aging I (高齢化の心理的側面)
14	Psychological Aspects of Aging II (心と知能の加齢現象)
15	Understanding Cognitive Disorders (認知症の理解)
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・上記の問題においてクラス討論が重要になるので、学生はテキスト、文献等を講義の前に読むこと。
- ・文献やクラス討論は、英語と日本語を併用する。

【評価方法】

出席状況(10%)、課題レポートの内容(10%)、講義中の議論内容(10%)、期末試験(70%)など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

Robert C. Atchley, Amanda S. Barusch, (2005) 『ジェロントロジー 加齢の価値と社会の力学』 きんざい。

【参考文献】

B. J. Willcox, D. C. Willcox and M. Suzuki (2001) The Okinawa Program, Random House.
 柴田 博・長田 久雄・芳賀 博・古谷野 亘 編著 (1993) 『老年学入門—学際的アプローチ』 川島書店。
 沖縄タイムス『長寿』取材班 (2004) 『沖縄が長寿でなくなる日』 岩波書店。講義時に適宜紹介する

老年学概論Ⅱ

担当教員 トナルト クレイグ ウィルコックス

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

老年学とは、加齢に伴う心身の変化を研究し、高齢社会に起こるさまざまな問題を解決するための学問である。心身の加齢変化を追うには成長期から見ていく必要があり、社会的な側面では、高齢者と高齢者を取り巻く家族や若い世代との関係、さらには環境に至るまで視野に入る。老年医学、老年心理学、老年社会学などにまたがる学際的な研究と、ヘルスプロモーションなどを含む実践法を学び、問題解決のためのスキルを身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientation オリエンテーション
2	Issues in Longevity Research in Japan:Missing Centenarians 日本における所在不明長寿者問題
3	Issues in Longevity Research Around the World 沖縄や日本と世界の長寿の研究
4	Social Aspects of Individual Aging 社会生活と加齢の関係
5	Activities and Lifestyles of Older Americans 米国の高齢者の活動・ライフスタイル
6	Successful Aging in Cultural Context 社会的・文化的分文脈におけるサクセスフル・エイジング
7	Family, Friends and Social Support 家族、友人などのソーシャルサポート
8	Social Inequality and Health I 社会的不平等と健康 I
9	Social Inequality and Health II 社会的不平等と健康 II
10	Health Care and Long Term Care Issues I 医療・福祉と介護 I
11	Health Care and Long Term Care Issues II 医療・福祉と介護 II
12	Social Policy, Politics and Government 社会的施策、政治と行政
13	Community Social and Services 地域サービス
14	Death, Dying and Hospice 死と死ぬこと、ホスピス
15	Spirituality, Aging and Health スピリチュアリティ、エイジングと健康
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・上記の問題においてクラス討論が重要になるので、学生はテキスト、文献等をクラスの前に読むこと。
- ・文献やクラス討論は、英語と日本語を併用する。

【評価方法】

出席状況(10%)、課題レポートの内容(10%)、講義中の議論内容(10%)、期末試験(70%)など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。

【テキスト】

Robert C. Atchley, Amanda S. Barusch, (2005) 『ジェロントロジー 加齢の価値と社会の力学』 きんざい。

【参考文献】

B. J. Willcox, D. C. Willcox and M. Suzuki (2001) The Okinawa Program, Random House.
 柴田 博・長田 久雄・芳賀 博・古谷野 亘 編著 (1993) 『老年学入門—学際的アプローチ』 川島書店。
 沖縄タイムス (2004) 『沖縄が長寿でなくなる日—“食”、“健康”、“生き方”を見つめなおす』 岩波書店。